京城日報

瑞光

大正八年春 浩堂題

◇エベルト辭職說
エベルト氏辭職し[illegible]之に代るべしとの說あり(巴里電報)
◇物資供給經路通告
[illegible]來に對する事業の基礎を定めた[illegible]巴里は石炭[illegible]は近日[illegible]を出せり(巴里電報)
長谷川總督試筆(上)
朝晴雪(下)
くオン呼代[illegible]
英國政界の大立物サー、チャーチル マッカラ氏日く目下ランカ[illegible]
くオブ代表者出發
北方代表者は二十九日南京に向け出發せり(北京電報)

朝晴雪 私擬應制 有序

帝御六龍、曆開三元、履端建寅、正始在木、赤城霞舉、呈禎祥於昌辰、紫禁日麗、揚慶瑞于新陽。伏惟
今上九五龍飛、奉神器以立極、統乾綱而稽範、允文允武、聖德日躋、克長克君、皇猷歲恢、鼎命體元、王正重八、萬邦具瞻、親善之誼月坲、兆民時雍、平章之揆日新。貔貅出塞、朔漠頓絕塵氛、艨艟衙海、西陲遂戮鯨鯢。威坲八荒、光格四表。是誠振古盛事、貽遠大謨、草莽微臣等、不知所以措辭。竊賦私擬應制一篇、以頌聖世

臘雪晴元旦 江山改舊姿
曆開添歲漏 春返隔年枝
太液瓊氷合 仙掌玉溜垂
兎園追漢賦 銀海記蘇詩
振旅班師日 建旄發軔時
戰塵銷朔漠 兵氣散西陲
洗眼韶年景 伸眉介壽巵
乾坤正淨盡 煌燿映晨曦

大正八年一月元旦
京城日報社員等

◇黒塞合併
＝公式に發表さる＝

アムステルダム來電＝塞國ベルグラードよりの報道に依れば黒山國及び塞耳維兩國合併の件は公式に發表せられたり（東京特電）

◇黒山國王退位

アムステルダム來電＝黒山國王ニコラスは既に退位せりとの報あり（東京特電）

◇土耳其破産

桑港來電＝伯林より傳へられたる或筋よりの情報に依れば土耳其は近く自ら國家的破産を宣言すべしと（東京特電）

◇講和會議順序

紐育來電＝或る處に依れば講和會議は先づ交戰國間の協議に依りて平和條約を締結したる後交戰國及び中立國の萬國會議を開き以て國際聯盟の組織を議す可し（巴里電報）

◇英佛代表者協定

巴里來電＝英佛代表者は講和問題に就き最も満足なる協定を見たり討議の範圍は頗る廣汎にしてウイルソン氏の十四箇條の項目をも含め會議に參加せる一政治家は曰く各自の間に取立て言ふべき程の意見の相違なかりしと言明すと（倫敦電報）

◇ウ氏佛首相會談

巴里來電＝米國大統領ウイルソン氏は佛國首相クレマンソー氏の邸宅に赴き會談四十五分に及べり（東京特電）

◇我講和委員宿所

巴里來電＝日本講和委員一行は巴里滞在中ブリストルホテルに止宿すべく同ホテルは稍古き時代の建築に係るもウンドル街に面し頗る景勝の地にあり（東京特電）

◇降服艦艇處分
ランシング氏撃沈說否認

華盛頓來電＝目下聯合國間の問題となりつゝある獨逸降服艦艇の處分に關し之を全部撃沈すべしとか或は降服艦艇を基礎として國際海軍を設置すべし等の議論米國より起りつゝあり尚米國政府は右艦艇を聯合國に分配することに反對すべしとの報傳へられつゝあるも米國々務卿ランシング氏は米國政府が獨逸艦艇撃沈說を主張せりとの說を全然否認せり（東京特電）

◇獨逸新憲法案

伯林内務省會議にて獨逸新憲法案立案されたるが重なる條項は（一）獨逸共和國大統領は國民直接選擧する事（二）内閣大臣は下院に席を有す（三）聯邦議會は共和國各聯邦代表者より成立（四）聯邦の自治權を擴張し小聯邦は隣接聯邦に合す（巴里電報）

◇衛戍總督武力干涉

伯林來電＝シエール大佐はレキス將軍に代り伯林衛戍總督に任命さる可くレ將軍はスパルタカス團に對する軍事行動を協議する爲めヒンデンブルク將軍の下に向へり尚伯林衛戍總督は強硬なる武力の干涉を爲すに決せり（巴里電報）

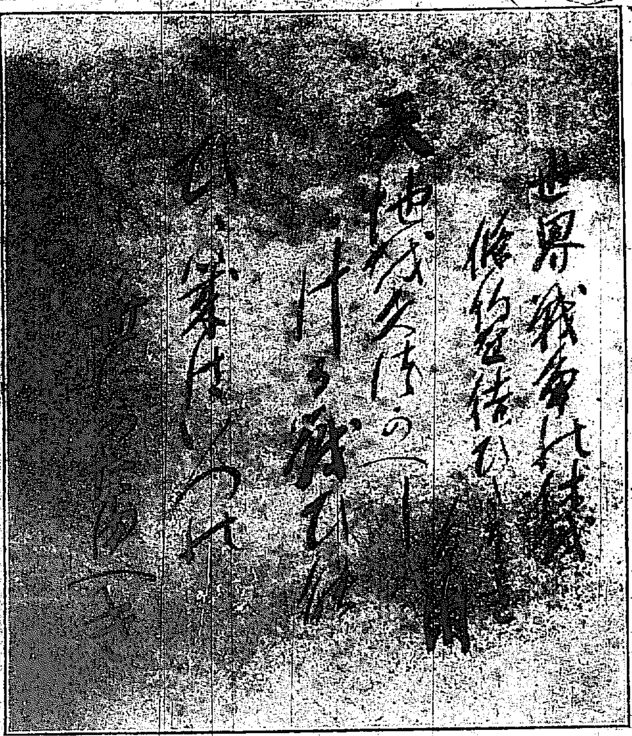
◇露西亞政府援助

佛外相は聲明して曰く聯合國は過激派勢力より脱せんとする露西亞の地方政府を援助する政策を續行せんと欲す（巴里電報）

◇陸軍船舶徵發

陸軍省にては西伯利派遣軍引揚準備の爲め川崎造船所新造九千噸級の郵船商船所屬船三隻を徵發し防寒具を滿載し浦鹽に向け出帆せしむる事となせり（東京電報）

山縣元帥試筆



◇小幡公使總統謁見

三十日午後四時小幡公使は總統に謁見し日本が支那内爭の即時終熄を希望する旨詳細傳達したり（北京特電）

◇選擧法改正案
新春匆々法制局へ廻附

内務省にては今期議會に衆議院議員選擧法中改正法律案を提出する目的にて審議中なるが新春匆々省議決定法制局に廻附する事となるべく右は大體に於て小選擧區採用規則の改正獨立選擧區の新設を認めたるものにて有權者の資格を直接國稅五圓となすか又は三圓と爲すか中學校卒業程度の學力を有する者に選擧權を與ふるや否や議員選出の人口の標準に關し端數切棄てと爲すか又は四捨五入すべきかに關しては今尚ほ懸案となり居れり但し大體に於て本案の通過を見れば議員數は四百七十名に達すべしと（東京特電）

◇天機奉伺

十二月二十九日歳末天機奉伺の爲め在京各宮殿下を始め奉り文武高官其他夫々參内せるが三十日も東久邇宮、閑院宮兩殿下は午前十時伏見宮、若宮兩殿下には同十一時相前後して御參内 天機奉伺の後歳末の辭を言上遊ばされ又林伯以下文武官は十一時三十分參内 天機を奉伺せり（東京特電）

◇聖上御容態
四方拜御儀御取止か

輕微なる御風氣にて御靜養中なる天皇陛下三十日御容態を拜承するに御體溫、御脈搏、御呼吸共に御平生に復させられ御稜も御平復あらせられしも尚侍醫の請願に依り一月一日午前四時執り行はせらる可き四方拜の御儀は或は御取止め仰出さるゝやも測り難しと洩れ承はる（東京特電）

◇立博士出發

講和會議に參列すべき立博士は十二月三十日午前十一時東京驛發汽車にて横濱に赴き正午出帆の汽船

▲總督府新年賀禮

元旦午前十一時より總督室に於て新年受賀式を行ふ可く右は例年總督官邸に於て擧行せらる、筈なるも本年は長谷川總督忌引中にて親く賀禮を受ざるより變更せられたる次第なり式場總督室正面には御眞影を奉安し總督代理國分司法部長官侍立左の通り祝賀を受くべし

一、總督府並に所屬官署（京城）勅任官
一、總督府官房各部（高等官三等以下各總代及び判任官總代）
一、所屬官署長官各自の官署員より祝賀を受けたる申報
一、李王職長官の祝賀及び前項の申報
一、中樞院副議長、顧問、贊議、副贊議
一、朝鮮貴族

▲所屬官署

在京所屬官署たる高等法院覆審法院地方法院通信局中樞院京畿道京城府總督府醫院監獄等の官署長は午前十時各所屬官署員より新年の祝賀を受けたる後直ちに總督府に參總督代理國分長官に申報すべし

▲軍司令部

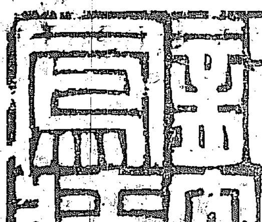
朝鮮軍司令部に於ける新年式順序左の如し

一、無位無勳下士判任文官同待遇者々員（軍司令官に對し賀詞）
一、將校同相當官高等文官御眞影拜賀（上長官以下は三乃至五列）軍司令官、將校同相當官（朝鮮、京城）參謀部、副官部、經理部、軍醫部、獸醫部、法官部、軍司令部附將校、陸軍倉庫、衛戍監獄、朝鮮憲兵隊

▲師團司令部

第十九師團司令部にては前項軍司令部にて擧行せし如き順序により新年祝賀式を行ひ高島第十九師團長御眞影拜賀其の順序方法前項に準ず

山縣政務總監試筆



文曰
龍顏
鳳裴
大石叔潤刻

▲警務官署

警務總監部新年祝賀式次第左の如し

一、參賀一月一日午前九時より司令部在勤判任官無位無勳者の參賀總監部在勤判任官以上有爵無位無勳者の參賀
一、祝賀午前九時五分より總監部高等判任官及び同待遇者各總代の祝賀京畿道警務部は觀賀申報
一、拜賀午前九時十分司令部總監部京城憲兵隊長各道警務部の各在勤高等官司令部總監部京城憲兵隊京畿道警務部の各在勤判任官總代京城憲兵隊京畿道警務部の各判任官待遇者司令部雇員憲兵補助員巡査補

◎恐る可き米國の資本
對支國論一致の急務
平井晴二郎博士談

支那交通部顧問平井晴二郎博士は三十一日朝北京より通京城過歸東せりその談に曰く

▲安協前途觀 南北の妥協問題は目下の狀勢より見るに形式のみは何れ成立すべし然し乍ら南北兩派共に誠意を缺き居れるに付列強の警告に余儀なくされ一度は和議の成立を見るとも又復遠からず乖離して結局列強の干涉を受くるに至るべしと思はる今度の南北妥協に關する會議を通ずれば段祺瑞の執れる如き方針を以て武力により南方を壓服し徹底的に全土の統一を行ふを上策と信ず力に基づく和平に非ざれば各省督軍の勦撫南北兩派思想並に見解の根本的相違より見て到底萬全を期すべからず

▲借款打切結果 帝國政府の對支借款打切り方針は吾が勢力の支那に於ける發展を策する上より見て甚だ遺憾なり何となれば日本にて南北兩派妥協の促進上借款打切りをなしたる結果米國の資本は滔々乎として支那に流入し來る傾向あり現にその事實は北京に於て少からず耳にせし所なりき予輩は支那より多くの借款を引受け鐵道利權の獲得占有に之れ努めよと云ふに非ず日支の親善關係を持續し行くには吾が資本を支那に入る事を以て千百の外交辭令に勝るものなりと信ずるものなり帝國にて對支借款を打切りしため米國資本大に侵潤し來らば吾が政府並に資本家に於て狼狽するも時期は既に遲かるべし

▲吉會線借款 吉會線借款本契約の交涉は北京に於ける鮮銀興銀臺銀三行の代表者と支那交通部間に進行しつゝあり然し乍らそは未だ下打合せに過ぎず交通部にては東京より三銀行公式代表者の來朝を待ち居れるがその到着は一月に入るべき模樣なり從つて本契約の調印取り交し期は尚ほ速かなりとは云ふべからず又濟四鐵道並に濟順德間高徐州間の鐵道借款本契約交涉も何れ開始さるべきがその時期等に就ては確聞する所なかりき

▲國論の一致 小幡公使の後任に付ても外交官として四回目の來任に付支那の上下に馴染多く氣受け甚だ好なるが如し此遺憾なるは吾が對支政策に就き國論の一致を缺ける點なり從つて公使の手腕施設も種々の批評に埋めらる觀あり之れ歴代公使の自由手腕を振へず常に不評を以てその任を去る所以で小幡公使の立場の苦しき點なるべし對支政策に關する國論の一致は刻下の急務なりと云ふを得べし

▲銀行會社

滿鐵京城管理局朝鮮銀行東洋拓殖會社支店組合銀行其の他の銀行會社にては元日午前十時より主賓者以下參集新年祝賀の式を擧げたる後々剩交換會若くは祝賀訪問に向ふべし

▲名刺交換會

京城官民聯合名刺交換會は午前十一時より南大門公立小學校前庭に於て擧行さるべく豫め申込めるものは必ず同時刻迄に參集さるべく入口にて交換名簿を受け取り夫れより式場に到り發起者の發聲にて大皇皇后兩陛下の萬歳を三唱し祝盃を擧げて退散の順序なり

◎鮮銀會議内容
某重役の談

歳末木村東京駐在理事入城數日に亘り鮮銀重役會議開會されしがその内容に付一重役は曰く會議は七年下半期決算を主とし利益等は行務の擴大膨脹に伴ひ相當增加し純益百六十萬圓以上を計上し得べきも配當は年八分に据置く事となれり增配は尚ほ一二期を經過せし上ならでは六ヶ敷からん以上の外の打合せとしては東京の行務と本店間の連絡改善並に人事等行内の事にて東京京城の連絡に就ては相當の改善方法を講ずべく更に人事は主として行員の昇給待遇等にて差し向き異動等は行はれざるべし

◎岡本少將入京

騎兵第二旅團長陸軍少將岡本功氏は家族同伴三十日夜入城せるが越年の上歸東すべしと

人事消息

▲山口諫男氏（大阪特派員）三十日夜京城同伴別府へ
▲木村雄次氏（鮮銀理事）三十日夜東京へ
▲小山庄三氏（鈴木京城支店長）三十一日朝出發神戸へ

重要電報 欄外にあり

□元日號 廿頁 附錄 京日鮮滿便覧

烏瞰錄

▲今年の新年は久し振りで平和の新年を迎へたので一層お芽出度い譯である▲扨て一歳樓姫になつて過去三四年間の新年を考へて見ると何うして却々急がしかつたものだ▲大正四年の新年は英國などでは戰々恟々で越年したものだ▲と云ふのは前年の十二月二十四日突然獨逸の飛行船が倫敦の空に現はれて爆彈を投下をやつた▲之れが獨逸の空襲の嚆矢であつた居酸の代りに爆彈を頂戴してはやり切れぬ其れ丈けは誰でも御免を蒙りたいものだ▲大正五年の新年は聯合軍側に不利が續いたので人氣が立たず一月八日には土耳古攻撃の英佛はガリポリから全部引き揚げると云ふ始末▲大正六年の新年は元旦早々土耳古が伯林條約と巴黎條約を棄却して完全な獨立國だと宣言して威張つたものだ▲獨逸が例の敵國中立國無差別無制限に潜水艇戰を開始した闘墓は丁度二月の一日からであつて▲米國が立腹して獨逸と國交斷絕をやつたのは其翌日であつた▲大正七年の新年には最う露國は日本苦茶になつて居て▲過激派は前年の十二月二十二日に單獨講和談判を開始したので獨逸は窮に威張して居た▲大正八年の新年には其の威張した獨逸が今度は露國の二の舞を始めて結局聯合軍の前に恐れ入つたと云ふ始末▲イヤ芽出度い今年の新年は眞實世界的にお芽出度いのだ▲烏瞰子は此意味に於て特に祝意を表する諸君お芽出たう

入院中に付年末年始缺禮仕候 村瀬鎌次郎

謹賀新年 網戸得哉

旅行中に付年末年始の禮を缺ぐ 鮎貝房之進

內地旅行中に付年末歳始缺禮 吉田長治

旅行中に付年末年始缺禮仕候 阿川重郎

轉地療養に付年末年始の禮を缺ぐ 大出稔

年賀缺禮 開城 白井水城 久野傳次郎

旅行中年賀缺禮仕候 松崎時勉

喪中に付年末年始缺禮仕候 慶北軍威郡 太田政助

旅行中に付年賀欠禮 京城南米倉町百五十二番地 一月元日 岩下彌平

上京中に付年末年始の禮を缺く 大垣丈夫

旅行中に付年末年賀缺禮 朝鮮ホテル 猪原貞雄

喪中に付歳末年首の禮を缺ぐ 京城府大和町一丁目三十七番地 島田房太郎

謹賀新年 京城明治町二丁目 唐川立造 電話一六一番

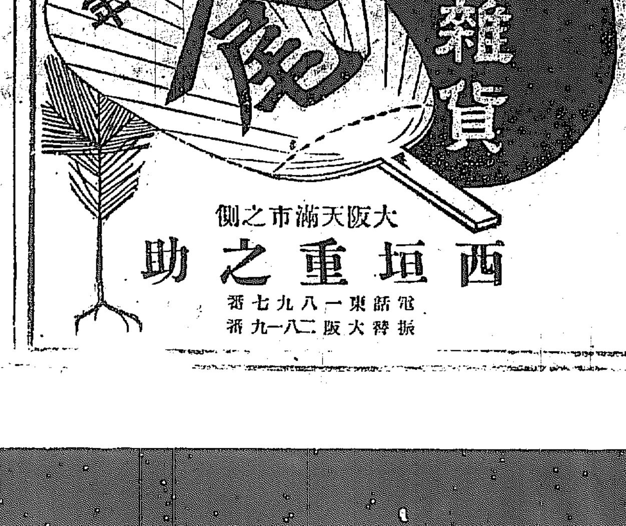
喪中に付年末年始缺禮仕候 開城西本町 都築武助 都築鑛業所員

謹賀新年 御料理 新玉 龍山元町二丁目 電話三八番 龍山郵便局前 新玉旅館 電話六〇番

旅行中に付年末年始缺禮仕候 京城 志岐信太郎

謹賀新年 株式會社 八木商店 大阪市東區南久太郎町三丁目 出張所 東京・神戸・横濱 營業品目 綿糸、綿布、加工雜綿布

喪中に付年賀缺禮 京城日報社 松尾茂吉



大阪天滿市之側 西垣重之助 電話東一八九一七番 振替大阪二八一九一番

謹告

京城三券番藝妓線香代値上に就ては豫て其筋に願書提出致置候處拾貳月貳拾八日付を以て御許可相受け候に付從つて京城三券番藝妓線香代を左の如く改正仕候間左樣御承知被下度此段謹告仕候

一、丸花 紋日 壹時間 壹本金壹圓五拾錢
一、丸花 並日 壹時間 壹本金壹圓貳拾錢
一、半花 紋日 壹時間 壹本金壹圓貳拾錢
一、半花 並日 壹時間 壹本金壹圓
一、約束花 三時卅分間 參本半

大正八年一月一日 中券番 京城券番 新檢番

別項の通り値上候に就ては前記御了知の上不相變御引立被下度希上候 敬具 京城料理屋組合

◇講和と英米意見

講和に關する北米條件に就き英米間に重大なる意見の不一致ある模樣無しと（倫敦電）

ウイルソンへ

ウイルソンと（華盛頓電報）

爆沈に對し

…する如何なる計畫にも反對なり

◇政府軍擊退さる

反革命軍多數家屋包圍

…フォルウェルツの戰場に於れば武伐せ…シテルデンリンデン及びウンテルジュームの廣場に駐しバルタカス團は目下の狀態をクーデターの好機會と見做し居る如し（東京特電）

前長崎醫學專門學校…は米國留學中二十一日…病…醫ウ…

博士を射殺せり原因はウ博士が石田氏を

◎陸軍始觀兵式

來る八日は陸軍始めに付宇都宮師團司令官は龍山七十八、七十九兩聯隊及び重砲、騎兵の各聯隊を練兵場に集め觀兵式を擧行すべしと

□昌德宮の新年

宣政殿晴れの祝賀式

御慶事を控へて一しほ芽出たし

金色の梨花初日に映ゆる昌德宮の新年、それは王世子殿下の御慶事を目の前に控へて取り分け芽出度い、唐風の棟門には純日本式の注文飾を飾り、春の風輕く日の丸の旗を吹くも床しや、この日李王殿下に新年のお目出度あり、妃殿下と共にアンターミニ…

▽雜煮餅をお祝ひ遊ばされたる上李王職高等官その他の祝賀を受けられる、是より先、李王職各員は午前九時までに全部仁政殿東行閣へ參集、先づ高等官一同閔長官に對して御祝詞言上方を願ひ次いで閔長官は判任以下の職員から祝詞を受ける、この趣きは早速總督府を通じて宮內大臣へ申達される筈右終るや李王殿下には

▽金モール燦たる陸軍大將の御正裝にて妃殿下御同列宣政殿に御成りあり、九時三十分より閔長官、國分次官、御附武官その他高等官、御近侍奉仕の高等官、貴族の順序にそれ〴〵御拜賀を受けさせらる、例年ならば御參賀の後直ちに參賀の爲め總督官邸を御訪問遊ばすのであるが、今年は總督が忌引籠り中なので

▽お見合せになり代理として閔長官を總督府に御差遣になる、斯くて午後一時には昌德宮

午後からは李太王殿下の御訪問御出門、妃殿下御同列長官以下を迎へられ德壽宮に御伺候あり、李太王殿下に年頭の賀詞を述べさせられる筈であるが、この時の御挨拶は頗る簡單なもので先づ李王殿下から『萬歲を

▽安寧に迎へさせ給へるや』とお問ひあり之れに對して李太王殿下は『誠に同慶なり』とお答へになるのが是までの例であると申す、それが終ると御三方お揃ひで李王職高等官、御親戚、貴族等を御引見遊ばされ終つて午餐を共にせられた上四方八方の御歡談に時を過ごされ三時頃御退宮遊ばされる筈であるが一方閔長官は東京なる王世子殿下へ李王職高等官からの祝詞を電報で傳達する元旦の行事は是で終り、二日は午後二時から宣政殿にて宇部宮

▽軍司令官以下一般文武官の祝賀を受けさせられ、七八の兩日を以て新年宴會を催し給ふ御豫定なりと承はる

◇今年の御兼題

御歌所大正八年御兼題は左の如く御下賜相成りたり

一月　朝海　　二月　殘雪
紀元節　社頭鶴　　三月　渡祭雨
四月　花盛　　五月　首夏山
六月　水鶏　　七月　夏燈
八月　檜原　　九月　月前竹
十月　秋光　　天長節　松間紅葉
十一月　袋　　十二月　冬花

★お雜煮もあれば蜜柑、搗栗、鰑、蒲鉾、數の子、金とん、牛蒡、漬物もある其上水を汲んで身體を淸めた上ゾロ〳〵と食堂に入るともう其處には元旦の御馳走がズラッと並べられてある此の御馳走は一年中での一番の御馳走で朝食に限りお酒も一人前五勺があるので大ニコ〳〵で食終つて少時すると九時から雨天練兵場で拜賀式があるから集まれと云ふ傳令がある其處で一同晴衣と云ふ譯ではないが帽子から靴下に至る迄すつかり新調の軍服に改めて拜賀式に列するそれが終ると始めて『やあお芽出度う』と元氣のいゝ芽出度い言葉が各同僚間に交されて散歩に出るのもあれば

★年賀狀を書く者もあるが

◎陸軍の御正月

御馳走の多い三ケ日

殖民地の軍隊で迎へる新年は特に…

◆ご故郷へうれしい便り　澄んだ元旦の空氣を震はせて聞ゆる起床喇叭で眼を醒した龍山各聯隊の兵隊さんは先づ水道の若

初年兵に限り古兵附添ひで出掛ける事となつて居る饗食もお頭付きの御馳走があるので歸營して食る者もあれば外で喫する者もある尙ほ夕食には芽出度い氣分を味はふ爲に小豆飯さへ供へられる斯した樂い日の續くのも松の內三日ではあるが五日の新年宴會八日の陸軍始め等も相當の御馳走が出る事になつて居る新年の所感は誰でも一しほだが軍隊は又格別で嚴重な營に愉快がある取り分け新兵さんの新年而もそれが

★殖民地の軍隊で迎へられたに就ては却々感慨が深いと鄕里の友人達へ書き送る者が多いと

つかけていよ〳〵新裝の姿を扇形の格子戶から現はす頃は先づ九時頃、馴染茶屋へ挨拶に廻る、いづれそこには歲末の贈り物の返禮と

◎歲旦祭

平和の曙光に

明くる歲も芽出度き大正八年の歲旦祭は例年の通り京城神社に於て一日午前九時より莊重なる氏子列席の上極めて莊嚴に執行された定刻に至るや谷村宮司は衣冠正裝にて各祭員伶人を隨へ社殿祓所に參踏し氏子總代重なる官民等同所へ參集し一同修祓を受け伶人の奏樂裡に宮司以下祭員は殿內に著床し次いで一聲の警蹕と共に再び嚠喨たる神樂が起る夫れより

▲御扉を開き祭員は恭しく神饌を傳供し宮司の祝詞が嚴かに奏せらる、終つて宮司以下玉串を奉り神饌を撤し宮司は再び昇殿して警蹕裡に御扉を閉じ奉りて式の終つたのは午前十一時であつたが一日は未明より參拜者引をなし殊に今年は朝鮮人の參拜者が非常に多かつた事は誠に芽出度き次第である

ゑはう

東東北の方

今歲の惠方は『あきの方寅卯の間萬よし』とあるから寅卯といへば東々北であるが、とは必ずしも寅卯の方の神社へ參詣しなくても京城は京城神社、仁川は仁川神社、龍山は龍頭山神社、平壤は平壤神社其他各地とも其土地々々の神社へ大々參詣して我皇祖の神靈を奉拜すべきである、扨て此惠方といふのは何ういふ譯かと聞くに『閑田雜錄』に暦に吉方といふ事を世に惡方と書くは恨みを受くる方と心得たるにや、然らず甲丙庚壬等の方に當れば兄弟の兄なり、甲乙を以て兄弟とするなり、此謂の樣は甲己歲、甲方寅卯の間（下略）とあつて今歲の幹枝は己であるから前記の如く寅卯即ち東々北に方るのである（雲堂主人）

◎元旦の天候

嚴しい寒さは來まい

元旦の天候は何うであらうか京城測候所について訊くと近來は電報が延著する結果材料不充分で到底確かなところは申上げられないが大體に於て昨日邊からボツ〳〵溫日和に入つたやうである低氣壓は今鴨綠附近にあるが此低氣壓が急速に朝鮮を通過して了へば元旦は先づ日本晴若し此儘で氣壓に移動がなければ曇り勝ちであらう然し何れにせよ餘り激烈な寒氣が來やうとは思はれぬと

◎三ケ日は一圓五十錢

新年の花柳界

結上げた島田髷美しく簪中の梅、染色の派手を競ふ藝者衆のお正月、床しいお正月、花柳界の元日は紫や紅にほの〴〵と明ける、大晦日の晩に髮を結つて湯へ入つてお雜煮を祝つて一寸寢入りも平常ならば先づ十二時前でなければ目のさめぬ藝者連中も今日のみは電燈の消えぬ先に起る、屠蘇を祝あれご先づ三ケ日は足が早い、かうした間は何處も同じ初春の花柳あつてお客から三箇日の附花、呼出し何本、或は甚仕舞什舞の付け引き等で大抵は三味線箱を取寄せるまでにお立ごある、新作の初彈、ウロ覺えの歌文句もホンの御祝儀で大抵は三味線箱を取寄せるまでにお立ごある、姐さん株の處へは、妹連中がぞろ〳〵とお芽出度う、客は廻禮にかこつけて晝間に來るもあり、廻りの打止めや流れ込むものもあり、三業者の花代値上げはいよ〳〵この元日から實行、是までの一本（正味一時間）九十錢が一圓二十錢になる勘定なれど、三箇日だけは紋日線香とあつてその上尙三十錢ばかり餘計に頂戴する由

◇未年生れの藝妓

未年生れの藝妓は至つて尠く三業を合はして僅に六人、然し何れも錚々の美人揃ひその上干支にあやかつたのか皆氣立が優しいとある寫眞は上右から志實家の百太、いその國之助、花月の園長、下右から花山の若奴、富美廼家の桃葉、同じく千代丸、芳紀は桃葉と千代丸が十三あとは全部廿五である吉例によつてザットかくの如し

未歲生れの名流

松方內大臣（天保六年生八十五歲）

維新の元勳として隱れなき松方正義侯は明治、大正に涉りて二代を元老として仰がれ政局事變ある每には老軀を提げて內閣の組織に畫策するの効、多大と言ふべく、一昨年大山公の薨後、其職を襲うて內大臣を拜し、現に其任に在り、家庭また多くの子女を有し先年芽出度金婚の盛式を擧げ春風宮に滿ちて家門益榮ゆつゝあるは何より目出度い

杉孫七郎子（天保六年生八十五歲）

杉子爵は嘗て文久年間幕府の使節と共に歐洲に遊び、歸朝後明治政府に仕へ、以來五十年間、至樞公使、內藏頭、皇太后大夫等諸種の要職を歷任し、現に樞府に列し、樂て齡八旬を過ぎて尙ほ矍鑠として壯者に勝るの槪がある、子また詩歌書道の文藝に長じ家に在りては悠々風流韻事を樂み世俗の外に超然としつゝあると云ふ

大木遠吉伯（明治四年生四十九歲）

明治維新の際、國事に奔走して多大の功績あり大木喬任伯の男にして二十三年嗣子となり、伯の薨後三十二年襲爵し次いで貴族院議員となり現に伯爵同志會の牛耳を把つて居る、君また學識深く卓見あり華胄界稀に見るの壯年政治家として將來に囑望されて居る

原口兼濟中將（文化四年生七十三歲）

想ひ起す日露戰役の際、樺太占領軍の司令官として隱れなき功績を擧げた者は誰あらう陸軍中將原口兼濟男である將軍は大分縣の出身今や豫備に在るが、貴族院勅選議員として畏敬されて居る

◇初春興行

▲壽座　各地で好評を博した義士劇家…京落語研究會が主として斯界に知られた金原亭馬生一派、落語に付物の手踊は無論のこと、電話の掛合、西洋奇術をやる日一行中だけ東京から西洋奇術まであり、馬生だけ聞いても木戶錢以上の値打はあらう▲壽館　元旦より五日まで晝夜二回興行▲有樂館　愛三一座の浪花節にて開演…

▲大正館　元旦より晝夜二回の特別大興行、主なる寫眞はニコ〳〵喜劇…四百呎に亘る長尺物…

▲黃金館　…

▲文樂座　…

観偉の號別特年新るせ溢横に紙滿氣の新清よ観

朝鮮公論

◇米國大統領の民主政治樹立（の理想を讀む）　遠藤隆吉

◇年頭の辭（卷頭）◇李王家婚儀◇公論餘商

◇朝鮮財政獨立の完成（度支部長官）鈴木穆

◇戰後の朝鮮經濟界（農商工部長官）小原新三

◆刷新せられたる土木建築協會◆名門出の洋畫家◆短歌◆小品文◆俳句

對支經濟政策の根本義（文部大臣）中橋德五郎

施政八年間に於ける管內事業趨勢　（寺內道長官）松永武吉（平南道長官）工藤英一（江原道長官）元應常（咸南道長官）李圭完（咸北道長官）上林敬次郎（慶南道長官）佐々木藤太郎（平北道長官）藤川利三郎（忠北道長官）張憲植

世界の大勢と日本（戰後に於ける我國の爲すべき如何）　浮田和民

人物評論 高島友武論　有馬易水　◇京城上流婦人訪問記

民主々義と委任政治（所謂デモクラシーの政治的價値を論ず）　文學博士 澤柳政太郎

在鮮文武官の宮中席次と年齡（草葬臣）

朝鮮官界の官吏增俸物語 當世官民物語（翁）二幅對（閑叟）

再び伊藤博文公（の銅像建立の議を提唱す）朝鮮公論社長 衆議院議員 牧山耕藏

牛島事業界の風雲兒 藤井寬太郎と麻生音波（迫川迂人）

◇國民體力增進の急務　醫學博士 森安連吉

◆京城狩獵（豕大番附）◆山茶花（不孝）◆山の瀨（石森生）◆新年の歌（不案）

平和の新年を迎へて　法學博士 水野錬太郎

藝者さん達に與ふる書（彌次郎兵衛）◇未の年の女將と藝妓

家庭醫の問題（醫學士）◆最近鑛業界◆羊の談…

獨逸の革命と日本（軍國主義の利弊如何）文學博士 井上哲次郎

◇役者と辯士と藝妓（桃太郎）◇桃葉と千代丸◇讀者の聲

◇運動界（消息）◇藝者番附◇叔父と甥◇安協と同化性（村雨）

我が海運業の現在及將來（遞信大臣）野田卯太郎

最近に於ける朝鮮水產事業（水產逸郎）◇オンフルエンザの豫防法（芳賀榮次郎）

講和問題と國民的自覺（貴族院議員男爵）田健治郎

本號に限り特◇通信機關整備の急務……服部古郵生◇物價と通貨の關係……堀越善重郎

價金五十錢

購讀申込所　京城　朝鮮公論社　電話一〇七〇番　二四〇〇番　振替京城五七七番

◆◆◆◆◆◇◇◇◇◇り在に店書各國全◇錢十五價定◇冊三十共稅郵金前◇錢拾八圓壹共稅郵金前冊六◇圓五年一　稅郵冊一　價定◇◇◆◆◆◆◆◆

謹賀新年　佐渡秀光

喪中に付年末年始缺禮仕候　京城本町　篠崎半助

內地療養に付年末年始缺禮仕候　熊本縣飽託郡小島町字上小島中尾隠院內留　中村健太郎

矢野テント

天幕雨覆日覆製造販賣　並ニテント貸付仕候　大阪西區長堀　矢野テント商會　電話西長三六二一五五番

謹賀新年　東京兜町　伊勢屋　井上弥一商店　電話浪花長三八七番　四八番　五九番　六六番　六六九番

謹賀新年　大日本優等味淋　登錄商標　瓢水　大阪府堺市　鳥居吉平醸造發賣　電話百四十壹番　振替大阪二四五二番　京城本町二丁目　專賣店　前田酒店　電話一二七

母と子　（六十八）

北島春石作　森田久畫

いらだつ心（二）

これぱかりは、雅巳も妙からず意外に感じられた。

『そ、それは事實か。』

『い、ね、もつと驚く事があるんです。』と、お葉は猶もたゝみかけて『志保子さんとの腹ちがひのやうに聞いてますが、高松さんには淡紅子さんと云ふ娘があつたでせう。』

『うむ、以前には度々遊びに來た事もある。』

『その淡紅子さんと佐久間の弟で職工と云ふのが、何處で何う仕たものか、まあ、いつの間にか好い仲になつたと見ねますね。それであの佐久間が志保子さんと新世帶を持つ苦しまぎれ、巧く二人を誑くらかして、高松から一萬圓近い金を盗み出させ、それを權幕にしたと聞きますよ。ですもの、その離れ家までは突止めないけど、近頃ぢや二人とも稿々で、あの幸枝に佐久間をお父さんと呼ばせてゐると聞きますが……尤も二人は今に始まつたことぢやないから、眞實の父親かも知れませんね。』

雅巳には何とも答へられなかつた。

『ね、貴郎。』と、お葉は勝ち誇れる冷笑を浮べたが、表面と心裡とは俺迄も反對に『わたし、あんまりお喋りが過ぎましたね。こんなにまで委しく打明ける筈ぢやなかつたけど、あんまり癪のお叱言がすぎるから、つい腹立ちまぎれにうか/\お喋りを……何うぞねお氣持を惡くしないで下さい。』

それにも猶答へず、雅巳の腕組は容易に解けんともせず、暫くしてから、

『お葉、今の話に間違ひはあるまいな。』と念を押す。

『ぢや、わたしが先の奥様を讒訴でもするとお思ひですの。』

『さうではないが……』

『でなかつたら、そんなに深く念を押すことはないでせう。』

雅巳はもう聞くに堪へなかつた。衝と縁先から庭に降りながら、

『帽子をとつてくれ。』と言ふさへ力がない。

『何處へ入らつしやるの』

『何處でもいゝ、鳥渡そこらまで散歩して來る。』

『でも、今日は日曜でもないのに。』

『日曜でなかつたら何うしたんだ。』

『會社への御出勤がおくれるでせう。』

『會社？』と淋しく肩を搖すつて『今日から出勤する必要がなくなつた。』

『まあ、何うして？』『さうね。』と言ひつゝ、お葉は茶の間から帽子を持つて引返す。

それを引奪るやうに受取つた雅巳は、一人でぢり/\と癇癪を起した。

『お葉……』と、改めて呼びかけ『まだお前は何にも氣がつかんのか』

『ですからさ。』と、お葉も一緒になつてぢり/\『會社が何うなつたかと、お伺ひしてるぢやありませんか。』

『……氣が注かぬなら言つて聞かせるが……今日からの俺は浪人になつたんだ。いや浪人ばかりぢやない、岸上の家は殆んど無財産になつたんだ。』

『ね！何ですつて。』

『二年間の努力は水の泡となつた！つひに會社は瓦壞したんだ。』

お葉は、唇の色まで蒼くした。そして、何か言はうとしたが、急に鐵の丸でも押し込まれたやうで咽喉から聲が出なかつた。

その間に、雅巳は庭垣の彼方へと出て行つた。

冬雨はい、鹽梅に晴りさうもない。低く垂れた雲の切目からは薄日さへ射してゐなかつた。驕下駄では無理なぬかる路で、おちこち飛々に歩かねばならなかつたけれど、雅巳は何者にか追立らるゝやうな急心地で、突當りに護國寺の甍を見る音羽の廣い街路へ立ち出たが、さて、これから何處へ行つたものかと迷ひ顔。寒い風が颼々と音高く吹きすぎて、外套を忘れた雅巳の襟元に剃刀を當てた。

◎兒童の……歌曲鑑賞力

自由な翼をひろげて……面白い試驗

兒童の歌曲の鑑賞力について一音樂者が調べて見た處によると情緒のファイブレーシャン顫動には大人に大した相違はないが觀照活動こそは全く個性的な特異な現れで彼等の肉體の輕やかな樣に兒童の空想は實に自由な翼をひろげて樂想の中をかけまはるのださいふ例へば尋常四五年生に『大塔宮』全曲のムードに浴つて實に痛々しい悲しみの情緒が流れて居る歌曲でムいますけれども決してセンチメンタルな悲しみではなく重々しい哀愁の波がひた/\と胸にせくつて來る樣な深味のある曲を彈奏じた後に彼等の感銘を聞いて見ると……

○淋しい森林に一人で居て、どこからともなく爽しい音樂が聞えて來る。

○虫の音がさまつたやうに、さむしかつた。

○秋の夕ぐれ遊園へ行つて、さむしい歌をうたつた心持。

○しーんとした晩に月が出て、海は銀色に光り、一人山に立つて見て居ると、汽船が輕く波をわけて行く。

○何となく美しく、又さびしく、原にれむろやうな氣である。

○きれいな草の中で、虫がないて居るやうな心。一つは美くしいやうな感じがした。心がおちついた。

○私は海のほとりで、海をながめながら涼しい風を吹いて居るやうな氣がします。

○月の出たばんに、船にのつて、海のさゞなみをわたつて行くやうな、氣持がしました。

こういふ答を得た相で、此短い言葉の中にも歌曲の氣分を感じて彼等の鑑賞力は充分に活躍してゐると。

新年文藝

◇一口噺◇

題『平和に關するもの』

一等　京城旅籠町二茂田方　竹内ちよ子

先生『皆さん温かい家庭の平和をつくるにはどうしたら宜いでせう』兄弟の多い生徒『大きな炬燵を作るに限ります』

京城旭町一丁目二七　河原寫眞館　電話二九八一

二等　京城櫻井町一ノ一三　宮部源一郎

先生『平和とは如何なるものですか』鐵工所の子供『僕のお父さんの一番きらひなものです』

群山　朝寝坊

甲『講和使節は西園寺公望侯と牧野伸顯男と云ふが何故二人も居るのだらう』乙『そりや君弘法（公望）も筆の誤りと云ふ事があるから劍（伸顯）に行るものが要るからさ』

三等　平北城邊獨山　宮崎露女

甲『永久平和を主唱する米國の海軍擴張は一體何の爲にするだらう』乙『夫れは米國の云ふ事を聽かない國を伐つ爲さ』

京城本町通二ノ一〇　吉富泉

夫『さあ平和の祝に今夜料亭で一騷ぎだ』妻『お願ひですから家庭の平和が破れぬ程度にね』　無名氏

甲『今度講和會議で乾度獨逸は世界の地圖からなくなるかも知れないよ』乙『どうして』甲『だつてジャマンになるからよ』

秀逸

川『歐洲戰亂も足掛五年目に思が付いたが隨分永引いた戰爭だつたね』よ太『これが本當に御念（五年）入りの戰爭と言ふものさ』　京城　安藤朗

甲『平和會議は神佛會議だね』乙『何故？』甲『でも平和の神ウイルソンや西園寺が參列するぢやないか』　谷山苔笑

△『いよ/\平和に成つたら世界の色別が大層變るさうな』貝太『それぢや染料の價が又騰るだらう』　龍山　十の字

怠惰者の兄勉強家の弟に向つて　兄『馬鹿今頃そんなに地理等を勉强する奴がアルカ……』弟『何故？』兄『でも平和になれば地圖が變るヂヤナイか』　京城　卜三郎

貧乏者『戰爭が平和になれば物價下落で助ります』　晉州　金田隆次

戰爭成金の子『でも私の父は困ると云つてゐました』

甲ノ丁稚『愈々講和が成立した夢を見た』乙の丁稚『道理で鼻の穴で提灯行列をやつてゐた』　京城　羽雪

演藝案内

京城本町　電話五七八　壽座

正月元日初日開演　義士の家中堅女優演藝倶樂部

第壹　新劇『お芽出度ふ』　貳場
第貳　奇術『敷一番』
第參　喜劇『手當り』　貳場
第四　魔術應用劇『盜工』　貳場
第五　社會劇『眞心』
第六　大魔術空中飛行の皿マンマル
第七　新作『朝晴』　貳場
第八　舞台總て奇術を演じて休みなし

有樂館

東京小林商會活動一手代理店　日活ニコデアザルー特約　早川演藝部直營　活動寫眞常設館

實寫　時事新報　五十號　全一卷
大活劇『軍事探偵の死』　三卷
米國エルコー社映畫　喜劇『我が子は何處へ』　二卷
米國エム社パリース映畫　實寫『山坊主の卷と印度の風物』　一卷
米國ユニバーサル社ブリューバード特作品　人情劇『恐怖の一時間』　二千呎
情緒劇『知らぬ妻』　全六卷
家庭悲劇『父の涙』　三場

本町二丁目　電話一〇五〇　壽館

一月元日ヨリ　東都ニ於テ新時代浪曲ノ泰斗ト評セラレタル　京山愛三一大一座開演

黄金館

大阪名代浪曲會社京城支店一手代理店　晝（晝間）三二六六　夜（夜間）二六三七
新春之特別大興行（入場料普通）
大活劇『殘骸』　全四卷
新派悲劇『若き血の躍』　十五幕
旧劇『眞田大助』　十二門

京城明治町　電話二六〇　浪花館

御祝儀　三番叟
落語　落語　落語　落語　西洋奇術　落語　落語　音曲　ヴァイオリン合奏　少年落語　人情笑話　大切餘興

日本活動寫眞株式會社代理店　櫻井町　電話八七三　大正館

一月元旦より特別大興行
日活耶蘇教名所案内
△二つ活劇『珍探偵』　全二卷
バイタグラフ會社大傑作　戰爭活劇『偵察飛行』　全五卷
松之助大合同劇　旧劇『丸橋忠彌』　全四卷

本町五丁目　電話三三八　文樂座

浪花節應用劇中村一行
一月元日より
前狂言　賀錄千代萩
切狂言　しぐれから傘女團七
前狂言　男松竹梅
切狂言　狂言女房狩分手綱　重の井子別

壹千五百組限り　**上等毛布**　二枚一組二圓五十錢
東京市日本橋區本石町一丁目　（以下略）

大正式製麵機　東京本所長崎町三三日本發明

◎新春の大興行　元日より
浪界の明星　**京山愛三一行**
愛三は我中央文壇の巨將德富蘆花氏の知遇を得、小圓この並び立ちて新物語手一として新革命を起せし斯界の名人也
京城本町　**壽館**　電話一〇五〇番

京日案内

ストーブ大見切　京城北米倉町電話長一五四六番　金物商　有好傳吉
◎古物高價買入　◎店頭勉强　黄金町三電話一八六　根古物店
◎**御袴仕立專門**　格好能く迅速叮寧に調進可仕候　京城本町四ノ一五　山崎商店
◎**簿記係入用**　希望者は自筆履歷書持參乞來談　南大門外　電話三一六番　齋藤商店
毛皮なめし並仕立　鳥獸剝製標本類調製　萬毛皮鳥毛剝製貿易　京城本町二　電話長二〇六
旭炭團卸小賣　京龍間近多少に依らず配達仕候　南大門通　宮崎商店
◎**ほねつぎうちみくじき**　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場

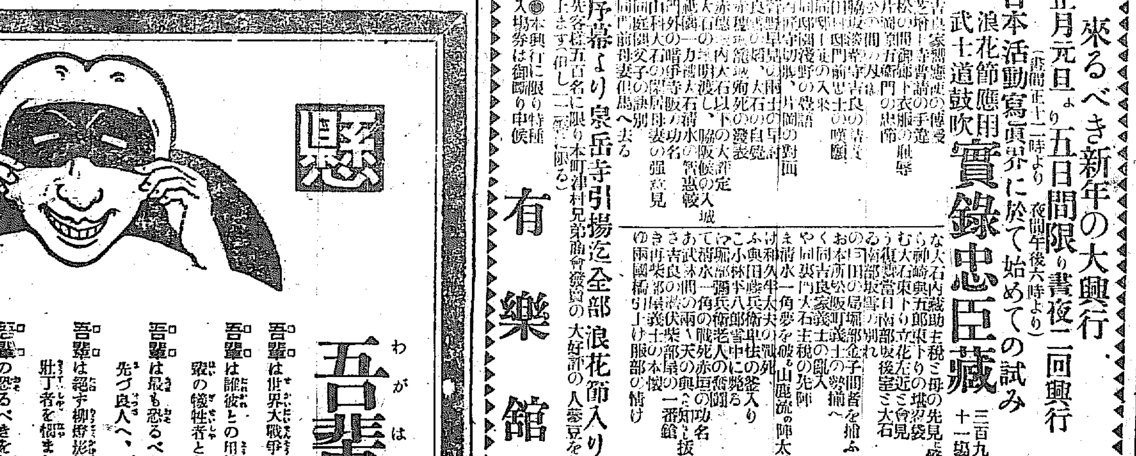
謹賀新年　**壽座**　電話五七八番
舊年は御厚情の御引立を蒙り奉謝候　尚本年も宜敷御願申上候

新年の初興行
義士廼家演藝倶樂部一行
▲義士廼家女優一派　▲豐台一派　▲地球齋マンマル師一座　連合四十餘名大一座
日本で初て組織された
奇術と魔術の應用劇
義士廼家特色悲喜劇
此に奇魔術應用社界劇
電光作用とローマ術應用怪談劇
▼正月には笑ふ門に福來たる一度は來場あらん事願上候

來るべき新年の大興行
正月元旦より五日間限り晝夜二回興行（晝間正午十二時より　夜間午後六時より）
日本活動寫眞界に於て始めての試み
浪花節應用　武士道鼓吹　**實錄忠臣藏**　三百九十一場

い　吉良家饗應の傳受
ろ　芝増上寺普請の手違
は　松の廊下衣服の恥辱
に　片岡の御門の忠節
な　大石内藏助と母の先見
ら　神崎與五郎東下りの堪忍袋
む　大石東下り立花左近と會見
う　復讐當日南部坂後室と大石
の　寺田の局堀部金子間者を捕ふ
お　本所松坂町義士の勢揃
く　同吉良家義士の亂入
や　同表門大石主税の先陣
ま　清水一角夢を破る山鹿流の陣太鼓
こ　小林平八郎の戰死
て　堀部彌兵衛老人の奮闘
さ　吉良の泉岳寺引上
き　兩國橋引上げ
ゆ　義士の本懐

序幕より泉岳寺引揚迄全部浪花節入り
◎先客樣五百名に限り本町津村兄弟商會發賣の大好評の人蔘豆を差上ます（但し一晩に限る）
◎本興行に限り特種入場券は御斷り申候
有樂館



吾輩は何者なりや？

吾輩は世界大戰爭に依つて殺されたる人々よりも猶多くの人々を殺して居る。

吾輩は誰彼との用捨はせぬ、吾輩に近づく者は貧者、富者、老人、若者といはず皆吾輩の犧牲者とならないものはない。

吾輩は最も恐るべき發展力を有するが故に、吾輩に近づく家庭へはドシ/\侵入する先づ良人へ、良人より妻へ、妻より生れ出る子供へ。

吾輩は絕ず柳暗花明の巷を根據として活動する、今年なども大いに活動して多くの壯丁者を惱まし當局を驚かして居る、猶今後の活動を怠らない。

吾輩の恐るべきを知り世界各國は何れも其取締を嚴重にして居るが、まだ/\吾輩の活動には何等の不便をも感じない。然し

吾輩は近頃吾輩の最も恐るべき強敵の現はれた事を悲しむ、何物をも恐れない吾輩も治疾丸の前には、其影を潜めなくてはならない、嗚呼強敵なる哉治疾丸百毒下し!!!

吾輩は實に世に取つて極惡な敵である、而して吾輩の名は『吾輩の名は○○!』と稱するものである。此吾輩の名は何んであるかはがきに新聞名及住所氏名と共に記入の上本舖廣告部宛送り給へ……

一切大正八年一月十五日、發表同二月五日各新聞紙上、當選は正解者中新聞社員立會の上抽籤を以つて定む、賞品は發表と同時發送

賞品
壹等　拾圓債券　一人一枚　三枚　三人
貳等　五圓債券　一人一枚　五枚　五人
參等　金ペン萬年筆　一人一本　二十五人
四等　本舖特製散骨カード　一人一組　壹百人

梅毒最新藥　治疾丸　百毒下し
本舖　伊勢四日市々赤堀　加藤春松堂
振替　東京三〇四五　大阪一七九五

謹賀新年
大阪市東區安土町壹丁目
T.W.　**和田爲次郎商店**
受信略號　オサカワダタメ
營業　綿布　綿糸
種目　大豆粕　雜穀

◎世界平和の新年
世界的の一等果樹　代表的貢獻
丹栗苗木新年特賣　特典進呈
本場　丹波氷上郡和田（栗苗木）中間商會

謹賀新年
金熙善

賀正
大阪市西區新町
日本一藥館喜香堂ヲチニ
本舖主　塚田日郎
京城本町四丁目　京城支局長　小柳嘉市
平壤櫻町　平壤支局長　中島百太郎

旅行中に付年末年始の禮を欠く
苫米地造酒彌
京城古市町

新年附錄　其一

四方拜の御儀

◇大内山紫雲の元朝

＝神嘉殿神祇代午らの御親祭＝

鳳凰の間に第一日の御膳を舉らせてより終日文武の百官を引て君民同慶の賀を容れ給ふ

新玉の年立ちかへる今日しも棚引く紫雲の奥深き九重の宮居にては年毎の御恒例に依り　天皇陛下には恭しく四方拜の御儀を行はせらる東雲未だ色づかざる午前四時神嘉殿の南庭に設けられたる屋は東園掌典次長以下の諸員に依つて殘り無く装飾を奉仕され屋の

中央、玄關を東に屛風二疊を立て廻らし中に御座を設け疊二疊

を供す斯て初日の影さし出んとするに間もあるまじき五時半といふに　天皇陛下には先づ綾綺殿に出御あり御束帶を著させられ侍從の順次に奉仕する御手水、御劍、御笏、御草鞋等を受けさせられて九條掌典長の御前導にて御設けの御座に進ませ給ひ神宮を初め奉り遙かに四方を拜させ給ふ御拜畢らせ給ふに及びて此度は賢所及び皇靈殿神殿を御遙拜遊ばし給ふ是より先き同じく午前四時神嘉殿南庭の屋の装飾を奉仕すると共に一方御殿の装飾をも奉仕せしむ御殿の装飾殿なく整ふに及び戸田式部長官以下の式部職官員一同著床す折から芝樂長以下の

樂師に依つて奏せらる伶人の樂の音は神々しく御殿の裡に澄み渡り

同時に賢所皇靈殿神殿の扉は徐ろに開かれ斯て御洗米御酒御餅鮮魚川魚海菜野菜菓子汐水等以上十種白木の臺に載せたるものを各宮に供り奉供さるれば九條掌典長は起立して謹みて祝詞を奏讀す此時に當り　陛下には四方拜の御儀を終らせられて賢所の御前に至らせ給ふ諸員一齊に起立なして最敬禮を行へば忽ち朝山内掌典は御鈴を奉仕す爽やかなる御鈴の琅瑯たる響の裡に　陛下に恭々しく御玉串を奉り給ひて御拜禮遊ばし給ふそれより夫々御玉串を奉り給ひて皇靈殿及び神殿の御拜禮を畢らせ給へば九條掌典長の御前導に依つて靜かに入御あらせらる此時

再び洩れ渡る樂の音につれて神殿の扉は徐ろに閉ざさる

茲に於て戸田式部長官以下の式部職官員一同も靜々退出す是れ即ち歳首の御祭典なりかくてさらに彌々濃き松ヶ枝にさし昇る初日の影の映ろひていとも麗しき七時三十分　陛下には皇后陛下と共に鳳凰の間に出御あらせられて御供進を食召す是れは晴の御膳と申し上げて新年の御儀式中三箇日間必ず御供進申し上ぐるものなり九時三十分に至るに及び文武百官の新年の拜賀を受けさせ給ふ先づ親王、王、同妃、王世子の各殿下より宮内省親任官公爵從一位勳一等及び一等官侯爵正二位二等官同夫人並に奏任官の拜賀を受けさせ給ひ畢つて皇族以下の

各員は退出を給ひて更めに設けられたる正殿へ出御あらせらる

正殿には右に　天皇陛下の玉座あり左に皇后陛下の御座あり又右の方には親王、王、王世子を始め奉り侍從武官長及び侍從武官近衛官宮内大臣侍從長式部次長等整列し左の方には妃殿下を始め奉り典侍、女官、皇后宮大夫、皇后宮亮等整列す斯くて　兩陛下の正殿の玉座へ著御あらせらるれば十時より山縣松方東郷大隈德大寺等の各大勳位原首相以下の各大臣、始め親任官公爵從一位勳一等及び一等官侯爵正二位二等官麝香間祗候錦雞間祗候同夫人の拜賀を受けさせ、それより非勅任所外國人同夫人の拜賀を受けさせらる十一時よりは神佛各宗派管長より三等官の拜賀を受けさせられ十二時には各國公使及び公使館員同夫人の拜賀より勳三等以上外國人同夫人の拜賀を受けさせられそれより非奏任所外國人並に勳四等以下勳六等以上外國人の拜賀を受けさせられ又在地方の高等官並に有爵有位有勳者の奉る賀表を受けさせられるされば　天皇陛下には

早朝より神嘉殿の南庭に出御遊ばされ四方拜等の御儀式を行はせ給ひ

てより文武百官の拜賀を受けさせられ正殿より入御あらるゝ折は既に初めの一と日も早や迫れる暮色に蔽はれし時なり此時刻迄殆ど御休憩の暇もあらせられざる由に承はる古來を通じ皇祖を敬し給ひ年をことほぎ給ひて民と與みを同じうなし給ふために斯くも畏き玉體を勞し給ふの御聖慮こそいと畏き次第なれ

▽新年　二日祭

賢所、皇靈殿　神殿の御親祭

西溜にて御受賀

前日と同樣　陛下には九條掌典長以下に命じて賢所皇靈殿及び神殿の御前を祭らしめらる先づ午前九時東園掌典次長以下の諸員に依つて御殿の装飾終れば戸田式部長官始め各式部職官員一同著床す斯て芝樂長以下の樂師の奏する

樂の音につれて賢所皇靈殿神殿の御扉は徐に

開かれ神饌を供せらる九條掌典長は謹み起ちて恭々しく御祝文を讀む終れば共に再び樂の音は玲瓏と殿中に澄み渡り同時に斯次神饌は撤せられ御扉は徐ろに閉ざる茲に於て諸員も靜かに退出す是れ二日祭なり當日も　陛下には午前七時三十分晴御膳を聞食され九時三十分より正殿に出御あらせらるそれより伯爵從二位勳二等子爵正從三位男爵正從四位同夫人の拜賀を受けさせられ九時五十分より四等五等官の拜賀を受けさせらる次で十時三十分には貴族院衆議院兩院の正副議長始め兩院議員及び六等官以下九等官以上奏任待遇の神職非役正五位以下從六位以上勳六等以下勳八等以上門跡寺院住職の列立拜賀あり即ち衆議院の

正副議長及び兩院議員は西溜りの間に整列し

六等官陸海軍將校同相當官より寺院住職に至る迄綺羅星の如く装なしたる千百の文武官が整列なす其の中を皇后陛下と共に靜かに出御あらせられて同時に拜賀を受けさせらる非役正七位以下及び勳七等以下は參內して祝賀を申し上ぐるぞ承はる

東宮御所

◇新年の第一日

文武百官の御參賀

午前十時三十分より東宮殿下には波多野宮内大臣始め各親任官公爵從一位勳一等及び一等官侯爵正二位二等官同夫人並に奏任待遇の諸宮内官員の拜賀を受けさせられ十一時よりは山縣、松方、大隈、德大寺、東郷の各大勳位、原首相以下の各國務大臣始め親任官公爵從一位勳一等及び一等官侯爵正二位二等官麝香間祗候錦雞間祗候同夫人の拜賀を受けさせられ午後一時よりは神佛各宗派管長より三等官奏任待遇の參賀を受けさせらる

◇第二日の御所◇

東宮殿下には前日同樣午前十時三十分より拜賀を受けさせらる先づ伯爵從二位勳二等子爵正從三位男爵正從四位同夫人四等官以下九等官以上奏任待遇の神職正五位以下從六位以上勳四等以下勳六等以上門跡寺院住職の參賀を受けさせられ午後一時三十分より正七位以下及び勳七等以下の參賀を受けさせらる親王、王、王世子各殿下には當三日時刻の都合にて午後に至り各自拜賀あらせらる（東京支局）

芽出度き勅題

近藤主事　大口寄人交々語る

本年の歌御會始めの御題は昨年十月十五日官報を以て發表せられたる如く『朝晴雪』である是に就て御歌所主事近藤久敬氏は語る『此の御題は野も山も只一色の銀世界即ち皚々たる雪に

朝の旭光の

いと麗らかに映ずるといふ樣な御題である此の御題は先づ題者といふものが定められて其の題者の案に依て決定せらるゝのであつて昨年の官報にて既に發表せられた題だが御歌所長入江子爵が其題者を仰付かり種々調べに調べた上波多野宮相を經て

畏き邊りへ

伺ひ奉つた結果此『朝晴雪』といふ御題を仰出されたのである各方面よりの詠進者も多數あるであらうが締切は昨年の十二月迄であるから詠進した歌の數も未だ全部判然しない何れ御歌會前には發表せらるゝであらう』と御歌所寄人大口鯛二氏の語る所に依れば

今年の御題

『朝晴雪』といふのは實に爽快なる景趣の眼の前に浮ぶ御題であつて本年の御歌會始めの御題としては最も適したもので詠進者も大いに詩情を發揮せらるゝであらうと思ふ但し此の御題は明治の御代にも曾て仰出された事も無く古今集以後の

撰集にも見

ることの無い御題であるから類題集などを涉獵しても作例は見當るまい併し乍ら是れに類似した題は無いではない即ち『朝の雪』或ひは『晴れる雪』などは殆んど『朝晴雪』と同樣な題であるそこで是等の中から『朝晴雪』といふ御題に適當と思はれる古歌を擧げて見ると

△朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里に降れる白雪　躬恒

△雪み晴れたる朝に見渡せば明[illegible]も珍らしきかな　眞淵

△[illegible]渡せば降り積む雪を有明の月[illegible]ける多摩の横山　千蔭

△山かげの岫を出る朝鳥のはぶきにこぼす木々の白雪　蘆庵

△[illegible]尾上は雪に現れしまだ[illegible]てぬ山もこの里　春海

△あしたつの[illegible]跡のみ見ゆる哉雲井の庭の今朝の御雪　あつ子

△晴はるゝ朝に見れば不二の嶺の麓なりけり武藏野の原　眞淵

△はつ日かげさきさす方の片枝より[illegible]る、松の白雪　枝直

△有明の月には雪もなかりしを山のは白き今朝の雪哉　直好

△朝戸あけて見るぞ樂き片岡の楢の[illegible]葉にぶれる白雪　經信

などであるが是等の作例を眞似て歌を作つては自分の歌にはならない斯樣な處は

千六萬人皆

一樣のものになつて萬人の口にする處であるから此等の景趣の外に何か一つの感興を御よう又は斯樣な景趣は詠歌として面白いから自分が嘗て實の朝に斯る景趣に接してかういふ感を起した事があるから是れを歌にして見ようといふ樣に考へるのが

作例に對し

ての心持でなくてはならぬと私は思ふ而して十八日の御歌會始めには定めし面白いものが澤山披露されるであらう』と（東京支局）

東洋政策の根帯

在東京　某伯爵談

今日東洋問題といへば支那問題が其主要なる部分を占むること何人も周知の實である從つて東洋問題即ち支那問題といふも過言ではない、實に支那と日本とは東洋のことをいふに當り孰れを分離し何れを區別しても論ずることの出來ぬ關係である、日支親善といへば直に常套語的に脣齒輔車の語を思ひ出すが之は常套語でなくて眞に日支兩國間の關係を道破した最も簡單にして且最も適切な文字である、彼の日露戰爭は日本の滿洲確保が、其目的でなくて露國勢力の東漸南進に對し支那保全が大眼目であつた日本が今日の如く滿洲に發展し得たのは之れ一種の副産物といふに過ぎぬのである、又彼の露國の旅順に租借獨逸の膠洲灣租借等當時列強の支那に對する領土慾に對し能く此危機を救つて今日の如く支那を保全し得たのは何人の力であつたらうか、十九世紀の末葉以來列強勢力東漸の爲支那の危急に瀕したことは幾度たるかを知らぬ、此危急の度毎我國は時に列強の猜疑を顧みず時に數十億の財と幾萬の人命とを犧牲にして敢然として能く其職責を盡し斯くして今日の支那を保全し得たのである、次に日本より見れば列強經濟競爭の激甚となつた今日では支那は日本の存立に重大なる意義を持つこととなつたのである、實に支那は我國に對する原料供給國として我工業及び精製品の需要國として我國の產業界の振否を左右し延いて我國の盛衰にも關する重大な鍵鑰を握つて居るのである、斯る關係であるから日本を除外して支那は政治的にも經濟的にも共存立を論ずる能はず又我國に對し支那は政治的に經濟的に重大な關係を有し結局日支兩國は分離して存立し得べきものでなくて共存して始めて存立し發展し得べきものと斷言し得るのである、然らば日支兩國は單に共存すれば其使命を全ふし得るやといふに單なる共存では之を果し得ざるのみならず其發展到底期せられぬのである、何となれば日本は東亞の平和を維持し支那保障の全責任を遂行するが爲には常に支那に於て日本の優越權を保持して行かねば其義務を盡すこと不可能である、即ち支那の上下が充分日支の關係を諒解し日本の此特殊の責任と地位とを諒解し、我國も安じて此の關係を認むるに於て我國も安じて其使命を盡し得べく支那亦何等の憂なく平和的發展を成し得て東洋の天地自然平和であるべきである、若し共存なる意味を單純なるものと解し日支間の特殊關係を認めざるに於ては日本は到底國土の保全及び發展を爲す能はずして結局唇亡びて齒寒く支那も自ら領土の保全及び其發展を期することは能はざることとなるのである、而して此特殊關係なるものは列強の東亞に於ける發展に障害たるべき性質のものでなくて却つて列強が東亞に於て平和に且自由に發展するが爲其根本策として列強共同市場の平安を保障するもので列強は之に依て何等の顧慮なく東洋に平和的活動を爲し得ることゝなるのである、日支兩國間の特殊關係は前述の如きものであるから之に就て先づ支那人に誤解なからしめ更に列強をして充分諒解するところあらしめ幸ひにして此諒解を得るに於ては東洋問題就中支那問題は刃を迎へずして解くべきである、さりとて列強の諒解なるものを誤解し我特殊關係を閑却して徒に列強の鼻息を窺ふのみに汲々たる如きことあらば反つて東亞に事端を滋くする基ともなるやも知れぬのであるから我對支政策の最も注意を要すべき點である、以上の見地より見て東洋の平和を將來永遠に保持するには如何にすべきやといふに政治外交軍備其他幾多の方法もあらうが要は日支兩國民が兩國の關係と現在の列強關係を自覺し之を基礎として兩國が相互に共存の意義を最も深刻に痛切に自覺するにあるのである之が爲めには兩國の言論界其他各方面が相一致して此方針を以て日支兩國民の精神的結合を促進するに努むることを緊要とするのである（[illegible]東京支局）

試筆　勝田前藏相

新春詞壇

朝晴雪

◎平南順川　若紫

うら〳〵と初日の光照りそひて榮わゆく御代の今朝の雪かな

◎咸南新興郡　那須　麗峰

和田のはら出る日のかげ麗かにちりこそなけれ今朝のはつ雪

◎京城御成町　角田　芳子

雪晴れて伊豆の島山さんらんとあしたの海に浮びたるかな

◎慶北玄風　江本　壽一

榮え行く御代の光も見ゆる哉初日照り添ふ高麗の雪晴れ

◎平壤山手町官舍　本田　常吉

富士かねの空あざやかに雪はれてあさひのかげぞまばゆかりける

◎京城二笛　汀村

ゆたかなる年は來にけり朝晴の見渡す限り銀る白雪

◎金川牧ノ島　佐伯　舞哉

いつまでもかくあれかしと思ふかな朝日さし添ふ雪のしま山

◎咸南新興郡　池田　水也

麗かに昇るはつ日のかけさしてみどりいやます雪のまつが枝

◎平南　太田　弘

仰ぎ見る君が御稜威の高々と田鶴舞遊ぶ雪晴の朝

◎[illegible]岡山村　森本　桃園

初日の出富士の高根の雪晴れて君が代祝ふうらやすの國

○　淸水再生子

日ざ中に毛を刈られ羊影もて並び

羊飼ふ扇根草のいさよふ靑み

落葉踏む羊らに夕陽流れたり

子等は餌にと羊を創けて眺め

わづかの稲を口でて行く羊羊

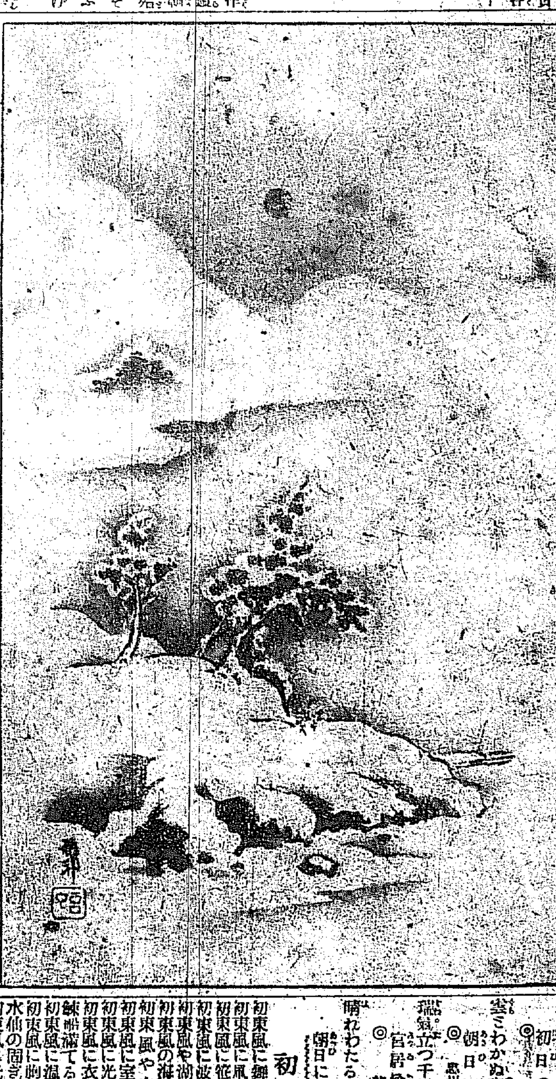
柵の陂を廻る羊に日ははまり

鞆絡叩けば取り卷ぐ羊頭

羊逐ひ〳〵野の家に言葉交した

山ふところの陂に羊洗ひやる

子羊抱き子供心のわれとなり



朝晴雪　橋本雅邦筆

◎京城中學洞　副嶋　明卿

過ぎまきし吹雪の空もしづまりて初日のさかに雪の曙

◎　一瀨　變江

雪とわかぬ姿もけさは見えにけり朝日に匂ふ雪の遠山

◎忠州郡牧洞　鈴木　霜月

瑞氣立つ千代田の松の雪晴れて宮居輝く仰ぐ今朝かな

◎龍山元町　中村　串助

晴れわたる空にそびねてみゆるは朝日にはゆる不二の白雪

初東風

初東風に舞ひ立つ沖の鷗哉

初東風に風を競へる子供哉

初東風に裾搖れて立る神の鳩

初東風に波細かな渚かな

初東風や湖水に蔭ゆ山の影

初東風の海晴やかに帆影哉

初東風や山皆圓き國境

初東風に室のもの皆悉る哉

初東風に光る羊の胸毛かな

初東風に衣冠正しョボ寄哉

餘船滿てる港や初東風す

初東風に温突を焚く煙り哉

初東風に胸紐解けし羽織哉

水仙の固き莟や東風す

初東風に光り集めて鷗かな

煙らせる法師が庵や初東風す

初東風に帆を張り撒りジャンク哉

初東風に水花打ち散る湖畔哉

初東風に一帆澄みたる湖上哉

雪もなき蒼穹や初東風南か

初東風に縫の小鳥の轉れる

東風初めて芽を育める楷哉

初東風の空に滑めらや茜一羽

疑帆に初東風光る湖面かな

杉の磁北に初東風渡る社頭哉

初東風に地方の午報響きけり

初東風に裂けて流るや茜雲

初東風や障子に明き樹々の影

初東風や長閑なる羊の顋將に

初東風に障子あけたる座間哉

磯の並木に初東風渡り光る海

初東風に斷き合ふや牧の馬

初東風や障子に動く鶏の影

初東風に綾を明ける問屋哉

初東風に羽纈へす鶏かな

初東風の織る波や旭紅に

初東風に宿疑の灯が瞬ける

初東風の大路軋らす牛車哉

初東風や旭面に丘と山羊群て

初東風に光れる沼の波紋哉

初東風に朧へる唱歌かな

初東風に眠らむ梅の蕾かな

初東風渡る梢に鳴ける稚哉

初東風にはためく船の國旗哉

初東風に綺綃張る陽の匂ひ

往來姿に初東風渡る四門哉

初東風や一湖の畔に飛ぶ鷗

初東風や揺ける廟の大扉

初東風に風見鶏が光るかな

初東風に帆纈が少し動き居り

初東風に國旗樹てたる小家哉

初東風に氷鳴る大河渡り

初東風に神の灯白う瞬ける

初東風に樹々の鳥皆囀りけり

文曰江山新氣象

中村郁一篆

大戰五年の回顧(一)

▲滿四年十一月　千九百十四年七月(大正三年)以來、世界を齎倒せしめたる歐洲大戰亂も、硝煙彈雨の内に、既に滿四ヶ年十一ヶ月を經過し、千九百十八年十一月十一日午前五時(佛國時間)を以て、漸く休戰條約の成立を見、平和の曙光に接し、千九百十九年即ち大正八年一月元旦は、久し振にて先づ平和の新年を迎ふるを得たるは、世界何人も同慶すべく、特に本新年を祝福す。吾人今年頭に立ちて、熟々過去五年の戰況を回顧せば、恰も夢半に過ぐるもの多々ある哉。

抑も開戰當初に於て、キッチナー元帥が、戰爭三年繼續を唱へたるに對し、一般世人は半信半疑の感ありしも、戰は月に年に猛烈を極め、人力の限を盡し、物理の應用を竭め、二年にして益々戰局は擴大し、三年にして世界的大戰亂となり、遂に其戰場は歐羅巴のみならず、亞細亞、亞弗利加に跨り、戰線數千哩、參戰國廿有餘國、戰鬪人員亦數千萬に達し、而も其の出來事は頗々として續發し、意想外の應接に遑なき程變化の迅速なる、唯世界の人間をして、驚倒禁ぜざらしめたり。戰期の四ヶ年は、吾人未だ決して長しとは云はず、然れども其の内容の廣深さ、規模の雄大さより見て、之れを從來の普通戰爭に引き直さば、廿年二十年若くば五十年の戰爭にも相當すべし。されば今回想するに當りても、唯恐ろしき惡夢に襲はれたるものゝ如く、前後の關係、連絡の不明を感ずるは、敢て怪むに足らざる也。

戰爭の基因

大戰の勃發は千九百十四年六月二十八日、塞耳維國の一青年が、墺匈國皇儲フランツ、フェルヂナンド夫妻を、ボスニヤの首府サラエヴオに於て暗殺せしに起因するも、當時此の兇行より、斯る未曾有の大戰勃發を前知し得たるもの、果して幾人がある。歐洲に於ける王皇儲の暗殺は稀有のことにあらず、墺國皇后エリザベス、伊王フンベルト、葡王カールス、希王ジョージ等何れも同運命の下に斃れたるの歷史あり、然るに是等の事件が國際政局の危機を、惹起せしめざりしに、唯獨り墺國皇儲暗殺事件にのみ甚深なる意味を有せしかは、蓋し其ものに付いてよりも、寧ろ時代の然らしめたるに外ならざるも、即ち平和三十年間の裏面には、歐洲に於ては諸種の問題堆積され、次第々々に爆發性を帶び來り、表面平和の裡には恐るべき危險物の成生を見つゝあり、折柄、此のサラエヴオ事件によりて、忽ち點火爆發せしに外ならざる也。總て史上の大事件は其原因は個々暗々裡に成長し、比較的重要ならざる小事件が動機となりて、之れを醸し、是に點火するより、勢ひ其爆發を激成するに極む、サラエヴオ事件も亦然り。然らば戰爭の最も重大なる原因は何かてふ問題に到達せざるべからず、其れは云ふ迄もなく獨逸帝國の勃興也。

▲獨逸の勃興　普佛戰爭に大勝を博したる獨逸は、雄心勃々禁ずる能はず、其政策は勢ひ侵略的、威壓的たるを免かれず、歐洲列國は伯林條約後に於ける國際政局の維持に努力し、其態度は專ら受動的なりしにも拘らず、獨逸は獨り能動的に横行濶歩し、大海軍の基礎を据ゑ、遂には經濟上の必要と、國民心理の變化より、其政策をも一變し、茲に世界政策を確立するに至れり、而して獨逸の此世界政策は之に當らんとする英、佛、露三國協商側に取りては、大なる威嚇にして、且つ挑戰的なりし也、斯くて外交上の危機は幾度か擡頭せしと雖も、能く戰爭の禍を回避しつゝありしが、千九百十四年七月、緊張の頂上に達し居たりし歐洲の外交界は、遂にサラエヴオに於る、一青年の拳銃の響と共に、最後の幕を切つて落せり、之を要するに即ち戰爭の主要原因は、獨逸の勃興に依る權衡破壞と、敵愾心と、力の衝突なりとせざるべからず、而して敵味方共に、凡ゆる勢力、凡ゆる犧牲、凡ゆる物資、凡ゆる苦痛、凡ゆる術之、凡ゆる後詰を忍び來りし結果、吾人が豫想し、期待したるが如く、世界大戰爭も聯合國勝利のもとに其終結を告げんとす、吾人をして今暫らく戰況を語らしめよ、然れども一定せる紙面に、此の大戰爭を詳記するは寧ろ不可能に屬す、されば吾人は其の主なる戰況を以てせん哉。

休戰！！講和！！勝利！！！

西部戰線

千九百十四年七月廿八日サラエヴオ事件より遂に墺匈國は塞爾維に向つて宣戰をなし、露國亦風雲の急なるを見て動員を行ひ、同月卅日獨逸は露國に向つて動員中止の最後の通牒を發し、全歐洲の危機愈々絶頂に達せる卅一日、英、露、獨帝の間に時局に對する交電ありしも、既に獨逸が墺匈國の自由行動を承認し、英國外相サー、エドワード、グレー氏の平和協商をも拒絶せし後なれば、三帝の照電は茲に不結果を見るに終るや、翌八月一日獨逸は突如露國に宣戰し、二日は既にルクセンブルグの抗議に一顧だも與へず、緊張せる獨逸大軍は歩武堂々ルクセンブルグの國境を踏破し、更に白耳義の斷乎たる抗議に接するや『必要の前には法律なし』と一笑に附せり、茲に於て歐洲列國の間に、神聖なる誓約ある永世中立國は横暴なる獨逸の爲に侵害せられたるを以て、英國は斷然之に對する最後の通牒的抗議を發せしも、誠意なき獨逸は此抗議をも拒絶せしを以て、四日英國も亦獨逸に向つて宣戰するに至り、之れより歐洲五強國は愈々戰狀態に入れり、

獨軍の追擊

戰備既に大成せる獨逸は、直ちに兵を進めて白耳義侵入を策し、七日を以て堅壘リエージュを占領す、之れより先き、アルサスの國境、ベルフォール附近に於ても、獨佛兩軍の衝突ありて、佛軍はリエージュ陷落の當日、即ち八月七日、住民歡呼の裡にアルトキルヒを占領し、ボー將軍司令官として、ザールブルグ、リユーネヴィルを保持せしも、遂に獨大軍の壓迫を受けて、退却の止むなきに至れり、英軍先鋒隊も亦、七日より二日間を以て、ブーロンヌに上陸せしも、此間獨逸大軍は波濤の如く白耳義に侵入し、クルック將軍はリエージュ占領後、直ちに首都ブラッセルに其鋭鋒を轉ぜしより、白國政府はアントワープに移れり、斯くて獨軍は廿一日を以てブラッセルを占領し、其の中軍は進出又進出、西方最進出地點は、既にアミアンに達し、リル。サン、カンタン。ラオン。コムピエーヌ其他の都邑は何れも獨軍の手中に歸し、特にコムピエーヌより巴里へは、僅に四十哩。

巴里の危機

巴里の危機は將に其の眼前に迫れり、されば八月廿九日を以て、巴里籠城の準備を始め、百萬の市民は西に東に、退却離散を始め、政府はボルドーに避難せり、嗚呼巴里の陷落か、千八百七十一年の歷史は、更に繰返さるゝの悲慘か、佛軍の全滅か、佛國の滅亡か、勝ち誇れる獨軍は向ふ處敵なきの概あり、唯佛軍の力と頼む英軍も高の知れたる小勢なり、嗚呼眞に此の危機一髮よ、此の時此の際佛國の全運命を背へるジョッフル將軍が、此の大難局に處する、果して如何なる神算鬼策ありや、世界は擧つて將軍の手腕に待ちし也。

佛軍の逆襲

此の時巴里の南方ナンシー、グランクーロンネの兩役に於て、佛國は能く敵の進出を喰ひ止めたるも、大勢は如何ともし難く、獨軍の進出は依然として、九月二日にはジャンチリー、サンリ、ラューに達し、殊にラューよりは遂に、巴里のエッフェル塔を望見するに至り、巴里の陷落は最早目捷の間に迫れり、英軍が巴里の危急を聞

(以下三面へ續く)

謹賀新年 全南木浦府 上田呉服店 電話二一番

謹賀新年 朝鮮木浦府 木浦ホテル 電話三百十七番

謹賀新年 京城本町二丁目七八 建築材料一式卸小賣商 鷹取虎次郎 電話百十四番 振替口座京城三六一一番

謹賀新年 三共商會 主任 有本正夫 京城府本町二丁目三番地 電話二八八七番

謹賀新年 京城府太平通二丁目 淺見製材所京城支店 本店 新義州江岸 支店 平壤港町 電話一七八七番

謹賀新年 京城本町壹丁目 和洋建築金物並諸金物一式商 井原京城支店 本店支那國安東縣 電話八三六番 三三番

謹賀新年 京城永樂町二丁目七十六番地 八千代生命保險株式會社京城支店 電話長一一三番

謹賀新年 國産東鄉便利瓦製品 アスファルトフェルト販賣 陸屋根工事專門請負 本店東京 京城明治町二ノ一〇七 工場東京 合資會社 空原商會 京城出張所 電話一四七一番

謹賀新年 各官衙御用達 京城本町二丁目三番地 木下藥房支店 電話長九三八番 振替京城二五四〇番

謹賀新年 李王職諸官衙御用 金川靴店 京城旭町一丁目 電話二〇六〇番

謹賀新年 仁川本町一丁目 電話三七〇 貴金屬商 時計商 糸岐商店 振替京城七一

謹賀新年 仁川本町四丁目 流行新型洋服調進 磯永洋服店 電話二一五番

謹賀新年 仁川山根町 最上醬油 倉重釀造場 電話三四番

謹賀新年 仁川本町四丁目 朝鮮水産組合京畿道支部 電話二七四番

謹賀新年 仁川本町四丁目 小間物雜貨卸商 安保商店 電話七八番

謹賀新年 仁川濱町 精米業 馬場商店 電話六四二番

謹賀新年 仁川宮町 内外雜貨釀造用具卸商 富澤商店 京城本町一丁目 富澤支店

謹賀新年 入院隨意 仁川仲町一丁目仁川俱樂部隣 壬生醫院 電話六〇六番

謹賀新年 仁川新町 小間物商 岩見屋商店 電話九四〇番

謹賀新年 仁川京町 兒西蒲鉾店

謹賀新年 和洋酒類各國罐詰味噌醬油類石油空罐各種容器新古麻袋包裝材料 仁川新町 河井新三郎商店 電話長三一五番 振替京城五九一七番

謹賀新年 仁川本町三丁目 野田齒科醫院出張所

謹賀新年 仁川 川添三次

謹賀新年 仁川寺町 產婆 芝モト 電話四一八番

謹賀新年 仁川本町四丁目 雜貨商 南方商店 電話一六六番

謹賀新年 仁川本町 米穀商 平山松太郎 電話一五三番

謹賀新年 仁川本町四丁目 米雜穀委託販賣輸出商 北島五郎商店 電話長一七二番 電略(キ)又は(キタ)

謹賀新年 仁川 綿糸綿布卸商 赤松吉藏 電話七六六番 振替京城一三三一番

謹賀新年 新年宴會は特に御便利に取計可申候 京城南大門通三丁目 佛蘭西料理調進 ファミリーホテル 電話二二八番

謹賀新年 京城南大門通二丁目 直輸入羅紗商 合資會社 睦商會 大連市大山通二丁目五 大連出張所 哈爾賓アリスタンモストワヤ 哈爾賓出張所

謹賀新年 京城消防組 組頭 伊藤友松 小頭 安達久四郎 小頭 中島儀三郎

謹賀新年 諸機械器具一式 鋼鐵 京城黄金町二丁目 市來商店 電話一六九四番

謹賀新年 京城南大門驛前 笑福旅館 電話長一五五一番

謹賀新年 京城長谷川町二〇二番地 祥興洋服店 主任 張鴻海 電話九七一

謹賀新年 南大門停車場構内 鐵道指定旅館 二見館 館主 篠塚玉 電話六八七番

謹賀新年 京城若草町一〇六 報國公債朝鮮支部 西村商會 電話長三〇二番

謹賀新年 群山本町 尼崎汽船部 群山出張店 電話一〇五番

謹賀新年 群山旭町 大坪法律事務所 電話一五九番

謹賀新年 群山本町 米穀商 花岡鶴松商店 電話三三番

謹賀新年 群山港 大平德三郎

謹賀新年 仁川 井伊勝一郎

謹賀新年 仁川新町 鶴屋菓子舖 電話八四六番

謹賀新年 材木商 木材商會 仁川支店 電話三三番

謹賀新年 仁川濱町 仁川旅館 電話四三五番

謹賀新年 仁川 市橋力

謹賀新年 仁川仲町一丁目 製粉並精米業 園田助五郎 電話八五五番 三五四番

謹賀新年 内國通運株式會社 仁川支店 電話五二八番 五五九番

謹賀新年 仁川海岸通り 仁川穀物協會 電話一五〇番 三三二番

謹賀新年 仁川 平井三男

謹賀新年 仁川本町三丁目 砂糖麥粉卸商 中島仁川出張所 電話長六二番

謹賀新年 仁川濱町 旭旅館 電話長一五一番

謹賀新年 果物及農產物肥料卸商 仁川桃山町 山野井倉次 山野井汚穢事務所 電話六〇四番

謹賀新年 仁川本町三丁目 海產物貿易商 平井商會 電話七二六番

謹賀新年 仁川新町 野田紙店 電話四四四番

謹賀新年 仁川新町 小倉小兒科病院 電話四〇二番

謹賀新年 仁川宮町 松本病院 電話三四五番

謹賀新年 仁川本町一丁目六番地 藤井八重藏

謹賀新年 仁川仲町 佐藤病院 電話四〇九番

謹賀新年 群山榮町 釀造元 河野酒造場 電話一三六番

謹賀新年 群山港本町 合資會社 群山興農會社 電話長四五番

謹賀新年 群山港本町 合資會社 群山通商會社 電話長三三番

謹賀新年 群山港 會席御料理 花月 電話六一番

を急行マルヌ河を渡りしは其翌三日にて、佛軍は同日を以て、決然退却を終了し、ジョッフル將軍は茲に愈々決死的逆襲攻擊を敢行せんとせり、獨軍は九月七日、白國々境の佛軍第一防禦線に於けるモーブージュ要塞を陷落するや、北兵力を動きて巴里の正面に向けたるは、作戰失敗の第一にして、佛軍の强襲に遇ふや其鋭鋒を挫かれ同日マルヌを横切りて退却の止むなきに至れり、而して一方フォッシュ將軍のラッフエル、シャンプノアンの一戰見事に功を奏し、獨軍は遂にヴィッツリーの陣地に追詰められ、防禦戰を開始するに至れり時に九月十日。

マルヌの役

マルヌの戰鬪はナンシー方面に於て佛軍が進出せんとする獨軍を食ひ止めたるが同戰の傑示にして、九月三日ジョッフル將軍が、斷然逆襲の作戰を樹てたるを其序幕として、フォッシュ將軍の奏功見事に、途に瀕石破竹の勢を以て、怒濤の如く侵入し來れる獨軍を擊退せるが此間實に一週間ならずして、其敗勢を轉じて、巴里を救ひ、聯合軍勝利の第一因を作りたるは、確にジョッフル將軍の手柄と云はざるべからず、ジョッフル將軍の勝利は、獨將ローリング、ホーフェンも認むるが如く、獨軍最高司令部の戰略が、ジョッフル將軍の其れに劣りたるに外ならざる也。

エーヌの役

九月十日マルヌ役の終るや十三日より更にエーヌの戰鬪となれり、本戰鬪は三週間繼續せしが、其の間佛軍はソアソンを恢復し、西部戰線は三部面に分割せられて停止せり、即ち其の一部はオアーズよりセダン迄、而して他の一部はエーヌ河に沿ふ中央部とエーヌ、オアーズより北方の最進出部、他の一部はマース、モーゼル兩河に沿うてセダンよりウールに至る部分なり、彼の有名なりしランスの大寺院が、獨軍の砲火を被りて炎上せしは、實に同月十九日にして、廿二日より全く塹壕戰に入ると同時に、獨軍はヴェルダン附近のサン、ミエールを占領せり。

開戰第一年

巴里はジョッフル將軍に依つて救はれしも、聯合軍には尙ほ二個の危機を有したり、其は即ち獨軍カレーに進出し、別路巴里に追擊して以て英國を威嚇せんとする目的を以て行はれたる、フランデルの戰鬪と、他の一つは西部戰線を突破し巴里に進擊せんとする、ヴェルダン戰鬪之れなり、フランデル戰は十月十日を以て開始され、幾週間も繼續せし後、十一月十一日、獨軍十二萬はイーゼル河を渡りしも、白耳義軍の企てし堤防破壞運動の爲め江水氾濫し、爲にフランデル戰は其第一期を終り、更に十二月五日、獨軍大擧イーブルを攻擊せしも、聯軍死力を盡して防戰し、漸く敵の侵出を喰ひ止め、開戰第一年は不決鬪を以て越年せり。

開戰第二年

千九百十五年は、獨軍主力を東部戰線に集中せるが故に、西部戰線は前年に比し閑散の姿なりし爲、聯合軍にありては、此の期間に乘じて、萬般の準備を急がしめたり、東部戰線に於ては、勝ち誇りたる露軍は見苦しくも、敗退を重ね、マッケンゼン將軍獨り、其盛名を縦にせり、然れども此の際に於ける聯軍の、敵軍抗制策應の効果は、頗る偉大なるものありし也。

斯くて千九百十五年の西部戰線は特に記すべきの大活動なかりしも、唯二月二十日英軍ニューシャペルを占領してリル方面に進出し三月十二日獨軍の逆襲ありしも失敗し、ニューシャペル戰の猛烈なりしのみ、秋季に至るや聯軍リル方面に於て攻勢に出たるも、間もなく中止し、ランス、アルゴンヌ間の戰鬪に稍見るべきものあり、九月廿九日、英軍ランに迫り、佛軍も亦スーシエ、ヴイミーの間に進擊してシャンパーニュ方面に於ても攻勢を取り、佛軍頑强に突擊してタウールを占領したり、英國キッチナー元帥が、露國に赴かんとして、途中獨逸潛航艇の爲め乘船擊沈され、遂に溺死を遂げたるは、實に同年六月十六日の出來事なりし也

ヴェルダン戰

西部戰線中最も激戰なりしはヴェルダン戰にして、同戰鬪は千九百十六年二月廿二日を以て開始されたるが、獨帝が此の作戰に大なる希望を繫ぎ居たりしは、皇太子を司令官に任命せしに見るも察せらるべし、從つて同戰鬪は、實に猛烈にして慘烈を極めたり、獨軍は開戰第一日及び二日に於て十五萬の死傷者を出し、聯合軍の一萬人は捕虜となれり、獨軍は斯る非常なる犧牲を拂ひしにも拘らず、其得たる處は尠少なる地域と、ヴェルダンの東北四哩なる、ヴォーモン堡壘のみなりし也、之れに依て察するも、其攻防双ながら、如何に頑强にして、猛烈なりしかを知るに足るべし、佛軍の防守愈々强なると共に、獨軍の戰鬪目標は、四日目の終りの戰鬪に於ては、獨軍東南及び西方に移展し、第十皇太子自ら西北に向つて、第二回の猛襲を試み佛軍の兩翼に對して突擊し、マースの東方に於てフレーヌを取り、其西方に於てコース丘を占領し、三月十一日には、ヴォー村に足場を得て、ヴォー要塞に肉迫せり、茲に於て英軍は佛軍に策應しイーブル、アルベール間に攻勢を開始しサン、エロアーに於て第一線塹壕を奪取せり、此の時英軍は漸次增加し來り戰線八十哩、即ち西部戰線の四分の一を受け持つ事となりたり、ヴォーモン要塞の攻擊は稍緩和されしも、三月三十日に至り、再び獨軍は大活動を開始し、砲火と、燃燒液とを施し、瓦斯の襖を作りて猛襲せしも、佛軍死力を盡して寸毫も屈せず、忽ち之れを擊退せしより、獨軍の攻擊は、ヴォーモンの東南ヴォー村に轉じ、佛軍は遂に同村を撤退するの止むを得ざるに至れり、四月四日ヴォーモンに於る獨軍の突破作戰は、確實に阻止せられ、二十九日獨軍は三度ダン方面の攻擊を始め、一度はマースの西方、アヴォクールの森と、死人丘の間に於て、一度はマース西北方に於て、又復砲火と、燃燒液と、毒瓦斯の襖を作つて猛襲し來り、更にヴォーモン、ヴォー兩村の間、マースの東岸に於て攻擊を加へたるも何れも佛軍見事に喰止めたれば、佛軍司令官ペタン將軍は、ヴェルダンのヒーローとして世界に名聲を博し、五月七日昇進と共に、ソアソン、ヴェルダン間の佛軍司令官に任命せられたり、五月二十五日獨軍は巴威爾師團の助力を得てヴォーモン要塞を奪回し、二十八日に至る迄ヴェルダン砲擊を繼續せしも、佛軍益々頑强にして動かざる事山の如く、獨軍の死屍纍々たり、ヴェルダン前面に於ける獨軍最初よりの損失は、實に三十七萬と稱せらるゝに至りぬ、斯て獨軍最高司令部の戰略は三度失敗し、聯合各國は佛軍の沈毅勇猛を賞せざるなく、英國首相ロイド、ジョージ氏の如きは『佛國民の血戰聯合國を救ふ』と迄賞せり。

ソンムの役

六月五日佛軍はヴォー要塞を失ひしも、其他の方面に於ては能く防守し、ヴォーモン要塞を一度失ひしも、忽ち奪回し、英佛聯合軍は同月下旬より、ソンム攻擊を開始せり、約一週間に亘りて敵戰線を砲擊し、七月一日ソンム河西岸廿五哩の正面に於て進擊を開始し、モントバン附近に於て五哩進出し、マメッツ、セルコン、タルメーゾン、ドンピエールを占領し、捕虜五千五百を得たり、英軍亦フリクールを占領して捕虜約二萬を得、此の攻擊は九月下旬迄繼續し、佛軍の獲たる捕虜四萬、英軍亦少からず、十月廿四日に至り佛軍は更に猛然として、ヴェルダンに大活動を開始し、ヴォーモン、チオスン村落の要塞、其他五要地及び塹壕を奪回し、捕虜三萬五千を得たるが、茲に於て佛軍はヴェルダン戰役二箇月間に失ひたる所を奪回し廿五日ヴォー要塞を攻擊して同所を奪回せり、西部戰線に於ける開戰第三年は、斯て慘烈の歷史を以て暮たり、米國大統領ウイルソン氏が、第一回平和通牒を發表したるは同年十二月廿日なりし也。

開戰第四年

開戰第四年目たる千九百十七年一月元旦に於て、土國は伯林條約と巴里條約とを棄却し、完全なる獨立國家たるを宣告せり、西部戰線に於ては一月十日、英軍アングル江畔に於て攻勢を始め、ボーモンタメル附近に於いて、獨軍の塹壕を奪取すると共に、頓に活況を呈し、二月二十五日を以て、獨軍はマルヌ以來の大退却を開始し、ブチー、ミローモンを始めとしてビー、セル、アッツ、マランクールを拋棄し、漸次撤退の區域を擴大し、ペロンヌ、ノアイヨン、ネスルは聯合軍の手中に歸し、獨軍は遂にヒンデンブルグ線迄も退却せり、聯合軍は三月十日迄に二百五十の部落と、千三百平方哩を獲得せり、其後聯合軍は進出速度を減じたるも、依然之れを繼續し、六月中旬に至つて英軍はヒンデンブルグ線十哩を占領し、佛軍又たクロアンヌ高原全部を占領せり、千九百十七年は殆んど獨軍の大退却を以て終りたるが、二月三日米獨の外交は斷絶し、米國第一回派遣軍が佛國に到着したるは、六月廿六日なりき、而して三月十二日には露國に革命ありて、九月十五日共和制を宣し、十二月廿二日過激派政府は獨、墺、土、勃に對し講和談判をブレストリトウスクに開けり、即ち露國は開戰四年間に於て遂に壞滅せり。

開戰第五年

開戰第五年目たる千九百十八年即ち昨年は、二月九日露國過激派の講和條約調節に始まり、西部戰線に於ては獨軍は最早東部戰線に顧慮を要せざるが故に、最後の一擊を三月廿一日を以て同戰線に試みたり、其結果英軍はアミアン正面とイープル附近に退きペロンヌ、バポーム相次いで陷り更に人をして聯合軍危機の再來を慮からしめし際、フォッシュ將軍の軍總司令官に任命あり、聯合各國は大に之れを歡迎し、將軍亦心中自ら期する處ありたり。

兩軍の兵力

五月廿七日獨軍の第二次攻擊を開始するや、聯合軍は終にソアソンを拋棄し、獨軍はシャトー、チエリーを頂點とする一大突角を造り、再び千九百十四年の最深入線を冒し、巴里爲めに危からんとせるも、フォッシュ將軍少しも騷がず、徐々に作戰を計畫せり、元來獨軍は三月以來必死的の努力を以て突擊を繼續せしも、勞力と損失の割合に、其得る處少きに失望し、少しく倦怠の氣色現はれたるが上に、豫備軍は既に使用し盡され居るにも拘らず、聯合軍は尙ほ其の第一線の軍隊を保有し、無疵の儘なる新鋭の大豫備軍を有する點に於て四年以前ジ將軍の試みたるラ、フェール。シャンブノアの歷史的突擊の時よりも、戰局寧ろ有利なるの觀ありたり、之れを大體より見れば、四年前のジョッフル將軍の、巴里防禦逆襲と、フォッシュ將軍の今日とは、甚だしく似たる點なきに非ざりし也、フォッシュ將軍の逆襲的作戰を、實地に敢行指揮したるは、千九百十六年、ヴェルダンに在りて偉勳を奏したる、マンジャン將軍なりし也、先づシャトー、チエリーの郊外より、エーヌに至る三十五哩の正面に於て逆襲を開始せしに、獨軍の弱點は隨所に發見せられ、七月廿一日シャトー、チエリーの突角は忽ち擊破され、八月二日ソアソンを奪回し、全く攻守の位置を轉倒し、恰も獨軍の出急なりしが如く、聯合軍の追擊亦頗る急激を極め、米軍はサンミエール方面、英軍は北佛方面、白耳義軍はフランデル方面に、轡を並べて進擊又進擊を繼續せり、獨軍は逆襲するの勇なく、退却に退却を續け、十一月七日セダンの陷落と共に、獨逸は遂に休戰條約に調印して、茲に大戰は四箇年十一箇月を以て平和の曙光に接し、本年初頭に於て講和會議の開會を見るに至れり、ヘーグ將軍は、曾て今次大戰の最後の勝利は、西部戰場にて決定すべしと云へり、實に其の言の如し、勝利！勝利！獨逸は遂に屈服せり。

新年文藝

◇—下句付—◇

『アラ嬉し』

一等　平北寧邊獨山　宮崎裏扇子
◎アラ嬉し春花に幸ある御代の春

二等
京城大和町一ノ一　桂信介
◎アラ嬉し大吉と出た初御籤
京城櫻井町二ノ二三　高須賀默
◎アラ嬉しまた勤續の杯が頂け

三等
京城明治町二ノ四三　安藤つる
◎アラ嬉し十年振りに男の兒
慶南晉州　鎌倉不二子
◎アラ嬉し陣中無事の初便り
慶南晉州城內森山方　福井幸子
◎アラ嬉しと思ふ間もなく夢が醒め

秀逸
△こけても泣かぬ餅の下駄　京城　岸浜舟
△黑潮に仰ぐ日章旗　龍岩浦　篠水
△茲がどうやら物を云ひ　京城　厄介坊
△あてにしないに當選し　京城　東海
△花の莟の片笑窪　春川　西村玉水
△初買物に一等賞　京城　春晴
△組んだ相手があひてなり　京城　卜三郎
△昇る旭に初烏　京城　羽雪
△願ひ叶つて新世帶　京城　やなぎ
△島田髷の初詣　京城　文守
△肩身が廣い男の子　京城　入阪多喜子
△姉が嫁名の文便り　洪城　中畑一水
△波止場に母が待つてゐる　洪城　豐田飛騰
△一家揃つて年始へ　京城　狩田捨松
△日に肥り行く並兒　平壤　木多光才
△平和に蹴く全世界　谷山　茜茶

謹賀新年　京釜線天安　萩原吉五郎

謹賀新年　京釜線天安　雜貨商　津川八十松

謹賀新年　京釜線天安　西岡豐

謹賀新年　京釜線天安　米穀商　金谷吉郎

謹賀新年　京釜線天安　天安運輸組　吹拔鐵四郎

謹賀新年　京釜線天安　雜穀商　岡半三郎

謹賀新年　京釜線天安　垂井樹

謹賀新年　安東縣四番通三丁目　清酒白鹿　宮川支店　電話三〇番

謹賀新年　黑鉛採掘製錬販賣　工場　新義州中島北下洞　營業所　安東縣六番通九丁目　達山鑛業所

謹賀新年　仁川驛前　菊屋旅館　電話四一四番

謹賀新年　仁川龍里　製粉業　福西製粉所　電話三六番

謹賀新年　仁川仲町　海產物　魚類仲買　蒲鉾製造　山口紋太郎　電話四〇一番　振替京城二〇四二番

謹賀新年　仁川　新谷慶藏

謹賀新年　仁川宮町　御料理　食道樂　電話一五五

謹賀新年　仁川宮町　木村幸三郎　電話四六番

謹賀新年　京城府南大門通五丁目　重石貿易商　水飴　二葉商會　電略（フ）電話一四一七番

謹賀新年　東京製品履物　井上商店　京城本町三ノ二六　電話一七五

謹賀新年　京城南大門通三丁目　大工道具　金物類卸　小林萬綠本店　電話八十四番　振替京城一七八〇番

謹賀新年　滿鐵鑛業販賣課　安東出張所　電話三六九番

謹賀新年　雜貨商　原口二一　忠州本町

謹賀新年　朝鮮忠州本町　和洋酒　雜貨　食料品　罐詰　菓子　井筒屋百貨店　電話五十九番

謹賀新年　公州面長公州學校組合管理者　川崎平太郎

謹賀新年　吳服反物商　水野彌吉　忠州本町

謹賀新年　官廳御指定旅館　瓦燒火製造販賣　鶴屋旅館　忠州日出町

謹賀新年　調達　御用　既成品　村上洋服店　忠州本町

謹賀新年　仁川海岸町二丁目　貿易商　庄野仁川支店　電話長五四番

謹賀新年　仁川仲町一丁目　御料理　朝日樓　電話五三番

仁川仲町一丁目　仁川ホテル　電話五二二番

謹賀新年　仁川松涵石油組合　電話七一五番
組合員
河野本店　電話二八番　三八番
井上商店　電話一六八番
鈴木商店　電話一二一番
鬼頭商店　電話六六番
赤松商店　電話七六六番

謹賀新年
仁川本町二丁目　慶田組輸出部　電四十二番　振替口座京城二五四番
仁川海岸通　慶田組荷捌部
電信略號（ケイタ）又ハ（ケ）電話七十八番　振替口座京城三六六　慶田組濱出張所　電話二七八番

謹賀新年（いろは順）
仁川宮町　大湖屋吳服店　電話三六四番
仁川仲町二丁目　山本吳服店　電話一四六番
仁川本町四丁目　松屋吳服店　電話八一二番
仁川仲町二丁目　福田吳服店　電話八一〇番

謹賀新年　仁川海岸町　不二商業株式會社仁川支店　電話長六二一番

謹賀新年　京釜線天安　薪炭商　矢野彌之助　振替京城一、三二六

謹賀新年　安東縣市場通七丁目　文具　雜貨商　中原商店　電話三五番

謹賀新年　安東縣鎭江通　材木商　荒川洋行　電話四二六番

謹賀新年　京城永樂町二丁目　公證人　山邊勇輔　電話一八四〇番

謹賀新年　京城長谷川町　板紙各種　和洋紙類　紙函製造　名刺印刷　鼎商會　電話九一八番

謹賀新年　朝鮮京城本町二丁目　森啓助商店　電話四三〇番　京城旭町三丁目　洋家具製造工場

謹賀新年　京城府本町二丁目　印半天　家紋類　室內裝飾品　製造販賣　綿類一式　増田本店　電話長百〇九番　振替口座七六番

謹賀新年　群山府西濱町　群山水產株式會社　電話一一五番　振替京城四四八番

謹賀新年　群山府大和町　官鹽　輸入　雜穀　鮮南勸業株式會社　電話長三三〇番

謹賀新年　群山港　布井精米所　電話長一二番

謹賀新年　朝鮮仁川海岸町一丁目五番地　三井物產株式會社　仁川出張所　電話長三六一番　四三八番　振替京城三〇七四番

謹賀新年　寶田石油株式會社代理店　朝鮮直輸入販賣　大日本鹽業株式會社　再製鹽販賣　帝國麥酒株式會社代理店　仁川本町二丁目　神戸　鈴木商店仁川出張所　電話長八三番、八五六番

謹賀新年　仁川　楠野俊成

謹賀新年　京城電氣株式會社　仁川支店　電話二一四番　本町出張所（電話三四番）

謹賀新年　仁川本町四丁目　輸入貿易商河野本店　電話一一八番　三三八番

開国の魁 朝晴雪

伊藤花遊講演　森田久諧

萬延元年三月三日は昨日より降り出した大雪が歇んで實に日本晴れの好天氣でありました、本年の御勅題に出た朝晴雪とは實に斯る日を指したのでございませう、水戸の浪士十八名、愈々時の大老井伊掃部頭を討つべく手筈が熟して品川の引手茶屋柏屋に最後の謀議を凝し、明三日上巳の節句、必ず大老井伊直弼を討たうといふここになつて相談が纏り、偖勢揃ひは芝愛宕山の山上と云ふここに極めて、廣岡子之助、鯉淵要人、杉山彌十郎、其他數人は先きに歸り後の者は殘つて土藏相撲と云ふ遊女屋で一夜を明かし、品川を出て皆朝晴れとは云ひながら雪が深いから駕籠に乗つてドン／＼愛宕山を指して乗込みました八ッ山廻り大門から左に切れて青松寺の門前に出で雪の中をばザク／＼愛宕山へさやつて參りました、是にて勢揃ひをして出掛けやうと云ふので、男坂下で駕籠を降りて足駄服の儘、女坂でも登ることか男坂を、ドン／＼昇つて行く、駕籠屋は變に思ひました〇『エ、相棒、可笑な人達ぢやねゑか、屋敷へ歸るのかこ思つたら男坂を愛宕へ上つて往つたぜ 〇『ナーニお前、其奴ア分つてるらァ、雪見こ洒落のめしたんだぜ、御家中の人々は氣樂で好いナ 〇『全くだ、我僧ァ雪が降つても斯うして仕事をしてゐなきや成らねえ、極り碌を背つてゐなさるんだから雪が降れば雪見、花が咲けば花見、イヤモウお互に來世は侍に生れて來やうな 〇『全くだ』人の心は分らない惩んなここを云ひながら、空を絞つて戻つて行く、此方は一同が男坂を登つて見るこ掛茶屋に腰を掛けて酒を叩つてゐるのが廣岡子之助、鯉淵要人、杉山彌十郎、海後磋磯之助、増子金八、齋藤監物、岡部三十郎、森山繁之介等でございます 〇『イヤ、大きにお待ち遠でござつた 覧『今來たばかりだ、御身等は昨夜は此の世の思ひ出に品川で遂う／＼遊んでしまつたこいふぢやないか ×『御身等は前議後立歸られてしまつたから仕方がない其だ殘念に思うて居た慾じ中懇蔵の家や水戸邸へなぞ往つて泊るこ氣取られては成らんに由つて』それで女郎屋へ一泊してしまつた『ウム、まだ刻限も早いナア、寒い』崖の上に上つて向ふ迩に俯瞰せば品川の海は漉霞をぼかした様芝浦から左深川の果てまでも雪は皚々として見渡す限り銀世界、天地寂然として萬籟止むこいつたやうだ、寛に得も云はれない好い景色で御座います、其時に齋藤監物が聲高らかに吟じた詩は

胡馬南來久不歸。山河踏破一身危。功名誰我齊雲過。歳月籌人和雪飛。伸事恐貽千歳笑。此身甘與衆人違。唯今唯寿君親在。血涙紛々點客衣。

衆皆手を叩いてドッと勇んだ、倍時刻は來た、一同ソレッとばかり女坂より麓に下り、おのが腰刀扮裝は一様ならぬ冠笠、心ばかりは赤合羽、降りしきる雪の中を櫻田指して急ぎました、其處で道を眞直に新橋見附を這入つて堤の縁を廻つて御用屋敷の角を右に切れ三浦志摩守前を過ぎ、西尾隱岐守相馬大膳亮、阿部因幡守、柳澤民部輔、上杉彈正大弼の屋敷の所まで來た、上杉邸が今度今の司法省でございます、櫻田のお濠端の所に掛茶屋のあることは前回に述べました主人を八藏と云つて毎日／＼此處へ家から藥罐を持つちや通つて往き來ふ人に茶を呑ませ、僅の茶代を貰つて漸々其日を送つて居ります今日は朝からの大雪です虎の門に自宅がある勿論三尺小店で女房のおたかと二人暮し 八『オヤ此人ちや見世を出た所で客が來もありアしねゑ、一日休まうと思ふ 左『だが休んだ日には晩のお米がないのだからせめてお米代だけでも稼いで來てお呉れよ、今日は上巳のお節句、お大名は總登城雪は深いけれども却つてまた行列見の人が出るかも知れない、夫に雪見なんて洒落た人がね 八『それもさうだなア、ぢやアマア出て見やうよ』朝起ですから今の時刻で午前七時半頃、例の通り藥罐を提て櫻田の店へ來る、葭簀を巻いて居る處へ 〇『コレ八藏……』後から聲を掛けられたんで見ると立派な侍だ 八『へイ、これはお早うございますまだ日が經つて居りませんから 〇『イヤ、拙者は八丁堀の與力だが少し其方に尋ねたいことがある、一寸八丁堀の大番屋まで來て呉れ 八『ド、何ういたしまして、私は八丁堀の日那衆にお叱を蒙るやうな筋はございません、御勘辨を願ひたう存じます〇『イヤ心配するこはない一寸だ 八『ハイ 〇『參らんこすれば繩を掛ても連て行ぞ 八『ヘイマ參りますでございます御用こあれば仕方がない』其儘藥罐を提て八丁堀へ連れて行かれた、此人は島田兵衛の組の者で斯うして職權を濫用して八藏を拘引させ其跡へ自分が參つて炭をドン／＼起して湯を沸かし浪士の來るを相俟つた八藏は島田兵衛の屋敷へ連れて行かれたがナーニ調べも何にもありやアしない一日暗ひ座敷へ放り込まれた儘だ夕刻に相成ると兵衛自ら八藏を呼出して 兵『倅八藏手は江戸府内火附盜賊改め役島田兵衛である其方に少々尋ねたいここがあつて此處まで參つて貰つたが其事は最早相濟んだ、一日の間を缺かして甚だ氣の毒、相濟まんこだホンのこれは拙者の志し持つて歸つて呉れるやうに……』ご金十兩を差出しました八藏は驚きました昔から岡ッ引や、旦那衆の所へ酷く恐縮した奴を、兵衛が無理に納めさせて 兵『其代り八藏、此事は世間に默つて居て呉れよモシ島田の屋敷へ往つて是れ／＼こいふ話を鳥渡でもするこ其時は召捕るから……』八『へイ必ず他言はいたしません』こ十兩貰つて歸つて來た、だから此事は世間には知れなかつたので斯くして浪士を萃らつたのは全く島田と云ふ人の好意でありました其姿も一様でありませぬ赤合羽に饅頭笠、仲間風の人もあれば羽織に大小、足駄を穿いてゐる人もある、また中には甲掛脚絆草鞋穿き絲立は身を包んで大小の礪の見ねぬやうに身をすほめて一見旅商人か富士登山こいつたやうな變な姿をして居る人もありまして、ボッ／＼ご彼の掛茶屋へ這入るこ、木綿堅縞の衣類に前垂掛け、襷に醤油で煮染たやうな手拭を提て何う見ても掛茶屋の亭主こいつた風の男こ、見るこれが島田兵衛だ炭俵が三俵ばかり運んであつてドン／＼起つて居る暖かいの何んのこいつて……佐野武之助から一同に厚く今日の厚意を謝しました、スルト森五六郎が頻りに何にか頬張つて居る武之助が 武『何にをして居るのだ 五『イヤ斯ういふ手當が行屆いて居らうこは知らんから手先が冷へては不可んこ思つて虎の門の鋳き立ての大福餅を買つて來て見るこ斯の如くに火が起つて居る、捨るのも勿體ないから腹の中へ入れちまはうこ思つて 武『温石こは思ひ付きだつたな一つ呉れ 五『客なここをいふな 武『客なここを申して呉れ濫つて居る貴樣の方が客だ 五『モウ二ッツきやアない 武『二つ結構だ、高橋貴樣にも一つ遣らうか 太『イヤ、貴はう／＼』手を出た 武『ソラ大きな方をやるぞ 太『嘘を吐け小さい方ぢやないか、アハ、、イヤ斯んな戯れごこをいふのも束の間になつた一度又供先きが見ゆれば忽ち變る修羅の巷、見て置け浮世の見納めだ、何んこ半藏の方からうね／＼した那の堤に積つた白雪の美しさ何んこも言へんのう 五『ウム暫くは降りしきる雪の景色を那方此方こ眺めて居りましたが太一郎は懷中の筆を用紙に染めて

白刃爭飛雪。斬仇報主恩。
今朝我事畢。豈與任人言。

太『ごうだ是れは……』ご森五六郎に示しました 五『能く出來たが我事畢るは少し不可ない悲りや事を遂げた後でなければ成らぬ 太『無論ぢやが遂ぐるも遂げざるも我事畢るには相違あるまい 五『成程俺が悪かつた、能く出來たナ、見ろ雪の中を向ふから魚屋が勢ひ能く半纏を撒いで飛んで來るアノ半臺の中から半分出て居るのは鯉だらう 太『さうだ 五『鯉はづしに成る昔は武士に通ずる筆を貸しなさい』こ森五六郎が認めたのは

身を棄て、君に捧ぐる鰹かな

衆皆手を拍つて阿々大笑をいたしました、スルこ鯉淵要人がまた認めて差出したのは

あぢきなや闇の夜出で、武藏野の名をひろ／＼こ雪の上まで

杉山彌一郎が

ますらをが涙に袖をしほりつゝ迷ふ旅路はた、君が爲

市『イヤ皆んなやるな／＼』まだ大老の登城には半時間がある、ドリヤ拙者も負けぬ氣で一首やらうか笑ふな各々 一同『和歌の大家こいはれて居る蓮田氏の雅懐を是非承はりたい 市『さう煽動ては困るではないかアハ、、』一同が蓮田市五郎の認めた和歌を差覗いて見るこ

諸人の花見る旅に引替へて嵐まつ間の身ぞ哀れなる

敷島の錦の御旗もちさゝげ皇いくさの魁やせん

世のため思ひ盡せし眞心は天津御神もみそなはすらめ

立ち續けにさら／＼こ認めたのは程出來た人でございます、今死ぬこいふ一刹那、心も亂れず筆も亂れず斯る三十一文字をものするこいふ昔の武士は確かに偉かつたも恐れ入つた、皆中々やり居る風有村次左衛門手を拍つて 次『ごう薩武士でも少しは遣り居るこいふ所をお目に掛けやう、然し各々笑つて呉れるな、テニヲハも何もあつたものぢやないんだから 五『有村氏、貴公も名代のものだぞ、是非一首やつて呉れ 次『よし墨斗を貸して呉れ』是れも一點の淀みなく書き記した

岩が根も碎けざらめや武士の國の爲めこて思ひ切る太刀

君の爲惜す心はむさしの、野邊の草葉こなるまで

古郷の花を見捨て、迷ふ身は都の春を思ふばかりに

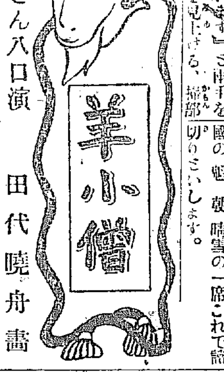
一同『フウムー恐れ入つた、刻限は愈々近附いたぞソレ……』各々掛茶屋を立ち出て、各々其部署に就いた時にドーン／＼／＼こ五ツのお太鼓が鳴る、折柄の雪に誘いて一層壯絶の感を起しました時に雪愈々霏々こして激しく大地噫々噫寰に果斷敢爲の氣象に富み、生命を犧牲に供して內論下議を排斥し俎豆調印の間に外交條約を締結した、實に空前絶後の大宰相も誤解こいふものは恐ろしいもので、此の春雪の共に消ゆる此の噫々たる天地に身を横たへんこは思はなかつたでございませう、恰度申し上げまする通り此日は上巳の節句で、一年の内の三大節句でございますから諸侯の登城、總拜賀がございます、大老は其準備もあれば諸侯に先立つて五つ時登城、ハヤ五つ少し前なれば供揃ひはソッ御門内に出來て、大老直弼は御玄關傍まで立ち出でました、奥方始め皆々お送り申し上げ乗物に召す、エーホー／＼／＼……先供はハヤ御門内を繰出した、掃部頭は御先祖以來片箱、一本道具、二本道具はお用ひなさらない、既定の從者前後左右に相固め『エーイ、下に居ろーッ……下ッ……』大老々中でなければ下に居ろこいふ掛聲は出來ない、普通の諸侯はエーホー寄れッこ斯ういふのです丁度今の隅平守近良侯の門前の所まで來た、面々ソレこ云ふので鎧を堅める第一番に其中より進み出でたのが佐野武之助お乗物間近の雪中に平伏して兩手を突かへ大音を揚まして 武『恐れながら天下一大事の儀に就てお願ひの儀がございます大老井伊掃部頭こ見受け奉つてお願ひの儀がござります』供頭五百五十石日下部三郎右衛門 三『是りや／＼御願ひの儀は相成らぬ、願は願を以て願へ 武『イエ天下一大事の儀にござります、何卒お慈悲を以て、御採用の儀を願ひ上げ奉りまする』こいふのは前件述べた如く昨節柄もシ替玉でも這入つて居た日には成らんこ想ふから一應乗物の主を改めてから斯つて掛らうこいふ積り、生憎雪が激しいので戸がピッタリ閉め切つてある 武『ア、困つたものだ』こ思ふ内に供廻りの二三人前後左右から差越願は相成らんこいふに……トーンこ武之助を一つ突いたから佐野は雪の中へ引繰返つたが少しも怒かず起上つた佐野武之助は再び三度起がつて 武『お願者でございます何卒御大老にはお採用の程を願ひます』日下部三郎右衛門が 三『成らぬこ申せばならん願は願を以て願へ』こ大聲發お駕籠の内にあつた掃部頭は戸を自らサッこ開け給ひ 掃『天下一大事こある取上げ遣はせよ』こ仰られた 武『有難き仕合せにございます』こ兩手を突いて駕籠の内を見上げる、掃部頭殿も如何なる奴であるかこキッこ其顔を見て助にズーこ身を引いて 掃『曲者、召捕れッ』こ唯一言仰しやつた、全く願ひの筋ある者か掃部頭を斬らうこいふ者か夫りやア此位の方になるこ一ト目見れば相分ります、決して其見分は付かないやうな盆暗では天下の執權は勤まらない、曲者召捕れッこいふ御一言を聞くや否や、傍に控へし一人の衛士お駕籠の戸をピッタリこ閉め切りました、大小を取るこ武之助はサッこ後へ飛び退つた、素より劍術手練の者なれば其早業こいふものは目にも止まりませぬ飛鳥の如く大小を腰に差し諸肌を脱いだ其下に白の稽古襦袢を着て、肩の所には誠忠こ大書してあり背中一面には

櫻田の花こ屍は晒すこもなご緩むべき日本魂

こ墨痕鮮かに記してございます、武『イザ……』こ合圖の刀を二つにけるこ四方に最前から部署に著いて居た浪士の人々『ソレッ』こ一度こ動きまして是れより櫻田、朝晴雪の中に大活劇を演じ、遂に井伊大老の首を揚げるこいふ開國の魁 朝晴雪の一席これで讀切りこいたします。

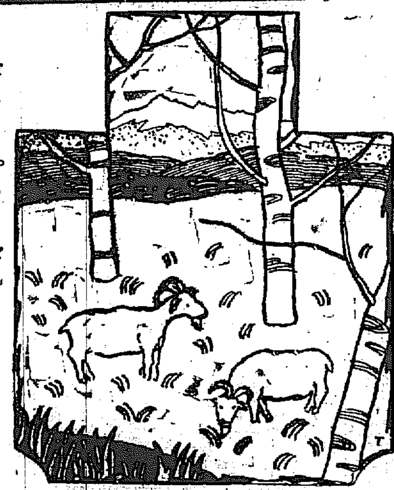
羊小僧

柳家さん八口演　田代暁舟畫



エ、明けまして誠に結構な春でございます、本年はまた取分けて、長年續きました戰爭もお仕舞になりまして、是れから平和會議こやらが開かれます、實にお芽出度い年柄でございまして、まあ精々皆様も新年をお祝ひ遊ばすやうに願つて置きます、其のお祝ひ序に夜分は御家族御同伴で寄席へも入らしつて戴くやうに、慾張つたお願ひもいたして置きますんで、就きましては未年に因んで羊、俗に申す種お若のお話を一席伺ひます、世の中に泥棒こいふ不思議な商賣がございます、商賣往來の内にも區役所の戸籍にも泥棒こしては載つて居りませんが、那の大きな監獄が繁昌いたして居る所を見ますこ、なか／＼澤山ある商賣のやうに考へて居ります、だが泥棒は一番冬に多いさうでございます、別に時候に構ひさうもなさそうなものでげすが、コソ／＼泥棒は冬に限るさうで御座います、隙を狙つて鳥渡這入る、冬は戸が閉てあるから之を開けて這入るこいふ事は中々難しい、俗にでも泥棒こいつて、頭へでもがつく奴が御座います、種々な事をして、ごうもうまく行かんから、泥棒でもして見ようこいふ、之がでも泥棒、中にはでも俳優、でも落語家なごこいふのがある、でものつくのに餘りい、ものは無いやうで御座います、泥棒は泥棒だけに、立派な泥棒こいふのも可笑う御座いますが、大袈裟の事をしたいこいふので、夫々矢張修行をする、けれごも初めから大泥棒にならうこいふ望みの者は千人の中の一人ださうで、鳥渡其身の出來心でやるのが多い、漸く出來たものを只盗るので御座いますから、實に憎むべきもので、勿論盗られる方にも油斷があります、中には餘り寒いから閉切つては寢られないこいふので、表だけ締して庭の方は開けッ放して寢る方がある、然ういふ所へ這入るのはこそ／＼こ云つて大した泥棒では御座いません 女『お前さん、鳥渡お起きなさいよ、泥棒が這入つた樣子ですから 主『なに、泥棒が入つた、泥棒が這入つた所で何も盗られる物は無い、打捨つて置きなさい 女『だつて恐いぢやアありませんか、何も無いこ云つて、勝手道具一つ持つてかれたつて早速困りますよ 主『まア騒ぎなさんな何處へ這入つた 女『臺所の方でごと／＼して居ます 主『あ、庭の方を開けッ放して置いたから這入つたかな、成程ごこ／＼やつてるな……うむ鼠だ、泥棒ぢやアない 女『いゝゑ泥棒ですよ 主『鼠だよ』泥棒之を聞いて仕方がないから、所でちう／＼こ鼠の鳴き聲をした 主『それ見なさい、鼠が鳴てる 女『成程……併し鼠にしては少し聲が大きいぢやアありませんか 主『然うだな、然う云へば猫かな、矢張泥棒の竊だ、飼主の無い猫で、俗に泥棒猫こいつて、喰物に困つてそれで來たんだらう、まア いゝや／＼ 女『それ猫にしても少し聲が大きいぢやアありませんか 主『それぢやア犬かな 泥『わん 主『よ、わんこ鳴いた 女『けれごも犬よりもつこ大きく聞ねましたよ お ぢやア馬ぢやアねゑか 泥『ひいーん 女『馬より大きいやうで……主『牛だらう 泥『もうッ 女『牛より大きい 主『虎かな』泥棒も、虎ちや鳴き聲が解りません、驚いてがた／＼駈出ました 主『ほら虎だ』主人が雪洞を點けて庭へ飛出たから泥棒は塀を越えて逃げようこしたが塀が高くつて飛上がれない、逃場を失つて庭をまご／＼して居たが、眞ん中に池がある、然のみ大きくはないが古池でかなり深い、之れへ飛込んで隅の所に頭だけ出して隠れてゐる 主『あれのやうだな、それ松の枝が垂てゐる、あの枝の下の所にゐる、それこも杭かな、何かないか、棒は……女『然うですね、彼所に竿竹がありますよ 主『うむ、あの竿竹を出な』竿を取つて泥棒の頭をぼか／＼毆つて 主『杭か泥棒か杭か泥棒か』泥棒仕方がないから 泥『くひ／＼』泥棒にもこんな氣樂な話が擧げて數へられん程御座います、前申し上げた通り、決して大泥棒にならうの何のこいふ譯でなく、出來心でやるのだこ申します、之れはもう夫に相違なやうで、性は本善こか申しまして、人間の心は直なるもの、處が欲情だの色情だのこいふ魔道がありまして、悪が偽に直なる心が曲ります、其證據には人殺しをするやうな大悪人でも、大川端を通つて南無阿彌陀佛こ身を投げて死なうこいふ人を見れば、後から突飛ばして殺して仕舞ふ氣遣ひはない、まア待ちなこ留めるのは常然、人の物を盗まうこいふ氣はあつても、往來で年寄が物を落して知らずに行けば、お婆あさん何か落ちましたよ位の事は教へる、斯ういふ場合には自然本性の善が現はれるのださうで、往來を歩いてる時に、突然に其處へ火が燃上がりでもすれば、一緒に團扇をもつて煽ぐ氣遣ひもなければ、之れを大きくしようこいふ考へは無い、矢張消さうこいふ念が浮ぶものだこ申します、爰に金田九郎こ云ふ暢氣者が居りました、元は士族の出で、親父は相當の財産もあつたんですが、士族の商賣で、お父さんが摺つてしまつて、九郎さん子供の時分に而識の家へ奉公にやられ、腕は相當に出來て來ましたが性來の怠け者、唯今では獨立さして、裏長屋を一軒張つて居りますが親方の家へ仕事に通ふでもなし唯仕事を怠けてブラ／＼遊んで居ります、一夜明けての今日は元日餅もなければ金もない既丸火鉢の前に腕を組んで考へて居りましたが 九『アヽー詰まらねい／＼、世の中は正月で、目出度いの、何のこ云つて陽氣に遊んで居るが、俺ん所ばかりは全然火の消へたやうなものだ、尤も無理はねゑや、十二月の月へ這入つて一日も仕事をしねゑんだからな、まアごうやら斯うやつて生てるだけが不思議なものだ、アー、金が欲しい／＼金さへあれば裸で三越へ往つたつて、直年始の着物も間に合ふんだ、餅屋へ行きやア餅も呉れるし、酒屋へ往つたつて金さへ出せば直三ッ樽でも四斗樽でもお待遠様こ持込んで呉れるだ、アヽー、欲しい／＼金が欲しい……シッシ／＼、畜生奴、壁間から鼠が天井で綱渡りをして居やがる、不景氣なんだから鼠まで馬鹿にしやアがつて……アヽー金が欲しい、金なくて何の己が花見かな、チッテンか……』暢氣なもので困りながらも鼻歌を唄ひながら、頻りに考へて居りました、小人閑居して不善をなす、斯んな人間が腕を組んで考へた結果は碌なここは考へません テレテン／＼スッテケテン、ピエーヒヨロ／＼／＼ピューッ……九『アヽー正月だな、斯んな裏長屋へでも獅子が來やがる 〇『へエお目出度う 九『出ないよ、御無用だな、何んだつて無闇に戸を明けるんだな 〇『お目出度う、町内の獅子でござい 九『町内にもあるもんけい、外は正月でも俺ん所へはまだ正月は來ねゑんだよ、畜生奴……アレ明放して往つちまやがつた……オヤ待てよ、那奴ア好い商賣だ、何處の家を勝手に明けたつて獅子や萬歳なら小言をいふ奴はねゑ、俺も獅子舞に出よう、さうして他の家を明けて、モシ留守で誰もゐなかつたら、御免蒙つて上がつてよ、何にかチョイこ拜借をして來るんだ、盗んだんぢやねい斷らずに一寸拜借をして來る、モシ人がゐたらクル／＼舞の二三度もすれば幾らか呉れるだらう、ウム、さう／＼、是りやア好いここを考へた』ナニ好いここを考へるものぢやございません 九『イヤ不可ねい／＼、獅子がねゑや……テ、あるぞ／＼、猫町の髪結に去年頼まれて來年は羊年だから、子供がズッポリ頭から被れるやうな羊を拵へて呉れろこ註文されて、モウ上塗まで出來てゐる、跡は二三日で仕上がるんだが途而倒臭いから其儘にして置いた、那奴を被らう、ナニ、獅子だつて羊だつて構ふここはねい』こ棚から取下ろした羊の面、戸棚から古い萌黄の大風呂敷を出して、此奴を飯粒で張付けました 九『アハ、、出來たよ、旨いもんだね』この智慧てねものは備、孔明以上だぜ、眞個に……斯んな戸棚に仕はして置くのは惜いもんだ』さすがに近所の人に見られるのも都合が悪いこ、家は風呂敷の中へヒン丸めて表へ飛出ましたが、流石に世間は陽氣です 九『ごうでい、正月らしいな、ヲヤ／＼向ふから來たのは醫者だな、此方から好い娘が來たね、ソロ／＼此處から始めようかな』ガラ／＼／＼ 九『ヘイお目出度う、町内の獅子舞で ×『何だ、不可ねいよ、手が塞がつてるよ 九『町内の ×『巫山戯るな、町内の獅子は今來たばかりだ、乞食獅子だらう 九『オーヤオヤ、不可ねい／＼、今町内の獅子が來たばかりは間が抜けて居たぜ……洒落た家だね、格子作りで……妾かな、常磐津の師匠こいふ構ひだね……』ガラ／＼ 九『へエ、お目出度う……町内の獅子でござい 町……占めた／＼居ないよ、確かに留守だな、エ、お目出度うございます、町内の……モシ、お留守でげすかい、居るなら居るこ仰しやつて下さいよ、モシッ……今日は……居ねゑな……エ、徐々這入りますよ、蔭に隠れて居てワーなんぞは不可ませんよ、チョ……町内の……居ないよ、確かに留守こ極つた……然らば愈々お留守こ極つたら、目星しいものを少しばかり拜見をいたします……』九郎公喜んだの喜ばないのぢやございません、格子を占めて、障子を明け、四ッ這になりながら中へ這入りました、察しの通り誰も居りません、火鉢の猫板の上に猫が一疋寝て居ります 九『オイ、猫や、お前が留守番かい俺の這入つたここだけは默つて居て呉れなよ』障子をピッタリ閉めて向ふを見るこ驚きました 九『恐ろしい贅澤な家だね、ニ、、欅柳の箪笥、黒檀の茶箪笥長持があつて、鏡臺があつて而も箪笥は三棹あるよ、佛壇だつてさうだ、三百圓位はするね、アレッ、三味線が七挺壁に掛つて居やがらア、欅の如輪木の火鉢があつてさ、鐵瓶も好いね、南部の霰釜だよ……エ、若し居りませんか誰方も……愈々お留守で猫一疋這入りこいふここになれば仕事に取掛りますよ、跡で彼是れ云つても不可ませんぜ』九郎公漸く安心が付いて、立上がり羊の面に糊附けにして來た大風呂敷を座敷の眞ん中へ披げるこ、屁ッ兎腰をして箪笥の傍へ進み寄り、手を抽斗に掛けるこアーッこ驚きました 九『ナ、、何だい是りやア、、馬鹿にして居るぢやねゑか、皆んな芝居の書割だよ、箪笥も長持も火鉢も三味線もノッペラボーで居やがる……ア、分つた、此處の家は芝居の背景をする家だな、是りやア……時計も描いてあるんだぜ、ごうも可笑いこ思つたよ、午前二時を針が差して居らア……』九郎さん却々芝居氣がある 九『待て／＼、折角斯うやつて這入つたものだ、向ふが背景で、是れだけの道具を持つて居る心持ちて、納まつて居るんだから、俺も折角這入つたものだ、一番盗んだ積りにしよう』洒落た男でげす、大風呂敷を披けて先づ箪笥の一番上の抽斗に手を掛けました 九『芝居の書割ちや、端に描いてあるんだから抽斗は明けた積りにしてこ』エ、衣裳が澤山あるな……こいふ積りにしてこ、先づ一番上のフロックコート、ズボン……此奴を風呂敷へ入れた積りにしてさ、縞縮緬の著物、黒の二枚重ね、好い柄だねご襦袢に襲めて置いてよ、これを風呂敷へ入れた積りにして、オヤッ二つ目の抽斗は女物だよ、一番上の此の大島の上著ご下著、此奴も風呂敷に入れた積りか、向ふに金庫が描いてあるチョイこ金庫へ行けば五百圓は出るよ、扉を開くのは面倒だから、そつくり此儘風呂敷へ入れた積りにして……』所へ痔持ちで便所へ長く這入つて居りました亭主が出て參りました、勿論芝居の背景でも商賣にしようこいふ男ですから芝居氣のあるのは勿論でげす、物蔭からヒヨイこ九郎の方を見まして 〇『ハ、、、泥棒が這入つたよ、ナニ、箪笥の抽斗を明けた積り、中から絲織の著物を出した積り……フロックコートを出した積りか、アヽー洒落た泥棒が這入つて呉れたな、／＼俺も芝居掛りで行かう、不埒至極の盗ッ人めこコー睨めた積りだ、長押に掛けた二間柄の槍をコー取つた積りにしてこ、鞘をポーンこ向ふへ挑つた積りだ、襷十字に綾なし、後鉢卷腰を落してグイッこコー身構へた積りだ、狙ひを定めてプツーリ、彼の泥棒を突いた積り、血が泉の如くダラ／＼流れた積りだ……』ヘイ御退屈様

新年附錄 其二

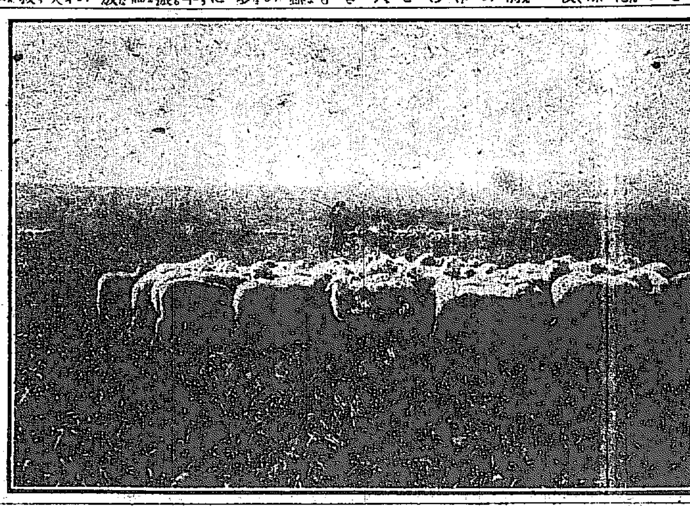


牧羊談

牧童生

近時羊毛自給の要を說き緬羊飼育の急を叫ぶ所以のもの蓋し羊毛は軍事上缺くべからざる必需品たるのみならず國民生活上必要の原料品なればなり大藏省外國貿易表に依りて見るに羊毛織絲及び毛織物の輸入額年々増加し大正五年に至りては約四千萬圓に上り同六年には約六千萬圓に近づき同七年に入りては十一月までに六千五百萬圓の巨額に達す而して國民生活程度の向上と共に今やモスリン、フランネル毛布の如きは山間僻村に至るまで日常之が使用を見ざるなく羊毛製品の需要は月と共に增大するの趨勢を示す顧つて國内羊毛生產額を見るに最近の緬羊頭數全國を通じて僅に三千三百七十頭其の產毛量一萬三千四百八十封度にして年々の輸入額に對し眞に九牛の一毛だに過ぎざるなり斯の如き情勢なるを以て一朝羊毛輸入の途杜絕せんか其の影響は蓋し測り知るべからざるものあり現に今次の時局に當り各國共に羊毛の輸出禁止を企て殖民地產毛の買占を行ひ僞に羊毛原料を全然海外に仰がざるべからざる我國の如きは同盟國たる英國よりすら之が供給に甚しき支障を感じ當業者は幾多の困厄に陷り毛織物の價格未曾有の暴騰を來せるは萬人の等しく認むる所なるべし今や歐洲の空は戰雲去つて平和の曙光を見んとすと雖も羊毛需給の經濟戰に至りては近く止むべくもあらざるは世界の大勢より見て明かなり宜なる哉内地當局茲に見る所あり決然起つて牧羊業の勃興を企てんとし既に大正七年度に於て國費三十餘萬圓を投じて事業に著手し北海道瀧川、關東友部、九州熊本に三大種羊場を設け大々的保護手段の下に一般に之が普及を奬勵せんとす大正八年度亦約四十六萬餘圓の緬羊飼育奬勵費を計上せるが如し爾今年を逐うて益々規模を擴張し斯業の進展を圖らんとするや知るべきなり朝鮮に於ても先年來勸業模範場洗浦牧羊支場に於て蒙古羊の飼養繁殖を試み其成績見るべきものあり既に大正六、七兩年度に於て鮮内各道の篤志家に約百八十頭の無償配付を行ひ更に近き將來は一層事業を擴大し陣容を整へて極力之に當らんとすと聞く此の秋に方り而も乾坤改まつて羊の年頭を迎ふるに際し牧羊に關する話談を試むるは牧童生の本懷とする所なり

元來緬羊は本邦に產せず明治以前時に支那より少數の渡來せるものありしは記錄の示す所なるも此等は單に紙を喰ふ珍奇なる動物として見られたるに過ぎず眞に家畜として輸入せられたるは實に明治八年故大久保内務卿の炯眼に基づき創意に成るものなり朝鮮に於ても古來支那より輸入せられたりと雖も其の頭數や甚だ少く僅に王室の祭祀用として飼はれたるに止り多く繁殖せられたるを聞かず不幸にして内地に於ける明治年間の牧羊業は大なる失敗を招き萎靡甚だ振はず遂には本邦の氣候風土の之に適せざるを唱へ殆んど絕望の聲を放つものあるに至りしと雖も人智の進步經驗の賜物は既往に於ける失敗の原因を闡明し今や其多くは救濟し得べき人爲的のものにして本邦牧畜業の不可能に非らざるを知るに至りしのみならず最近北海道其他各地に於ける飼養繁殖の成績佳良なるに鑑みるときは其方法だに宜しきを得ば相當の發展期して俟つべきものあるが如し朝鮮に於ては牧羊に關する經驗未だ多からずと雖も氣候風土自ら羊の性に適ひ農法習俗羊を飼ひ易き等天與人爲上幾多の利便あるを思ふ只民度尙低級にして改良されたる優良種を直ちに飼養せしむるが如きは尙早の嫌ひなきにあらず現に總督府に於て蒙古羊を蕃殖せらるゝ所以のもの茲に原因するに非ざるか抑も全世界に於ける緬羊數は大約六億萬と稱せられ其の產毛量約二十七億萬封度と數へらる其の種類甚だ多く一般に知られたるもののみにても三十種を越ゆ寒帶より熱帶に至るまで廣く各方面に分布し現今殆んど之が飼養を見ざる邦國なしと云ふも過言にあらず就中濠洲亞弗然丁の如きは約八千萬頭を飼養し牧羊界の權威を握り英吉利、佛蘭西、獨逸、西班牙、伊太利、英領印度、北米合衆國、ウルガイ、南阿聯邦、新西蘭、伯剌西爾等の諸國亦有數の牧羊國たり蒙古羊の頭數に至りては何等依るべきものなく之を詳知する能はずと雖も東部内蒙古及び南滿洲のみにて尙約二三百萬頭と稱せられ又支那より羊毛輸出額年約四千萬斤に上るを見るときは其數や決して侮るべからざるものなるを知るべし而して蒙古羊は原產地に在りては主として其肉を取り其毛皮を剝ぐが爲に飼養せらるゝものにして肉用種又は改良せられざる毛肉兼用種と認むべきものなり體の大さ中等にして普通成長せるもの十貫より十五貫位の



洗浦の牧羊場

重さを有し毛色白多きも中に黑駁又は褐駁のものあり牡は角を有し牝は背通之れ無し共に尾の兩側に大なる脂肪塊を附著し恰も扁平多肉の尾を呈するを特長とす其の毛は長きも卷縮の度少く且僅少に質粗惡なり然れども其の反面に於て體質甚だ强健にして粗放なる飼養管理に耐ゆるの力甚だ大なり從來本邦に於ては僅に毛布原料として僅少の蒙古羊毛を使用したるに過ぎず其の大部分は米國に輸出せられたるものなりしも近時本邦羊毛工業の進步に伴ひ毛布の外或種の製絨原料となすに足るを知れり而して蒙古羊の改良は甚だしき難事に非ざるが如く現に南滿洲鐵道株式會社產業試驗場及び洗浦牧羊支場の試驗に徵するに之に改良種を交配せる一回雜種は著しく其の毛量毛質を改善するを見る斯の如きは眞に民度低級にして未だ牧羊に馴れざる朝鮮に入れ基礎羊たらしむる適當の種類と謂ふべくやがて適當に之を改良するが如きは眞に我牧羊政策として安全且確實の方策と稱すべきなり以下蒙古羊の飼養繁殖に關し必要なる一般事項に付簡明に述べん

始めて蕃殖に用ふるに牝は一歲半牡は二歲半頃を可とし種用に供し得る年限は諸種の事情に依りて異るも牡は五六歲牝は七八歲までとし後肥育して肉用となすを利ありとなす交尾は一牡を三十頭以下の牝群に入れて放牧し自由に行はしむ姙娠期間は約五箇月なるを以て年二回分娩せしめ得られざるに非ざるもかくては母體を衰弱せしめ良仔を得難きに依り年一回となし秋期に交尾せしめ春季野に母仔の採るべき青草の萌芽する頃分娩せしむるを良とす交尾中又は姙娠中のものは牝牡共に適度の滋味を與へて元氣を養ふべく只肥滿せしむべからず殊に姙羊にありては惡阻可嚀に取扱ひ分娩近づかば暖く乾燥せる場所を選び產室に當しむ分娩は甚だ容易にして安全にして殆んど人手を要せず產後數日にして母子共に嬉々として野に戲る樣眞に愛すべし仔羊は一週日を經て固き飼料を採り得るに至り漸次之に馴れて三箇月乃至五箇月にして離乳す將來種用に供せざるものは生後二週日以内に去勢を行ふ是れ毛肉共に其の品質を改善するものなれば也其の法甚だ簡易に術者を以て嚙み切るなり去勢と同時又は之に先だち斷尾を行ふ是れ無用の有物を去つて臀部の不潔を妨ぎ交尾に便ぜしむるなり是亦容易にして何人も直ちに馴致すべし出產の割合は諸外國にありては百頭の羊より百頭以上の仔羊を擧げざれば良成績と認めず是れ改良種は一腹二仔を產むもの多く中に三仔を產むものすらあるを以てなり蒙古羊にありては二仔を產むもの甚だ稀にして殆んど一仔に限る然れども受胎の步合良く母牝百に對し八九十の分娩を見るべし羊の飼方に關しては他の家畜と多く異ならずとなすべし只羊は性來濕潤を忌むものなるを以て夏期と雖も夜間風雨の際は舍内に入るゝを肝要とし又冬季と雖も晴天の日は外に運動せしむるを忘るべからず舍飼時の飼料としては殆んど其の種類の如何を問はず農家の殘滓物は何れも收つて以て用ふべし乾草可なり穀粳類可なり根菜類可なり甘藷蔓可なり其の乾草なりせば約三百匁乃至五百匁、殆んど牛馬各一頭の十分の一にて足るべく尙僅に一日一合位の穀類を添加せば羊の發育一層佳なるべし放牧に要する地積は草生の狀態に依り差あるも一頭の放牧期間に要するものとせば一頭二反步にて足るべしと雖も牧野保護の爲輪換的に之を使用し又乾草の採取をも行ふに於ては一頭分として五反乃至一町位を準備するを適當とすべし此の外四季を通じて日々適宜の淸水を與へ食物を舐しむ羊舍としては特別の裝置を要せず元來羊は耐寒性甚だ强きものなれば强風を防ぎ獸害を豫防するに足れば可なり只高燥の地に東南面して建るを必要とす其面積は一坪に對し普通二三頭を入るべし剪毛は原產地にありては地方に依りて異なり年一回乃至三回なるも回數の割合に多量の良毛を獲るは寧ろ春季五六月の候一回行ふの煩雜ならずして經濟的なるに若かず其毛量を二封度內外にして改良種の普通六封度多きは二十封度に比し甚だ差あり羊の衛生に關しては常に注意すべきは勿論なるも特に體內腸外の寄生蟲に意を拂ひ或は藥浴を行ひ或は驅蟲藥を服用せしめて之を防ぐに努むべきなり

以上說く所に依り牧羊法の簡易なるを知るべく然も其產物の人生に寄與する甚大に即ち耐寒耐久に富み羊毛は國民必需の衣料たり肉は滋味に富み消化し易く貴重の食料たり糞尿は肥効成分に富み他の家畜に優り畜業の淵源たり皮は柔軟なる各種の革製品に用ふ眞に是をして國家的家畜と云はずして他に何を指すべき我邦人は得て羊肉は臭氣ありて食ふに堪へずと云ふ眞に味はう可の言なるや疑ひなし多少特有の香氣なきにあらずと雖も肉質は牛肉に比し而も白質稍少く脂肪に富み而も濃厚ならず又消化し易くして飽くまで滋味あり歐米先進國皆之を以て肉中の美となす支那亦羊頭を揭げて狗肉を賣るの諺あり貴重のものたるを知るべし要は現今の羊肉は恰も維新前後の牛豚肉と選ばざるものやがて國內羊肉の給供潤澤ならんには一般の嗜好に適すべきや明かなるべし本篇を結ぶに當り茲に山羊と緬羊との區別を述べて一般の惑を解かんとす抑

人中山羊と緬羊と同一視するもの多し素より其の大小形態等相似せる點少からざるを以て無理からずと雖も二者は全く其の種屬を異にするもの今其の要點を擧げん山羊は概ね有角なれども緬羊は多く無角にして有角なるは牡なり山羊は頸下に長鬚を有し緬羊は之れ無し被毛は山羊は概ね直毛にして脂肪に乏しきも緬羊は縮毛にして脂肪に富む尾は山羊は緬羊に比し甚だ短し山羊は概ね臭ふべき體臭を有すれども緬羊は然らず山羊は敏動活潑にして粗暴の嫌きあるも緬羊は柔和從順にして寧ろ遲鈍なり

新年文藝

◇俗謠◇

題「藪入」

一等　京城吉野町一ノ五七　門脇紫浪

◎語る藪入閨媼裏に明けて
歸しともない吹雪空

京城花園町一ノ二二　鍾田東海

二等

◎待つた藪入むかへた母が
嬢の手を見て一寸淚ぐ

加平邑内　井原强助

三等

◎峠降りればもう村境
母の姿が眼にうつる

京城元町こまや吳服店方　岡本恵似吉

同

◎籠をはなれて身は藪入りの
初春の一ト日をのばす羽根

京城黄金町二丁目一六八　宮里兎角

同

◎隣娘の藪入姿
矢張り女は都育ち

京城吉野町一ノ六九　木村巴東

同

◎朝の渡船に又落ち合うて
會釋交した藪入　Y子

秀逸

播州　荻の家

▲草屋ながらも子の藪入に
馳走めかした親心　京城　春昭

▲母の情の小豆が煮ゆる
かあい藪入り高鼾　京城　門脇かつ

▲仕著せ姿の藪入待ちて
戸に佇む親心　谷山　美外里

▲思ふ半分また語らぬに
暮れの早さよ藪入日　江景　牛草臨人

▲晴れてわが家に歸るゝ嬉し
土產話は何ぢややら　谷山　美外里

▲歸る子促今日藪入の
親の情は一日ぎり　平壤　游ホ芳月

▲梅の村から松山越へて
おやが藪入り高島田　龍山　禿曲山人

▲伸びた背丈に仕著せの晴著
これが土產に藪入子に　春川　西村玉水

▲しばし見ぬ間の我が兒の姿
老に先立つ目の淚　羅南　山下紫峰

▲出來た藪著が里への餡
包むみやげの京の紅　龍岩浦　綠水生

▲世間馴れたる物言ひ振りて
藪に入る時や臨時話　利川邑内　氣無

▲樂し藪入り指折かぞへ
里へ土產に佐渡の土　龍山　傍島硝

▲明日は藪入嬉しや今は
土產揃へて夢に入る

謹賀新年

サッポロビール
★
大日本麥酒株式會社
京城出張所

賀正

三井物產株式會社

試筆◇◇◇◇◇◇金允植子爵

三元泰來
百福昂新
八十五叟金允植

◇古代美術に現はれた羊
朝鮮には極めて尠い
墓所の護石に彫刻した十二支 恭愍王陵には石羊が二つある

李王職掌苑課長 末松熊彦

芽出度い未の新年を迎へて未に因んだ古代美術の話題も一興であらう、斯う思つて博物館の藏品を彼是と漁つて見たが牛馬未に縁のあるのは極めて尠い、否寧ろ無いと云ふ方が適當な位である、支那の傳説にある石を叩いて未にしたと云ふ皇初平なぞは繪になつて居さうなものだと思つて隨分調べたが朝鮮のものでは畫幅は勿論、器物の中にも然う云つたやうなものは一つも見付からなかつた、非常に失望しながら猶も蹤跡して居る中漸く古墳の

護石の中から

羊の彫刻を發見した、今のところ干支に因んだものと云へば先づ此位のものである、そこで此護石について少しくお話して見よう、御承知の通り朝鮮の墳墓は皆土饅頭になつてゐるが護石と云ふのは此土饅頭の裾脚を圍つた石を指すのである、護石の由來はまだ好く調べて居ないが是は確に風水及び五行から來たものらしく且つ佛教味を加へ主として靈の守護乃至魔除けにする爲据付けたものである事は殆ど疑ふの餘地がない、高句麗時代には石槨の内に朱雀、玄武(龜)青龍、白虎の四神を彫刻若くは描いたものであるが、新羅の代には

夫が十二宵屬

の神將と代つた、十二宵屬と云ふのは取りも直さず十二支の事を云ふので此十二支は皆鎧を着武器を執つて神將たる事を象徴して居る四神を使用した高句麗の遺風は高麗時代にまで及び往々小石槨の中などから是を見出す事もあるが十二宵屬を墓所の守護神にした事は新羅以前には全然なかつたやうである、多分唐の習俗を輸入したものであらうが、其後高麗朝時代になつて此十二宵屬の配列に非常な變化を來し子、丑、寅、午、未位に略され李朝に及んで更に是を減少し僅に子、午、未の三宵屬だけとなつたが、其位置は

新羅時代より

高麗時代にかけては墓の周圍に配置され、李朝に至つて唯墓前に配置せらるゝやうになり、且午、未の如き南方に縁のあるもののみとなつたのである、寫眞の一は慶北慶州附近(西岳北方支脈中)に在る金庾信の墓の護石である、金庾信は人も知る文武王を輔けて三國統一の大業を完うせしめた新羅の大功臣、墓の儀式は高麗朝のものに似て高尺を選び土饅頭は高さ約二間周圍約八間ばかりある、護石は十二枚の花崗岩で一枚の大きさは先づ幅二尺五寸縱四尺位其表面に一像宛十二支が陽刻してあるのだが

刀法甚だ遒勁

且朴雅の風があり十二が十二とも夫々獨特の性情を發揮して居て面白く美術上から見て極めて珍重に値するものである、尙序だからお話しするが墓の四周には玉垣を繞らして居たものと見ゆ石柱が殘つて居るが此他には石燈も石人もなく高麗朝のものに比べると至つて簡單なやうである、寫眞の二は恭愍王陵の前に据ゑてある石羊である長さ四尺五寸高さ三尺位高麗の末葉—李朝の始め頃と云ふ過渡時代の産物である、刀法は極めて纖細で可なり柔か味もあるが夫だけに又少し力の足りない憾みもある、雖然、其頃の美術としては立派なもので前に述べた金庾信の墓の護石と相俟つて充分

珍重に値する

ものである、以上はホンの思ひ付いた儘を話したので頗る杜撰ではあるが是は繼重にも讀者諸君の諒恕を願ふとして、最後に、朝鮮に未に因んだものが尠いと云ふのは朝鮮では古來羊と云ふものを飼養した事がなく從つて羊と云ふものに馴染がなかつた爲ではあるまいか、猶朝鮮では昔から牛、豚、山羊を犧牲に供して居るが此内山羊とあるのは本來羊を使ふべきところ羊が居ない爲止むを得ず是に代へたので屹度變則な遣り方であらうと思つて居る、但し之は確な根據があつて云ふのではなくホンの私の想像であるから其心算で聞き流して頂き度い。

(一)墓所の護石に彫刻せる未神將(慶北慶州金庾信の墓)

(二)恭愍王陵の石羊

元旦の思ひ出
鬼十生

◇雪の山越え

◆十數年前、大晦日から元旦にかけて雪國の北海道、函館から白尻といふ漁場へ徒歩旅行を試みた事があつた白井から尻岸内へ越ゆる峠路に差蒐つた頃降り出した雪は北海道名物の吹雪となり眼も口も開けて居られぬ有樣、とある木蔭に憩ふてゐる中、脚の早い冬の日は間も無くとつぷり暮れて了つた

◆サア弱つた、私の吹雪を避けてゐる處は丁度峠の中腹で、登つても降つても人里へは一里餘り、何時迄待つても吹雪歇みさうも無いので私は勇氣を鼓し、膝を沒する許りの積雪を踏み分けて登り初めた、其の間私は路を取り違へたと見ゆ谷へ谷へと降つて行つた

◆數町降つて行くと一軒の農家が有つた、低い家根は雪に埋れてゐるが大きな圍爐裏には織に榾火が燃てゐた、その火影が明け放つた戸口から降り頻る雪に映つて美しかつた、榾を差加べてゐた主人らしい男が私を見ると喫驚して『何處から來なすつた』と訊ねたので一伍一什を話すと『貴君は運の好い方だ』と笑つた

◆その男の話を聽くとツイ一時間前この附近に名物の大熊が出て山越ゑの旅人を喰ひ殺した、大雪の降る日には熊が屹度穴から餌を搜しに出て來る熊は火氣が大嫌ひだから榾を焚いてゐるのは熊除けだ、この事、私は怖ろしい一夜を圍爐裏の傍で熊物語りを聽きつゝ明かした、大雪の元旦を迎へたのであつた、

◇燈臺守

◆航海の難所として知られた津輕海峽の白神岬、其處に古い燈臺がある、私は幼い頃父に伴なはれてその燈臺で冬籠りをした事があつた、記憶の絲を繰つて見ると確か元旦であつたと思ふ、數日來荒れに荒れた海は阿修羅の狂ふさまも知れぬ巨濤が百雷の轟くやうな凄まじい勢ひで燈臺に打付かる響では無い、私はこの小さな燈臺が屹度巨濤に呑まれるに違ひ無いと思つた、

◆高樓の窓を明けて海面を俯瞰した時、凄まじい巨浪の蜿蜒、恐ろしい海鳴り、雄大と云はふか、崇厳と云はうか、捉知れぬ大海原の朝景色は繪や筆には到底描寫する事が出來ぬと思つた、そして父と燈臺守と三人が卓を圍んでこの大海原を肴に雜煮を祝つた

◆さしもの大時化も後には、ぱつたり歇んだ、やがて燈臺では酒宴が始まつた、下男に使つてゐたアイヌ人が酒に醉つて妙な唄を歌ひながら踊り出す、燈臺守が自慢の尺八を吹奏する、何の事は無い馬鹿々々しい騷ぎであつた、孤島に等しい浮世離れた燈臺で斯う元旦を迎へた幼い頃の記憶は幾年經つても決して忘れ無い。

新年文藝
◇ものは付◇
題「明るい物は」

壹等
◎朝の晴雪(先客) 京城塔洞公園裏木堂内 増田捨松
同案▲平北宣川崎要子▲谷山郡田四ツ目京城宮里兎角

貳等
◎寫眞屋の天井 瑞興郡瑞興面 安田志津
◎平和後の巴里 忠南保寧郡大川里 富松喜七

參等
◎お正月の神棚 忠州 酒井凸坊
◎所作事の舞臺 東京下澁谷 園昇美
◎食客の起床 京城 喜久助

謹賀新年

平壤牡丹臺 お牧の茶屋 電話六一七番

朝鮮兵器製造所 陸路錄 平壤

高山徹 平壤

平壤醫師會

平壤郵便局分室 佐々木仁

大同金融組合 象山郁次郎

鳥山虎也太 平壤

關口半 平壤

松寺竹雄 平壤

前田信光 平壤

大沼金物店 平壤南門町

西鮮硝子製造所 五味幸四郎 電話四三八番

日鮮雜貨 田内商店 黄海道沙里院

雜貨卸商 山本圭次商店 黄海道沙里院

代書業 竹馬巳代太 黄海道沙里院

時計商 匂坂惣平 黄海道沙里院

織居自働車部 黄海道沙里院

日鮮雜貨商 吉永商店 朝鮮黄海道沙里院

今富耕之助 黄海道沙里院

位田嘉七 沙里院

活版石版印刷印章諸紙帳簿文房具類 沙里院印刷所 所主 安田郁雄

雜貨卸小賣商化粧品 阿波商店 黄海道沙里院

謹賀新年 仁川新町 御料理 奴亭 電話三三〇番
仁川宮町 御料理仕出し 奴亭支店 電話五〇四番

謹賀新年 仁川本町四丁目 大正製菓所 電話一四八番
仁川新町 大正菓子店 大沼清太郎 電話一四八番

謹賀新年 仁川新町 貿易委託販賣 高野周二郎 電話長八一番

謹賀新年 仁川宮町 米穀雜肥料商 松本要五郎 電話長八一五番

謹賀新年 仁川宮町 和洋雜貨 明治屋

謹賀新年 仁川 岡本保誠

謹賀新年 仁川新町 各國醬油問屋 高雄仁川支店 電話一一七六番

謹賀新年 仁川驛前 増井運送本店 電話長五三九番
觀驛前 増井運送店出張所 電話一三〇番

謹賀新年 仁川宮町 西洋御料理 東洋軒 電話五一九番

謹賀新年 仁川本町 北島藥店 電話三四番

謹賀新年 京城黄金町廿四番地 電話四二〇番 日本生命保險株式會社京城出張所 大庭譲太郎

謹賀新年 仁川 後藤連平

謹賀新年 大阪商船會社專屬貨物取扱 免許税關貨物取扱 鐵道貨物取扱其他陸海運送業 木浦組 全南木浦 電話一二番

謹賀新年 京城永樂町二丁目七拾五番地 京城十友合資會社 電話六三六番 振替口座京城七二二番

謹賀新年 最上醬油釀造元 高杉京城出張所 京城南大門通三丁目 電話九百四拾六番 貿易並回漕部 仁川海岸町二 電話五九番 醬油釀造場 仁川萬石町 電話七六五番

謹賀新年 博多屋號 食料品雜貨 安藤商店 安藤德二郎 京城黄金町二丁目 電話二五七八番

賀正 株式會社朝鮮殖産銀行

謹賀新年 全羅南道榮山浦 朝鮮綿叺株式會社 (電話四五番・電略テナ) 出張所 光州、松汀里、長城、羅州、南平、咸平、靈巖

謹賀新年
巴城館 京城本町二丁目 電話長三一一番五〇七番
不知火旅館 京城旭町一丁目 電話一二二番長七一九番
天眞樓 京城南山町二丁目 電六四九番長七三三
山本旅館 京城本町二丁目 電長三三五番三二六番
清光館 京城本町一丁目 電話一三五〇番
原金旅館 京城壽町二丁目 電話一一一五番
浦尾旅館 京城本町二丁目 電長一〇三長一一七番

謹賀新年
株式會社朝鮮銀行群山支店
株式會社十八銀行群山支店
株式會社朝鮮商業銀行群山支店

謹賀新年 忠州 山崎醫院

謹賀新年 忠州 湊信三

謹賀新年 忠州 萩原茂夫

謹賀新年 生そば 會席御料理 中島龍助 忠州仲町

謹賀新年 雜貨商 川本角一 忠州本町

謹賀新年 各種雜貨商並 大礼京城自動車取扱 二軒谷市松 忠州本町

謹賀新年 安東縣浪橋通り 貨物運搬 業日韓組 電話四一四番

謹賀新年 京釜線天安市場 綿類製造販賣並に材木商 山領安太郎

謹賀新年 自轉車販賣並修理 梶原益太郎 京釜線天安

賀正 人力車製造ゴム特約 蓄音器ミシン修繕 垣商會 京釜線天安驛前 振替三八九四番

謹賀新年 京釜線天安 農具及種子卸賣 大塚順之助

謹賀新年 安東縣市場通六丁目 各種時計貴金屬美術品商 寺田商會 電話一三一番

謹賀新年 安東縣市場通り 書籍文具各地新聞取次販賣 文榮堂 電話三七番

謹賀新年 安東縣四番通り 米穀貿易 紀陽商會 電話二一四番

謹賀新年 京釜線天安 柴崎定介

謹賀新年 全南木浦府 御料理 東雲樓 電話九番

謹賀新年 仁川宮町 和洋雜貨 伊藤商店

謹賀新年 仁川濱町 木材商 大二商會 電話長五一〇番

謹賀新年 京城本町 江戸川 電話一四六番

賀正 和洋紙文具小間紙卸商並に帳簿製本印刷一切 諸官衙御用 增田商店 京城本町二丁目 電話四二五番 振替京城二二五五番

謹賀新年 天安郡守 黄祐璨

賀正 帝國火災保險株式會社 大阪火災保險株式會社 東京山本製犬印石版活版インキ つちや足袋合名會社 代理店 貿易雜貨商 藤富國太郎商店 京城本町二丁目 電話長三〇八・二九〇番

謹賀新年 株式會社朝鮮殖産銀行大田支店 支店長 伊賀誠一

謹賀新年 群山港 大倉米吉

謹賀新年 朝鮮大田 大田運輸合資會社

謹賀新年 京城南大門通三丁目 松原筆藏商店 電話一八三番

謹賀新年 仁川 渡邊岩治

謹賀新年 仁川本町四丁目 小間物翫具商 清水商店 電話六三番

謹賀新年 仁川 上原賢一

謹賀新年 仁川本町二丁目 菓子商 龍榮堂 電話一五五番

謹賀新年 仁川本町二丁目 花屋旅館 電話五四九番

謹賀新年 仁川濱町一丁目 電話四〇七 石炭商 林田支店 松田佐市

謹賀新年 仁川宮町 電話一四四番 材木建具古家賣買 楢崎商店

謹賀新年 仁川内里魚市場 電話一五八番 山中魚店

謹賀新年 仁川新町 電話八四五番 町田自轉車店

謹賀新年 仁川仲町三丁目 陶榮支店 電話四三二番

謹賀新年 仁川仲町三丁目 鍋釜商 尾崎商店

謹賀新年 仁川内里 瀬良金物店

謹賀新年 仁川本町 文房具商 中川勝美堂 電話三四一番

謹賀新年 安東魚市場通 西洋雜貨商 井上商店 電話六一番

賀正 京釜線天安 原彥太郎

賀正 天安郡書記 織田廣貞

謹賀新年 京釜線天安 雜貨商 上野吹治郎

謹賀新年 京釜線天安 運送店 藤澤又五郎

謹賀新年 京釜線天安 米穀商 正崎長之助

謹賀新年 京釜線天安 余宮清三郎

賀正 京釜線天安 古川秀吉

謹賀新年 京釜線天安 岩本數太郎

謹賀新年 朝鮮殖産銀行公州支店 支店長 久保正次郎

謹賀新年 公州郡守 大塚浩

謹賀新年 公州警察署長 小林增太郎

謹賀新年 全南木浦 貿易商 精米業 木村健夫商店 電話二一〇番

謹賀新年 朝鮮木浦港 三吉野旅館 電話百十三番

謹賀新年 朝鮮木浦 宮道呉服店 電話一二三八番 振替京城一七〇八番

謹賀新年 全羅南道光州 東雲旅館 電話二十九番

謹賀新年 朝鮮木浦港 貿易商海草卸商 山本萬次郎商店 電話一〇四番

謹賀新年 朝鮮木浦港 諸海産物卸小賣商 石森敬治商店

謹賀新年 木浦水産株式會社 電話一三四番 附屬長城寒天製造所

謹賀新年 仁川宮町 御料理 すし 仕出し 三福 電話一七八番

謹賀新年 仁川萬石町 稻田勝彥 電話五五一番

謹賀新年 仁川濱町角 鶴田病院 電話七三四番

謹賀新年 仁川新町 井上病院 電話一五六番

忌中に付 年末年始の禮を缺く 仁川花房町二丁目 辻川富重 電話長六九番

謹賀新年 仁川本町 諸雜貨卸商 井上吉藤商店 電話八六番

謹賀新年 京城南大門通五丁目 金物商 高隅洋行 電話一九六一番

謹賀新年 銘酒澤之鶴 全南一手特約店 岡村酒店 木浦電話一六四番

謹賀新年 旭硝子株式會社製品朝鮮特約店 板硝子商 三ツ和屋商店 木浦 伊藤網太郎 電話三二四番 振替京城三二四番

謹賀新年 醫療機械 諸藥種商 菅辨助商店 木浦電話二二番

謹賀新年 朝鮮京城本町二丁目 和洋金物 大工道具 打物類 理髮道具 友谷商店 電話一三一番

謹賀新年 京城本町一丁目 砂糖商 澁谷商店 電話七七一番

謹賀新年 京城府本町一丁目五十一番地 代書業 隈與八郎 電話三六九番

謹賀新年 公州監獄 典獄 中村脩男

謹賀新年 忠清南道公州本町 富久尾湊

謹賀新年 忠清南道公州旭町 中畑洋雜貨店

謹賀新年 忠清南道公州 牧野呉服店 電話三八番

謹賀新年 公州本町 火藥類自轉車商 瀧川支店

謹賀新年 忠清南道公州本町 米穀商 牧守作

謹賀新年 公州郵便局長 苦竹可孝

謹賀新年 忠南公州錦城金融組合理事 早川分淺

謹賀新年 仁川港町 大阪商船株式會社 仁川支店 電話長一〇〇番 五二〇〇番

謹賀新年 仁川本町一丁目 解夫請負業並通關 福島組 電話五三五番

謹賀新年 仁川水道事務所員一同

謹賀新年 仁川本町四丁目 米雜穀委託販賣輸出商 打野吉朗商店 電話一四七番

謹賀新年 仁川支那町 仁川水産株式會社 電話一八六番 電略（ウ）

謹賀新年 仁川濱町 力武精米所 （電話七〇一番）

謹賀新年 咸興 盛吉商會

謹賀新年 咸興 盛林商會

謹賀新年 安東縣市場通五丁目 貴金屬小間物化粧品 中村小間物店

謹賀新年 滿洲安東縣四番通四丁目 運送業並ニ附屬代辨業 合資會社安東運輸公司 電話一六七番

謹賀新年 全州鑛山 小西貞原組合事務所

謹賀新年 安東縣一番通五丁目 木材商會 安東縣出張所

謹賀新年 銀杏屋旅館 菊乃屋旅館 平野屋旅館

謹賀新年 全州 山中辰之烝

謹賀新年 全州 松野玉喜

謹賀新年 活版石版一式並 和洋帳簿製造 中島印刷所 京城旭町一丁目 電話二千百八番 振替京城二百二番

謹賀新年 咸興郡邑上里 北鮮銀行取締役 高敬必

謹賀新年 滿洲安東驛前 海陸貨物運送業 運送店 獨立守備隊御用達 陸軍經理部御用達 鑑光國子 電話一〇三番

謹賀新年 仁川宮町一丁目 御料理仕出し 三吉野 電話四〇八番

謹賀新年 仁川驛前 運送業 中條榮藏 電話六三〇番

謹賀新年 仁川京町一丁目 名酒一鶴 本莊酒店 電話一二六番 振替京城一四九五番

謹賀新年 仁川府本町四丁目 旭硝子株式會社製品 菱印硝子板特約販賣 鮮人向鍋釜其他金物類 洋燈各種 硝子食器具 板硝子 鏡及厚硝子 八木商店 電話五二四番 振替口座京城一六一

謹賀新年 仁川宮町二丁目 御料理 榮亭 電話四二九番

謹賀新年 仁川本町四丁目 日鮮人向雜貨商 鈴木倭商店 電長二一二番

謹賀新年 木浦 山木印刷所 木浦本店 電話三〇九番 山木印刷所 光州支店 電話五四番 木浦府 履物卸小賣 三宅商店 電話一五九番

謹賀新年 全南木浦府 海陸物産貿易商 桂山淺立亟 電話三二四番

謹賀新年 全南木浦 海陸物産商 森酒井 電話三九番

謹賀新年 全南木浦 和洋紙筆墨文房具商 大岡商店 電話一五四番 全南光州 同大岡支店 電話一八番

謹賀新年 京城明治町二丁目 城六太 電話九六一番

謹賀新年 西洋料理 京城本町二丁目 カフエーエビス 電話四一三番 玉突場 兒山爲太郎 エビ軒 電話四一三番

謹賀新年 京城南大門通三丁目 洋食すきやき カフエーダイガー 電話一五七一番

謹賀新年 日本石油株式會社朝鮮特約店 京城明治町一丁目五六 石油諸油商 山野商店 電話三八八番（電略セ） 振替口座京城八三三番

謹賀新年 明治公債株式會社朝鮮支部 支部長 王田住人 本社 東京市麴町區有樂町一丁目四番地 支部 京城黄金町一丁目 電話一九〇八番 振替口座京城一五五〇番

謹賀新年 朝鮮京城南大門通三丁目百六 東京火災保險株式會社 電話長一〇六〇番 振替口座京城貳六六番

謹賀新年 群山港幸町 森菊精米所 電話長一二一番 電略モ又八（モキ）

謹賀新年 京城岡崎町 京都味噌醸造元 鳴屋本店 印醤油醸造元 電話九〇三番 京城北米倉町 鳥屋市内販賣部 電話一三三〇番

謹賀新年 安東縣六道溝 原木賣買 製材製函 宮下洋行 電話一八三番

謹賀新年 安東縣浪橋通り 安東木材合資會社 電四五五番 安東縣五番通り五丁目 椿井賀店古着部 電話一六番

謹賀新年 大連汽船株式會社 安東縣出張所 電話二五二番 民國電話二二番

謹賀新年 安東縣六道溝 大六製材所 電話三三五番

謹賀新年

謹賀新年
本社 大連市山縣通
大連汽船株式會社
●大連安東線毎月六回
●大連天津線毎月五回
●大連青島線毎月五回
●青島上海線毎月五回
●大連龍口線毎月六回
●大連貔子窩線毎月十回
●大連柳樹屯線毎月三回
出張所 安東縣出張所 安東縣財神廟街
天津出張所 天津獨逸租界
青島出張所 青島 櫻町
神戸出張所 神戸播磨町一六
代理店 旅順、龍口、芝罘、貔子窩、上海

謹賀新年
京城黄金町一丁目百壹番地
合資會社清水組京城出張店
電話三四九番
(本店) 東京
(支店出張店) 横濱、名古屋、京都、大阪、博多、大連

謹賀新年
(いろは順)
花本洋服店 京城本町一丁目 電話四八番
濱洋服店 京城鍾路一丁目 電話一四四番
丁子屋洋服部 羅紗部 京城南大門通二丁目 電話二三・二三〇・六九〇
大屋洋服店 京城本町二丁目 電話二三六一番
奥田洋服店 京城南大門通一丁目 電話六六一番
吉岡洋服店 村田屋號 京城明治町二丁目 電話一五七九番
吉田洋服店 京城本町二丁目 電話一四五番
土谷洋服店 京城鍾路一丁目 電話一五九七番
遠藤洋服店 京城本町三丁目 電話三一三番
淺沼洋服店 京城黄金町二丁目 電話七二一番
菱川洋服店 京城長谷川町 電話一三五三番

謹賀新年
全羅南道榮山浦
榮山浦繩商行
山上友三郎

謹賀新年
全羅北道
熊本農場
場主 熊本利平
住所 東京市赤坂區丹後町一番地

謹賀新年
京城義州通一丁目
朝鮮煙草株式會社
電話二一、八三、七七〇番

謹賀新年
京城府黄金町二丁目
京城石油共同販賣組合
電話二一九四番
組合員
釘本藤次郎
共益社
梶原末太郎
前田悅造
淺海助太郎
鬼頭千藏
福田又支店
支配人 鶴田綱太郎

謹賀新年

京城質屋組合

謹賀新年
朝鮮實業株式會社木浦支店 電話一三六番
朝鮮興業株式會社木浦管理所 電話一〇九番
鎌田産業株式會社木浦支店 電話二二〇番
國武農場木浦支部 電話三二七番

謹賀新年
京城旭町壹丁目
會席御料理 松秀庵 白水
電話 長一三九一番 一七一四番
別邸用三一〇〇番

謹賀新年
群山港本町
三井物産株式會社群山出張員
電話長一二番、長三四四番

謹賀新年
京城本町三丁目
和洋金物商 ☐ 佐藤半次郎商店
電話一四三番 電略(サト)
振替口座京城一二二〇番

謹賀新年
群山港本町
群山米穀商組合
電話長四九番
電話三一四番

謹賀新年
安東信託公所(鋼鈔票定期取引所)所屬仲買店
(いろは順)
原田市松商店 電話八六番四〇四番
東盛錢莊 電話一四一番
大島洋行 電話四〇七番
大森兩替店 電話一三六番
王作臣 電話三一二番
田中德商店 電話三三六番
竹本兩替部 電話二七三番
山口兩替店 電話三五四番
共成社 電話四二〇番
小林多吉 電話一四一番
齊藤進 電話一七八番
三巴商店 電話三三四番
三河錢莊 電話二八番
信東商會 電話八五番
鈴木兩替店 電話四三一番

謹賀新年
京城南大門外
穀物問屋 齋藤商店
電話長三八〇、二一六番

謹賀新年
京城南大門驛前
米雜穀麩貿易商 麥粉肥料
中島竹次郎商店
滿洲製粉株式會社麩一手販賣特約店
長電話九四四番、二四五六番
振替京城一三四二番 電略タ(又八)タケ

謹賀新年
京城吉野町壹丁目
米雜穀貿易委託賣買商
河野藤次郎商店
電話長一八八九番
電信略號(コ)又八(コノ)

新年附錄　其三

戰後の遞信事業

遞信大臣　野田卯太郎

開戰以來數年に亘りたる世界的大戰亂は、遂に昨年末に至り休戰條約締結せられ、茲に平和の曙光を見るに至りたるは寔に慶賀に堪へず。今次の戰亂は史上未曾有にして、實に交戰國二十八、各國の戰費總額は三千億圓に上り、戰死者の數は七百萬人を算するに至る。以て其戰爭に依る慘禍の劇甚なりし事を知るべきなり。隨つて各國使臣を會同する講和會議に於ては、幾多の國際問題を解決し、世界をして永遠の平和の基礎の上に築上げんことを切望して息まず。世界各國は這般の曠亂に因り、戰時中既に著しき影響を受け、露獨墺に於て殊に著しきものあり、而して講和條約の締結に因り、世界に如何なる結果を齎すべきかは事重大なる問題にして、固より之が豫測を許さずと雖も交戰各國が其劍戟を斂めて平時に復するや、多年戰線に奮闘したる數千萬の壯丁は必ず位置を轉じて生產事業に復し、戰時好結果を得たる多數の婦人勞働者も引續き其位置を守るべく、各國が此等の勢力を以て一時に產業の發展に力を注ぎ之に依りて戰禍の恢復を計るに至るべきは火を睹るよりも明かなりと謂ふべし。此時に當り我國は地理的に戰地に隔在したりと雖も、其の平和克復に依りて經濟上蒙るべき影響に至りては到底他國と異ならず。戰時の必要に依りて生ぜる諸工業勞役者の失業問題、國民の一般生活に關する問題等の如き必然相次ぎ發生すべきは豫想せらるゝ處にして殊に海運造船、化學工業等の方面に在りては戰後直ちに各國が其復活を企圖すべきを以て、此方面に於て我國の受くべき影響決して尠少ならざるものあるべし。此等各種問題の襲來に際し、豫め之に處するの覺悟を考慮し、以て戰後に於ける國力の發展と國富の增進とを計るべきは、均しく國民の責務なりと信ず。戰後の經濟界に關しては、樂觀すべきに非ずと雖も濫りに悲觀之れ事とするの要なかるべし。假令經濟上の變化に依り生產品に消長を來す事ありと雖も國產の發達に全力を注ぎ、又克く海外發展に努力せば、少くとも其影響を緩和し得るに庶幾からんか

之を要するに戰後に於ける國民は當面多少經濟上の影響ありとするも、之が爲動搖するが如きは決して大國民の襟度に非ず。今日よりて局面の變化に備ふる充分の覺悟を爲し、將來國產の發達と海外の發展とに努め、以て戰後益國力の進展を期せざるべからず。而して目下我遞の管掌する遞信關係の通信、船舶、電氣等の諸事業に就きては、此際特に攻究すべき幾多の問題あり。

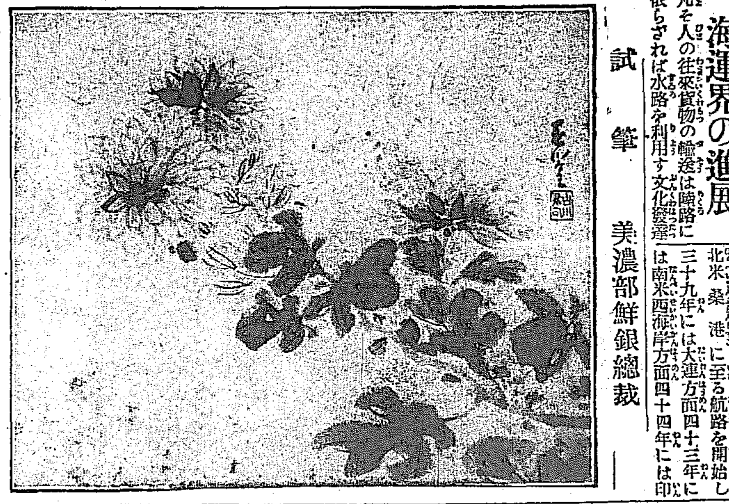
電氣事業の將來

就中我電氣事業の將來に關しては此の平和の年初に當り考慮すべき事項甚だ多し蓋し我國に於ける電氣事業は諸般產業の發達に依り殊に歐洲戰亂の影響と相俟ちて今や其の國民經濟上の地位を著しく增進し來り今日に於ては全國の市町村約一萬の內電氣の供給を受くるもの其の約七十パーセントに及び又電氣の使用に依りて節約せらるゝ石油の量は年々凡そ三百七十萬石に相當し其の電氣使用に依りて節約せらるゝ石炭の量は約四百萬頓と計算せらる。其の電氣事業に投下せられたる資金は約七億圓にして創業の歷史古き鐵業の資金二億四千萬圓に三倍し將に鐵道事業資金の十一億萬圓と相匹敵せんとするの勢を示せり。電氣事業の斯くの如き發達は主として大水力の開發に伴なふ電氣生產費の低減と其之れに依り專ら電氣を工業用動力に使用するに到りたるが爲にして是と同時に電氣事業は國民生活の問題と相接觸する事頗る著なるに到れり即ち諸般國家の重要產業は殆んど一として電氣を使用せずと謂ふものなく而して電氣は機械に依る工業の發達を援け更に電氣化學工業の如き最も低廉なる電力に依るに非ざれば到底其の遂行を期し難き特殊工業の發達を促進して因りて以て失業者を減少するの効果を齎し電力の特性は總ての工業能率を增進して從業者の收入の增加を生じ工場の改良に因りては克く勞務者の健康を增進すると共に低廉なる動力の分配に依り小工業家をして機械を利用して收益を增加する事を得せしめ且工場作業を避けて家庭に於て工業を營むに便宜を與へたる事例少からざるなり電氣事業の國民の生活と斯の如き密接の關係に立つに到りたる趨勢に鑑みる時は之を以て一般の單純なる營利事業と同一視し或は之を從來の如く單なる地方的利便を期圖する事業として取扱ふ事能はざるなり、即ち之を國民的事業として國民全般の利益を增進する事を目的として其の計畫經營を爲さざるべからざるなり。國際的產業競爭の渦中に於て遂に克く人後に墜つる事なきを得るものは蓋し最も低廉にして且最も便益多き動力を最も多量に有するもの之が利用を謬らざるに在るや勿論なり然り而して我國の其の克く斯の如くなるを得んが爲には大水力の開發に依る國民的電氣事業の發達に俟つの外あらざるべし。

海運界の進展

試筆　美濃部鮮銀總裁

凡そ人の往來貨物の輸送は陸路に依らざれば水路を利用す文化發達して內外の交通愈頻繁を加ふるに至れば船舶の需要益旺盛なるべきは言を俟たず殊に四面海を以てする我國の如きは國防及び通商貿易上船舶の必要更に緊切なることは官民の夙に唱道したる所なりされば從來航海を助成し造船を獎勵する等官民共に海事の發達に努力したる結果其進步著しく明治五年に於ける我國船舶は石數船(所謂和船)を除き約一三〇隻四六、〇〇〇噸(汽船九六隻約三七、〇〇〇噸)なりしに日淸戰役の後なる明治二十九年には約七三〇隻三九〇、〇〇〇噸(汽船五七〇隻約三六三、〇〇〇噸)又日露戰爭終結の翌年即ち明治卅九年には約五五〇〇隻約一、三八〇、〇〇〇噸(汽船約一、四九〇隻約一、〇三〇、〇〇〇噸)を算し今回の大戰爭の勃發したる大正三年末には約一〇、〇〇〇隻二、〇九〇、〇〇〇噸(汽船二、一三三隻一、五七七、〇〇〇噸)に達したるが此等船舶の增加は本邦に於ける國防及び經濟上の必要に基づくこと勿論なりと雖も船主船員の按配宜しきを得たるがためなり本邦造船業は近年其技術大いに進步し歐米先進國を凌駕するに至りたるも建造船舶の總數に至りては英國其他の先進國に比し未だ遠く及ばざるものありこは我國に於ける鐵材の產出僅少なると其資本の潤澤ならざるとに因る海外に於ける本邦船舶運航の狀況を見るに明治八年二月橫濱上海間定期航路開始以來政府保護の下に二十三年迄に牛莊、天津、芝罘等の北淸方面及び釜山元山仁川等の朝鮮各港及び露領浦鹽方面の航路成り二十六年には印度孟買に廿九年には歐洲航路北米『シャートル』航路及び濠洲航路、新潟、浦鹽間及び函館『コルサコフ』間の開設を見三十一年には揚子江航路及び北米桑港に至る航路を開始し三十九年には大連方面四十三年には南米西海岸方面四十四年には印度甲谷陀方面に又大正元年には南洋方面に定期航路の開始を見たり然れども本邦輸出入貨物に對する外國船舶の積取步合を見るに戰前(大正二年)に於ては輸出入共約五割を占めたるが這次歐洲戰亂勃發以來各交戰國は戰爭の遂行上必要なる兵員其の他の物資の輸送に從事せしむるため自國船舶の大部分を從來の航路より撤退し中立國船舶も亦航路の危險を避け又は運賃傭船料の高きを追ひて轉航するため本邦來航外國船の激減を來し且つ物資を本邦に求むるもの激增したるため我國の產業及び海外貿易に異常なる發展を示し輸出貨物の停滯甚だしく船舶の不足を訴ふること愈急なるに及び官民共に之が調節に努力したるは吾人の記憶に新なる所なり而も交戰各國は自國の需要に對する船舶の缺乏急なるため何れも船舶の輸出を禁止したるを以て船腹の增加を計らむと欲せば毛として國內の造船に俟つの外なく既設造船所は其の規模を擴張し其の他大小幾多の造船所は所在に勃興して新船の建造に從事するに至れり戰前五六萬噸に過ぎざりし我國の造船高は大正四年には十萬五千餘噸五年中には十八萬餘噸六年には三十八萬餘噸を算し昨年末迄に進水すべき船舶は汽船のみにても約七十萬噸に達するの盛況を呈せり開戰以來聯合與國其他に於て船舶の逼迫に苦み本邦に對し之が供給を求めたるが爲我より輸出したる船舶は昨年十一月中旬迄に於て船鐵交換船を含み一七三隻約三五〇、〇〇〇噸(同期間中我國の輸入船六五隻一〇二、〇〇〇噸)にして大戰繼續中敵潜航艇の爲めに擊沈せられ其の他戰爭行爲に依りて沈沒したるものと認めらるゝ邦船三一隻約一二八、〇〇〇噸を算したるも國內造船業の著しき發達に因り昨年末に於ては汽船のみにても總噸數約二、五九〇、〇〇〇噸に達すべく之れ大正三年末に對比するときは約七二〇、〇〇〇噸の增加を來せり大正八年に於ける本邦船舶建造高は內外に於ける經濟事情の如何に因りて增減を來すべく今に於て正確なる豫測を下し能はずと雖も船鐵交換に依りて取得すべき材料を以て建造し得べき大型船のみにても總噸數約五十萬噸內外に達すべき見込みにて米國に引渡すべき交換船を除くも猶右の內約三十五萬噸は之れを本邦に保留し得べく未だ頓に造船高の激減を來すの虞なし而して戰後に於ける諸外國の船舶增減の狀況を按ずるに未だ正確なる計數に接せずと雖も各國の戰爭に因る喪失船舶は約千二三百萬噸を下らざるべく損害最大なりし英國に於ては約八九百萬噸を失ひたりと稱せらる從つて開戰以來一時殆んど中止の姿を呈したる交戰各國の造船事業も近時著しく之が促進を見るに至り米國の如きは昨年四月以來大規模の造船計畫を樹立し鋭意其の進捗を圖りつゝあるも未だ容易に喪失船舶を補充するの域に達せざるが如し交戰各國は本國若くは植民地への軍隊軍器送還等の爲戰後引續き貿易以外の用途に使用すべきものも亦相當の數に達すべく從つて戰前の航路の復舊新航路の開設に振向くべき船舶は當分其の數に於て甚だ多からざるべしと認むるを適當とせん乎されば世界全體を通じ船舶は潤澤なりと云ふを得ず從て運賃傭船料の如きも假令ば戰時中に於けるが如き高率は之を維持し難しとするも尚暫くは戰前の如き低率に墜落するが如きことなかるべしと信ず然れども今次大戰の結果何れの國も深く船舶の必要を感得したるを以てアラユル方策を講じて之が建造利用に努むべきや疑ひなし我海運業者は既に兩度の戰役によりて苦き經驗を嘗め殊に今次の戰爭に依り少からざる利益を擧げ相當の蓄力を蓄積し得たるを以て今後益其基礎を鞏固にし周到なる用意と畫策とを以て戰後の經濟戰に臨まざるべからず予も亦海運政策上充分なる注意を以て斯業のため便宜と援助とを與ふることに努力すべき考へなり



通信網の擴張

又通信事業は逐年增進し之を十年前なる明治四十年度と大正六年度を對比するに通常郵便の引受は七割小包郵便の引受は六割六分電報の發信は九割三分電話の通話數は四十八割九分を增加し其事務全體より見るときは平均每年一割八分の增進率を示しおれり從つて通信收入は明治四十年度三千六百萬圓なりしもの大正六年度は九千萬圓に達し十五割一分の增收となり頗る好況を呈せるも此の間に於ける支出經費は經常部及び臨時部を合するも二千六百萬圓なりしもの四千八百萬圓となり八割八分の增に止り更に之を經常部より見るときは僅に六割五分の增にして增收入の半にも達せざるものなり然れども一面其通信の施設を顧みれば郵便局所の新設八百電信線の延長八千二百里市外電話線の延長一萬三千九百里、電話加入者の增設十九萬二千に達し事業全體より見るときは平均十六割の施設に當れるを以て此の間に於ては支出經費の割合以上の施設に多大の努力を盡せることを窺知し得らるゝものなり然るに之等の施設を更に事業の增進と對比するときは尙及ばざること遠し殊に業務の運行上重要なる動力となるべき從業者の如きは僅に其の八分の一の增に止れる狀況なるのみならず之に對する給與も十年前に比し僅に一割三分の增加に過ぎずこれ一に國家財政の關係上に出で已むを得ざりしと雖も事業の運轉に支障なかりしは之れ全く從事員の奮勵努力による所にして其の能力の極度の活動を爲さしめたるものと云ふ可し然るに時局以來一般事業界の活躍と物價暴騰とに因り從事員の移動、轉退相踵ぎ補充容易ならず缺員數多數に上り加ふるに一面事業の增進益著しく未熟なる從事者を以て倍加せる業務を處理せざるべからざるのみならず機械等の設備、事務の膨脹に適應せず爲に世上の物議を釀すに至りたるは誠に遺憾とせし所なりき當局に於ても之れが救濟に對して全力を傾注し屢々臨時緊急の施設を行ひ一面には從事者の增員、電信回線の新增設、機械方式の改善を計り一面には從事員の給與の增額を圖り昨年四月以降一般官吏と同様臨時手當を給與せし外八月以降百八十萬圓の特別加給を給與し之を含め從前に比し六割內外の增給を行ひたるも物價の騰貴甚だしく未だ之を以てしては從事員の生活の安定を期すること難かりき茲に於て本官就職の初めに當り一率に給料の增額をはからんよりて各人技倆及び勤勉の程度に應じ等差を附するの主義により特別勤勉手當を給與するの一層適切なるを認め每月三十餘萬圓の手當を分配することゝせり是により從事員の意氣大に振ひ其の移動缺勤も漸次減少し著しく能率を恢復せる業務も從事員の努力により漸く其の常軌に復歸せんとするに至れり時偶休戰條約の發表あり一般事業界の警戒により放漫なる施設の整理の聲立ちてより職員の缺員補充も稍容易となり從事員の使役難は多少緩和せられ在來の愁雲は漸く飛散する此機運に逢したるは事業の爲祝福すべきものなり然れども通信事業の增進は帝國國運の發展に伴なひ將來益盛況を呈するは云ふを待たざる所なれば之に對して萬遺漏なきを期すると共に事業各般の施設に對しては速かに其の完成を企圖せざるべからず此の必要に基づき大正八年度に於ては財政の許す限り之等事業上必須の施設を計上せり即ち事業の增進に對じては二百六十萬圓電信回線の新增設に對しては二百三十萬圓を投じ電話擴張に對しては約一千三百萬圓を增額し從事員優遇獎勵に對しては四百三十萬圓を計上せしに依り之等の豫算成立の曉は電信を始め郵便の業務共聊か新面目を開き略公衆の期待に添ふことを得るに至らん(東京支局)

新年文藝

◇―川柳―◇

題『船』

一等　忠南南道洪城　根木　淑子

◎大正にカチ〳〵山の船が出來

二等　京城和泉町七黑部方　神崎白樂天

◎浦船に帆を擧ける頃客は漕ぎ

同　慶南晉州　森山うらなり

◎四方山の話まで乘る船の中

三等　京城南米倉町二〇九　橋本　義男

◎船頭の棹に割かるゝ愁嘆場

同　仁川本町四丁目日下部方　矢谷　花翁

◎寢床から飯を炊いてる船世帶

同　龍山京町三四　羽間　辰藏

◎產の氣が附くと船長名を案じ

透逸

▲晴れやかな空に平和の飛行船　京城　やなぎ

▲船成金潰れと聞いて頭痛め　水原　花樹生

▲船乘は便所と流し所也　京城　松本　與一

▲また戰艦かさ人々にからかわれ　忠南洪城　登田　鐵騎

▲初夢に寶船見る果報者　仁川　菊川　月宙

▲不仕合せ海賊船に助けられ　京城　竹內ちよ子

▲大切な話に白川夜船なり　京城　松　岳生

▲飛行船やつぱり下は地獄なり　京城　青木　晉次

▲ハンカチと帽子に船は遠ざかり　京城　木　公生

▲親船に乘つた心算で食ひ潰し　平北　露　女

謹賀新年　和洋金物船具商　釘本藤次郎支店　鎭南浦三和町　電話六十三番

柳原醬油釀造所　鎭南浦三和町

謹賀新年　御旅館　浪花館　鎭南浦三和町電話長一四一番

謹賀新年　鎭南浦汽船合資會社

謹賀新年　安州炭礦　平安南道安州郡立石面新里
安州炭礦京城出張所　京城南大門通り五ノ一七　電話二六六番　岩田商會
安州炭礦　平壤出張所　平壤停車場通り記念碑前電話六一六番
安州炭礦　新安州貯炭場　新安州淸川江岸

謹賀新年　金千代醸造元　齋藤酒造合名會社　朝鮮平壤黃金町　電話長二二番

謹賀新年　大橋恒藏　平壤

謹賀新年　平壤中學校長　赤木萬二郎　平壤高等普通學校長　田中玄黃　平壤女子高等普通學校長　齋藤欽二

謹賀新年　子爵　久松喬　平壤萬壽臺

謹賀新年　平壤自働車商會　電話六〇六番

謹賀新年　河野鐵工所　河野佐一　平壤黃金町

謹賀新年　平安南道警務部　小河市之丞　平壤憲兵分隊　齋藤繼述　福田義雄

謹賀新年　特油醸造業　宮川五郎三郎　平壤鏡齋里

謹賀新年　安東縣南地　料理屋組合

謹賀新年　內鮮人雜貨並ニ材木卸小賣　諸官署用達　京畿道安城　農具一式　中村重三商店　電話(ナ又ハナカ)　振替口座京城一九六九

謹賀新年　全州　米穀商　宮永友枝

謹賀新年　全州　岩崎虎次郎　藤谷作次郎　山中辰之丞　松野玉喜

謹賀新年　全州　林鑄物工場

謹賀新年　長春旅館業組合

謹賀新年　長春取引所信託株式會社　電話三番(事務所)八〇番(專務社宅)三一〇番(社員社宅)

謹賀新年　燐寸製造及販賣　長春城內西二道街　日清燐寸株式會社　電話六六番

謹賀新年　安城郡邑內面東里　浪花館　花奴

謹賀新年　金物商　安東縣市場通四丁目　河野商店　電話四三八番

謹賀新年　平安北道慈惠醫院　有馬長次郎　吉野武雄

謹賀新年　平北新義州　宮川支店　電話一三五番

謹賀新年　朝鮮平北新義州　株式會社新義州銀行

印度方面旅行中ニ付欠禮　寺尾規矩郎
謹賀新年　中島悌三郎　高橋千代治　田中鐵一郎　每熊雄次吉　原恂雄　本鄉臣諧　大塚

謹賀新年　朝鮮平北新義州　御旅館　綠屋　御料理　第二綠新館　食道樂　第三綠新館

謹賀新年　製材、原木貿易　原木委託販賣　正木商店　平北新義州

謹賀新年　朝鮮新義州常盤町　和洋雜貨商　渡邊支店　電話五八番

謹賀新年　貿易商　山田虎三商店　朝鮮新義州電話三五番

謹賀新年　和洋建築金物硝子板　各種土木用具類商　佐藤貞一商店　新義州常盤町七丁目電話九番

謹賀新年　鹿島組　本多坦二　新義州

謹賀新年　新義州府鴨川町　製材業　原木貿易　淺見製材所　支店、京城、平壤

謹賀新年　製材　造船　中村工場　新義州營橋東詰

謹賀新年　朝鮮新義州府本町　原木貿易製材　原木委託販賣製函　荒木商會　電話二四五番　製材工場　新義州江岸　出張所　義州郡北下洞江岸

謹賀新年　忠北槐山　禹永命　禹鍾泰　禹鍾觀

謹賀新年　忠淸北道廳　張憲植

謹賀新年　忠北槐山　洪命憙　洪性憙

謹賀新年　忠淸北道淸州道廳前　御料理　銀杏　電話一〇一

謹賀新年　忠北淸州本町　忠北自働車組合　電話五五番　停留所、芙江、曾坪、陰城、大召院、忠州、平澤、茂朱

謹賀新年　忠北淸州　御料理　北一樓　電話三二番

謹賀新年　忠淸北道警務部長　前田良太

◎未生の六夫人

◇―春の如きその家庭―◇

◎上段向つて右より塚越遞信技師夫人、入澤京畿道一部長夫人、國友警務課長夫人 ◎下段栗永博士夫人、京城幼稚園主任、谷村京城神社々掌夫人

△二十四年間 奮闘生活 物見遊山絶對禁止の尼心で

京城幼稚園主任 京口貞子女史

パコダ公園の裏手にある貴族幼稚園と稱へらる、京城幼稚園の主任京口貞子さんをお訪ねすると貞子さんは先づ『お待ちなさい挨拶よりも先にご馳走の仕度をしましょう』と有仰つて應接室の暖爐に石炭をお入れなさいました、軈て暖爐の火は瞬々といふ音が立て燃出しました、これをご覧になつた貞子さんは

◇會心の笑を泄へて

暖爐の火の樣に熱のあるそうして瞬々と勢ひのある火の樣なお話をなさいました『寡婦になつて廿四年間私は物見遊山絶對禁止の尼さんの心で奮闘に奮闘を續けてコンナ婆さんになりました、回顧せば實に感慨が一倍に深うございますが私は此の奮闘によつて息子……仁川鮮銀支店に勤めてゐらつしやる眞一郎(廿七)さんの事…をあれ迄に育て上げ後指一本差されず過して來る事が出來ましたさうして家財其他凡ての物が奮闘から生れ出た賜物と思へば何して愉快に思はずに居られませう私はまだ是から死ぬ迄奮闘を續けます必ず續けます

◇多少公共事業にも

盡して見度い希望も抱いて居ます丁度今から十九年前の事でした眞の奮闘的生活に入るには少しばかりの家財は却つて邪魔と思ひましから村の者に分け與へて出發した位です、私はコンナに勝氣な女でした私から此の勝氣を抜き去ると後は零でございます、兎に角私は病氣もせず斯うして奮闘を續けて來られた事に就ては感謝せずにはゐられませんさてそれには神であるか佛であるか選びます

◇或る偉大な者

それですほゝゝ勝手な熱を吹きました事ね、御免遊ばせ、保育に關する新しき試みそれは日本化するのさへ容易でない鮮人に新しい保育法を講ずるのは六ヶ敷い事でございますから行つて居ません、しかしよく日本語を覺ゑてすら／＼と話す樣になつた時の喜しさは又格別でございますよ』（幼稚園の應接室にて）

△質素で淸らかに世を過さん 神の使は

京城神社々掌谷村穎尚氏 みつ子夫人

京城神社々掌谷村穎尚氏の夫人みつ子(三七)さんは京都のお生れだけあつて何處となく雅やかなさうして落響きのあるお方です夫人はパッチリとした眼付に優い理智の閃きを示し『まあ……妾が未年……そんな事何處でお聞きなすつて』とニコ／＼しながらのお話『妾のはまあ一家團欒の外何も御座いませんのよ、妾の家は御承知の通り神官ですから人樣の樣に遊藝などは無論子供達にも一切見る事を許しません其上極質素に淸らかに世を過して行うと云ふのですから其處には多少の苦痛も御座いますが一面から考へますとそれが寧ろ身を嗜む

◇一種の修養ともなる事と思つて居ます、それに宅へは大神宮と祖先の靈が祭つて御座いますので朝夕二回は必ず四人の子供達と共に禮拜して一家息災のお禮を申上ますのですよ、これが妾達の日課の樣になつて居ます、朝夕神に向つた時の感想は・・・六ヶ敷いお質問ですのね、さうです精神が全く

◇俗事を放れて非常に愉快に覺ますの』夫人は生花は池の坊、茶は千家の奥を修得されて何れも免状を持つてゐらつしやいますお子さんは十五におなんなさる早苗さんを始め千里(一〇)さん幸彦さん(五)さん肝鶴さんの四人で肝鶴さんは三歳の可愛盛りでゐらつしやいます(旭町の御宅にて)

△一家團欒と子供の成長 是れに越した樂しみは無い

警務總監部警務課長國友尚謙氏 天留子夫人

寳生流に生けられた水仙の香が馥郁と薫つて何となく奥床しさを忍ばせた應接室でゆら／＼と火氣の立ち昇る暖爐を取圍んで快活にお話をなさるのは警務總監部警務課長國友尚謙氏の夫人天留子(三七)さんです『子供も一人や二人だとよございますが妾共の樣に

◆六人の母となりますとそれは／＼忙しい事ですよ◆

お蔭樣で皆健康でございますので眞實に嬉しく思つて居ますの何が樂みつて一家團欒に越した樂みはございませんねそれに子供の日一日と成長して行くのも嬉しうございます妾は一體ジッとして居る事が嫌いなものですからサッサと働きます働いた後の氣持ちも却々いゝものでございますよほゝゝ』と仰有た後で『生花も琴も若い時代には隨分やつたものですが……』と

◆若い時代の樂がりし事ども冥想されるもの◆

如くであつた『わつ育兒法そんな四角張つた育て方は致して居ませんが唯子供を丈夫に育てると云ふ上に於て一切を放任主義で育て、居ます近來早教育など、段々八釜敷仰有る方もございますが妾は贊成が出來ませんの何故かと仰有ると一寸お答へに苦しみますが總括して申し上ると

◆子供に早教育をすると何うも身體の發達が遲れる◆

樣に思はれますほゝゝくだらない事を申上て失禮でございました』お子さんは振一(一五)さん直正(一三)さん克三(八)さんミッ(六)さんシツ(四)さんそれに去年お生れなすつたカヅ(二)さんがゐらつしやいます

△趣味娛樂も子供の爲めに 打ち捨て、せつせと働く

遞信局技師塚越總藏氏 まつ子夫人

遞信局技師塚越總藏さんのお宅に夫人まつ子(三七)さんをお訪ねすると夫人は赤襷姿甲斐／＼しくお掃除をしてゐらつしやる處でした『まあ這麼姿で失禮致しました、女中なしでやつてゐるものですから さあ何うぞお上り下さい』と通されたのが陽當りのい、十疊の客室

◇穏かでお優しい夫人は瓦斯ストーブに火を點じながら『未年の女と申しますと妾が九人の子供を持つたから云ふのではございませんが一體に子供を澤山持つ樣でございますね尤も妾は九人の中三人なくしまして只今では釜山中學に參つて居る眞(一九)を除きまして宅には昇(一三)文子(九)房子(六)正志(四)梅(三)の五人ゐます此處に多勢子供がゐますと全く自分の

◇趣味娛樂は子供の爲めに殺がれて終ひますのまあ此上は子供の大きくなるのを樂みに一家睦まじく暮して行く事ですね主人は外出嫌ひでございますから日が暮ると一同を集めまして種々のお話をして其日／＼の苦勞を忘れてゐます

◇子供を集めてお話をさせたり聽かせたりする事は却々愉快なものなんですよ、子供を三人もなくしますと何だか恐ろしい樣な氣が致しまして何でも丈夫でさへあればい、と云ふので凡て放任主義で育てる樣になりますね』其處へ次男の昇さんが入つて來て床に雜巾掛をなさいました

◇夫人は包み切れぬ笑を浮べて『お悧巧、お悧巧……』と仰有つて『女中がゐないのでね』

(以下三面へ續く)

謹賀新年 日本坩堝株式會社 朝鮮新安州 黑鉛買入所

謹賀新年 平安商會 平南新安州

謹賀新年 御料理 日の出 平南新安州

謹賀新年 福井黑鉛鑛業

謹賀新年 內國通運株式會社取引店 京義線新安州驛前 倉原恒雄

謹賀新年 鎭南浦三和町 原田仲次郎 電話二六一番

謹賀新年 鎭南浦水產會社 平南鎭南浦

謹賀新年 藥種貿易洋酒問屋 鎭南浦三和町 大西十字堂藥房 電話二二八番

謹賀新年 鎭南浦 合資會社 長門組 電話長五番

謹賀新年 鎭南浦 味噌醬油 藤本釀造所 電話二一八番

謹賀新年 株式會社 三和銀行 鎭南浦

謹賀新年 朝鮮鎭南浦 綿糸布雜貨卸 鬼頭支店 電話長一四四番 振替京城一二六一番 電略キ又ハ(キト)

謹賀新年 鎭南浦龍井町 依田弘 岡本勳治

謹賀新年 大和組 電話二四一番

謹賀新年 銃砲火藥商 岩本直太郎 鎭南浦

謹賀新年 鎭南浦府廳 深川傳次郎

謹賀新年 西鮮繰綿工場 平南鎭南浦

謹賀新年 南浦組 鎭南浦

謹賀新年 和洋菓子製造販賣 平尾商店 鎭南浦三和町

謹賀新年 鎭南浦三和町九三 丸五運送店 電話三三番

謹賀新年 天安 ライジングサン石油會社特約店 旗石油 赤日印揮發油 雜貨商 江島商店

賀正 安東江岸通 製材業及木材販賣 加來製材所 店主 加來音吉 電話三三番

謹賀新年 天安郡書記 峯寬太郎

謹賀新年 仁川各宗寺院

謹賀新年 各種石炭 卸 形煉炭特約販賣店 山下コークス 仁川支那町 村谷石炭部 電話八一九番

謹賀新年 仁川 熊野惠賜

謹賀新年 仁川港 三巴醬油釀造場

謹賀新年 仁川仲町三丁目 仁華病院 電話七一九番

謹賀新年 白鶴 澤の鶴 發賣元 仁川本町四丁目 田中作二酒店 電話一五九番 振替京城六六〇

謹賀新年 仁川濱町 仁川造船鐵工所 電話一三八番

謹賀新年 東亞煙草株式會社 平壤分工場

謹賀新年 朝鮮製肥工業會社 平壤橋口町 電話八二八番

謹賀新年 果樹、苗木、殖林、農具、果實、肥料 株式會社平安攻玉園 平壤 支店貿易部 德喜洋行 奉天照德大街

謹賀新年 平安南道廳 工藤英一 李範來 篠田治策 八田吉平 富永一二 清田信一 田中直通

謹賀新年 西鮮造林會社 平壤

謹賀新年 平壤慈惠醫院 內村安太郎 外職員一同

謹賀新年 沙里院運送組合 (イロハ順) 伊藤□二 張志燦 近藤□司 河波弘 金國錄 金達應 金良敍 諸落調

謹賀新年 東洋拓殖株式會社 沙里院出張所

謹賀新年 日本興業株式會社 沙里院出張所 田北政治

謹賀新年 齊藤金祐 平壤

謹賀新年 原馬車商會 平壤停車場通

謹賀新年 本田常吉 平壤

謹賀新年 上野直記 平壤

謹賀新年 八木辰馬 平壤

賀正 安東縣二番通四丁目 海陸運送業 西村組 電話一七三番

謹賀新年 忠淸南道公州本町 杉岡運送店

謹賀新年 忠淸南道公州農林學校長 岡林袈裟彌

謹賀新年 忠淸南道公州旭町 雜貨商 藤田支店

謹賀新年 御旅館 星光館 忠州錦町角

謹賀新年 京城本町二丁目 和洋雜貨シャツ類 富屋 電話一六九番

賀正 安東縣一番通三丁目 合名會社 安東木摺製材所 代表者 松村捨三

謹賀新年 公州公立尋常高等小學校 職員一同

謹賀新年 忠淸南道公州本町 中岡傳吉

謹賀新年 仁川本町一丁目 船舶代理店 海運業 海事工業 浦崎商店 電話長一〇五八番 電信用五五五番 横濱火災海上運送信用保險會社 千代田火災保險株式會社 共同火災保險株式會社 日本徵兵保險株式會社 仁川代理店

謹賀新年 安東縣南堀割通八 土木建築請負 重松組 電話三二八番

謹賀新年 安東縣市場通五丁目 製粉業 金子商店

謹賀新年 輸出入土木建築鑛業 海上及火災保險代理 大連市山縣通、電話代表番號五〇四〇 本店 福昌公司 相生由太郎 出張所々在地 大石橋、青島、奉天、營口、撫順、立山、海城、金州、老龍頭、朝鮮孟中里

謹賀新年 京城醫師會(イロハ順)

池田季雄 南山町一丁目 電話三〇〇
池上要吉 櫻井町一丁目 電話二二七一
石川淳夫 本町二丁目 電話二七二九
今村豊八 若草町一番地 電話八三一
今本義胤 黄金町一丁目 電話八一五二
一色齊太郎 本町一丁目 電話一四八四
岩崎懷 南米倉町一六四 電話二七六一
荻原長藏 明治町二丁目 電話二二六七
二宮亮吉 旭町一番地 電話一二〇一
本田建義 黄金町三丁目 電話二四三四
戸川武 小林病院內
戸川錦子 光化門通二一三 電話一七四番
扇田豐 太平町二丁目 電話二五八
和田八千穗 明治町二丁目 電話一〇五八
金井豐七 若草町三九番地 電話一五五六
片山信夫 太平町二丁目 電話一九五一
川崎朋子 明治町二丁目 電話一五〇四
垣田精一 本町三(七星堂) 電話三三二四
高井貞治 本町二丁目 電話二六番
田中丸治平 小門町二 電話八五二番
多々見五郎 蓬萊町三九番地 電話五四〇番
津田雅人 櫻井町一丁目(京城醫院)
中村健吉 明治町二丁目 電話一五四一
中島貞信 明治町二丁目 電話三七八番
村上龍藏 永樂町二丁目 電話六一三番
宇野宗一 黄金町三丁目 電話一八九〇
內村東 長谷川町 電話三〇六五一
內田銓藏 南米倉町二〇五 電話二六一三
打田義芳 發化病院內
上野和夫 田中丸醫院內

工藤武城 北米倉町 電話四八二九四
山口重雄 太平町一丁目 電話一二二
山口友造 本町五丁目(□病院) 電話二〇二
山田萬作 本町二丁目 電話二八八〇
山田實二 本町三丁目 電話二三七
矢崎信重 吉野町二丁目 電話八一九七
松岡僖七 長谷川町 電話六七五番
松本和雄 本町四丁目 電話七五五番
古城憲治 明治町三丁目 電話一一〇一
古城梅溪 本町二丁目 電話二五六〇
古城俐吉 本町二丁目 電話九三八番
小林千壽 旭町一丁目 電話六九一二番
小山亨 南山町二丁目 電話一二二四
江頭富雄 明治町二丁目 電話二〇四四
安東貞一郎 長谷川町 電話七三七九番
安部脩三 本町四丁目 電話一三九番
淺川源一 本町二丁目 電話一五三二
佐々木杏造 明治町一丁目 電話六一五九
佐藤伊藏 明治町一丁目 電話一二七三
酒井一郎 永樂町二丁目 電話六二〇〇
衣笠茂 明治町二丁目 電話三二四〇
宮地高牧 永樂町二丁目 電話二四七五
島崎龍一 旭町一丁目 電話七一三六
宮崎泰治 櫻井町二丁目 一五三番地
久枝秀喜 明治町二丁目 電話一二〇一
森定吉 明治町二丁目 電話六二三三
瀨戸潔 旭町二丁目 電話一四九八
杉本砂一 本町一丁目 電話一二三〇
鈴木茂 本町二丁目 電話七四一番

謹賀新年 辻謹之助 朝鮮大田本町

と妾が苦んでゐるのを見兼ねておして雜巾がけを手傳つて呉れるのですよ、子は持つべきものですねほ……』（大和町の官舍にて）

△眞の樂しみは
一家團欒
と子供の成長

京鐵道一部長入澤重麿氏
安野夫人

子供には絶體嘘を吐かさぬ事　京鐵道一部長入澤重麿氏の夫人安野（三七）さんを旭町一丁目の官舍にお訪ねして應接室の暖爐にあたつて居ると軈て夫人はスリツパの音靜かに入つてゐらつしやいましたゐるから何處となく氣品の高いお言葉もハキ／＼と『續け樣に子供が四人も出來ましたのでソレ／＼朝から晩迄

◇賑やかな事

で御座いますよ、ですから自然趣味だの娯樂だのつて云つて居られなくなりましたの、斯うなると子供の成長と一家團欒これが一等樂みで御座いますよ、それに妾の主義ーホヽヽ、主義なんて云ふ程のものでは御座いませんが主人や子供の著類は決して外樣へお頼ひして縫つて戴かない事にして居ますから其方も却々忙しう御座いますの、それに何でも物は使へる迄使ふ事にして居ますから隨分非道い襤褸繼も致しますの主人は是れを見てお前は

◇襤褸の繼接屋

だと云つてよく笑ふ事が御座います、子供を育てる新しき試みいそんなものは御座いませんよ、ですけれども子供が嘘を吐くと云ふ事は一番惡い事ですから絶對に子供には嘘を云はせない事、これを非常に八釜敷云つて居ますその他は凡て放任主義で育てゝ居ますお蔭で何れも皆健康で御座います』因に夫人は山口高女出の秀才で生花は青山流の蘊奥を極めてゐらつしやいます向ほ

◇書畫の御鑑識

もおありと承はりましたお子供さんは重彦（二）さん路子（二）さん雪子（二）さん冬子（二）さんの四人でお淋ましい圓滿な御家庭です（陽當りのいゝ官舍の應接室にて）

△お茶のお稽古
を見るのと
息子の出世
を唯一の樂み
中央試驗所長豐永博士
千代子夫人

中央試驗所々長豐永農學博士の夫人千代子さんを長崇洞のお邸にお訪ねすると早速應接室に通されました、ジツト暖爐に溫まりながら淋しう冬枯れたお庭を窓越しに眺めて居ると輕く扉が開いて靜かに入つていらつしやいましたのは千代子夫人でした

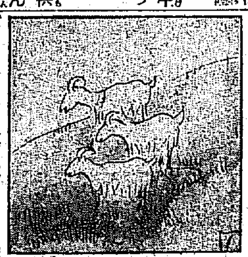
◇夫人は締のあるお口元にニコやかな笑を湛へて◇『何うもお待たせしまして……』とご挨拶が終ると『一番樂みの事に何かつて被仰るのですか、さうですね、まあ息子の出世とお茶のお稽古を拜見させて戴く位の事でしやう、ねつ息子ですか息子は二人御座いますの兄の辰太（二四）は目下慶大の理財科に參つて居ます、弟の幸二郎（二〇）も高等學校入學準備の爲め兄の處へ參つて居ますので

◇只今では主人と妾と女中と三人暮しで御座いますの◇お茶は只今はやつて居ませんか若い時分多少やつたものですから自然お茶も戴きますしお稽古も拜見致します家庭改良案そんな氣の利いた考へは御座いませんよですが皆樣の御家庭でおやりなさいます處はドン／＼見習つて惡い處を補つて行く事に努めて居ます』とお茶をお啜りなさいました。

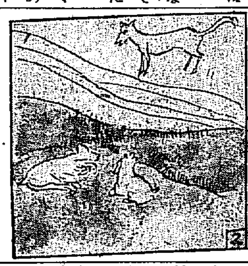
おとぎばなし

羊の草餅
八島柳堂

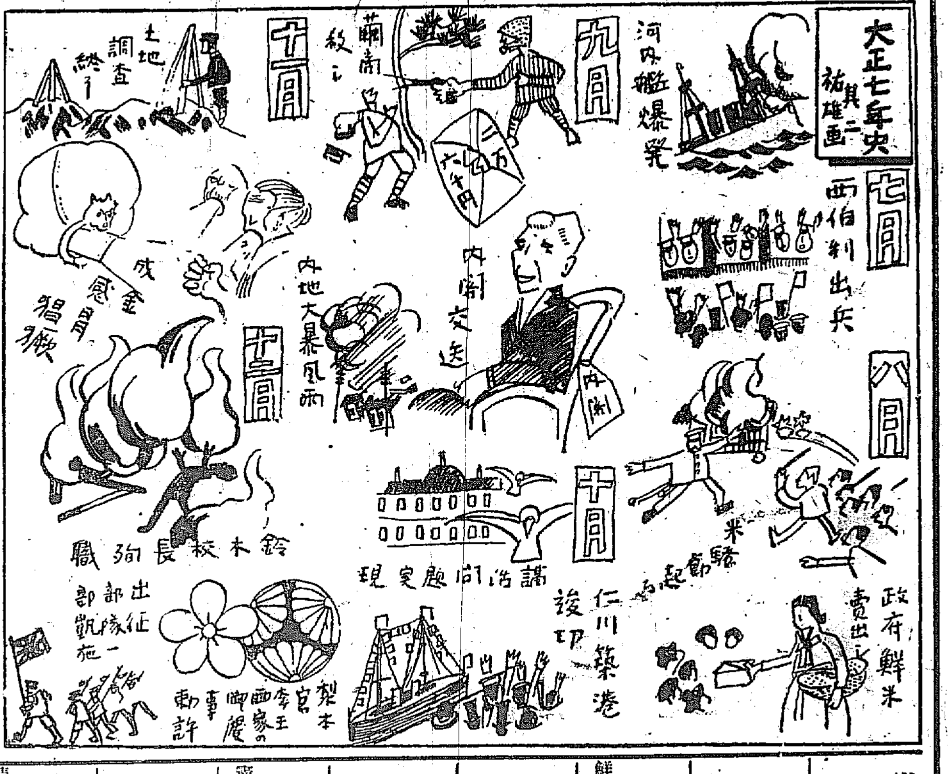
南米のある山奥に、親子四匹の羊が棲んで居ました。ある日のこと、親羊は三匹の子羊をよんで『さあ、袋が出來たからあの野原に行つて柔かい草の芽を摘んでお出で、明日はお正月だから草餅でもこさへてあげるから……お前達なまけてはいけないよ、そうして日の暮ない内に歸つてお出で日が暮ると恐ろしい狼が出て來るからね』と云ひ付けましたので兄弟三匹の小羊は一つ宛の袋と鋏とをもつて、歌を唄ひながら草摘みに出かけました。狹い道をすこし許り行くと綺麗な水の流れてゐる小河の邊に出ました。其處には柔かさうな草の芽が澤山生ひて居ました。



『やあ澤山な草の芽があるよ喜ばしいな……』三匹の子羊は其處へ袋を擲けて鋏をパチ／＼云はせながら草摘みを始めました。摘んでは入れして袋の半分位と入れた頃になると二匹の兄羊は、『あゝ、つかれて眠くなつて來た、おい弟、何うだい一寸の間この陽當りのいゝ暖かい處で晝寢をやらうではないか』と申しますと、弟羊は頭を左右に振つて、『晝寢なんかしていなまけるとお母さんからしかられるから僕はいやだよ、眠る間に草を摘んで早く歸らうではないか』と申しますと二匹の兄羊は、『馬鹿な弟だ、そんなに働いてもつまらない、俺達は一寸眠らう』と云つて其處へ眠つて了いましたそれから少時すると其處へ一匹の狼が水を呑みに來て、『あゝ、お腹が空いて堪らない、何かうまいものは落ちて居ないかしら、』と眼を光らせ鼻をクス／＼云はせながら周圍を頼りと探して居ましたが、ふと二匹の子羊がスヤ／＼と眠つて居るのを見付け『やあ是れは／＼、柔かそうな子羊だ、何うもご馳走樣……』と云ひながら大きな口を開いて子羊に飛び掛つてとう／＼二匹共嚙み殺して了ひました。



『さつきから一生懸命草の芽を摘んで居た弟羊はこの物音を聞き付けて、ひよいと頭を上げて見ると二匹の兄羊が狼に嚙み殺されて居るので吃驚して、『やあ、大變だ兄羊が狼に嚙み殺されて了つた、これは斯うしては居られない、早く歸つて此事をお母さんにお知らせしなければならない』と一生懸命逃げ出して來て、此事をお母さんに泣く／＼話して聞かせました。之を聞かいた親羊の歎きはそれは／＼目もあてられぬ程でありました。けれどもいくら泣いても歎いても取り返しのつく事ではありませんので、『いや／＼物事はあきらめが大事だ』と涙を拭いて、『あゝ可哀そうな事をした、でもお前丈けはよく私の言ひ付けを守つて呉れたので助かつた、まあよかつたね、さあ狼に食られた二匹の兄羊に草餅でも作つて、そなへましよう』と親羊は赤い襷かけて草餅を作つて二匹の兄羊の佛壇にそなへてやりました。それから親子二匹の羊は仲よく暮して行きましたとさ。



羊の占
二千年前に行はれたるもの
今は西藏に於て

今より二千何百年の昔印度を中心として猶太シリア等にかけて盛んに行はれた占骨法といふものがある此占骨法は幾多の變形が存するが東西に共通なのは羊の新しい肩甲骨を火に投じ其爆音及び線條によつて吉凶禍福をトする法である張刺比亞の史家アリシエルヤーニの記事に從へば昔は印度のシンド地方に於て此肩甲骨占法が行はれたといふ今日では現に西藏の喇嘛僧が此法を用ひてゐる和漢の書に羊骨トとあるのは即ち此法に外ならぬ又此法の一變形と目すべきものに鷄骨トがある此法は雞の股に在る翅骨を取り骨に孔が現れるまで之を削り若し孔が偶數なる時は竹を孔口に挾みてトするのであるが其際竹が内方に傾けば凶外方に傾けば吉とするのである（遠藤博士談）

羊の睦み

○　野村鴨原
朝の光り野にみちて羊啼し
湖を眞下に羊の丘はひろけし
羊まなざしやさしくもこちら向いて啼き
羊の毛をつみ父子の親しき話
羊放たれし湖のよろこびを啼ける
夕陽を浴びて羊逐ふ少年の唄
子等は羊と睦みあり牧場の日向
羊群れゐて野の果森がこんもり
宵月細く群れをはなれて啼く羊

○　松田かよ
羊逐ふ夕べの小川靜けくも流れ
羊みんな洗ひし森の一と日暮れたり

○　國弘文而王
一群れの羊野より野へ逐はれ
旭ほらかに野を這うて羊影据ゆ
雲影投げし靜けさ羊群れ居たり
鞭振る音に風は起りて野の羊
霞浮びし高原を羊泳ぐかな

○　津村南涯
羊相抱きて風の夜は明けたり
羊に交り鷄は草を啄めり
羊の群れ靜かに霽の月かゝる
來ては柵に羊見る子と子が話す
男入念に羊の毛掃きゐる日溜り
取り殘されし羊に牧場暮れかゝる
羊の牧場設けられたり墓地へのゆき
春日快よき病人に羊俛るゝ

○　佐藤迷二
羊の群が大きくなりて牧場の夕
しこやかな羊の毛切られ眞晝
丘の羊には日輪大きく出たりけり
子等が石投げて羊群と遠ざかり
羊の聖句讀まれた教誨堂の夜
營舍閉れる牧場には羊飼はれたり
羊の主若き人とゲートル太き
冬日倦める羊等に餌の賑ひ

○　川口鬮四水
柵に寄り來て人懷しむ羊なり
羊群れ居る牧場のその水碧し
羊皆出たり牧場一ぱいの旭
群れに遲れてひとり月踏む羊なり
ヒヤノ折々梅林の中の山羊飼ふ家
羊立つ柵のそこ鷄そこここ
羊飼伴ふ牧場の中の花圃

○　松田芳宙
羊呼ぶ兒の口笛の夕べおぼろ
剪りためし羊の毛に日陽がくるまり
和ごき羊のまなざしに手ひらかる

謹賀新年　忠北陰城　平塚銀治郎

謹賀新年　忠北陰城　小柳英雄

謹賀新年　忠北淸州市場　鮮人向雜貨　那須商店

謹賀新年　淸州公立農業學校　中川千吉

謹賀新年　忠北淸州本町　雜貨商　藤田支店　電話六二番

謹賀新年　忠北淸州　憲兵隊本部　小田金平

謹賀新年　忠北淸州郵便局長　村松與惣治

謹賀新年　忠北淸州　淸州警察署　野上代三郎

謹賀新年　忠北淸州東拓出張員事務所　沼田虎治郎

謹賀新年　忠淸北道廳　齊藤禮三

謹賀新年　忠淸北道廳　河野榮太郎

謹賀新年　忠淸北道廳　宮木政藏

謹賀新年　忠淸北道廳　井上主計

謹賀新年　忠淸北道廳　徐相免

謹賀新年　忠北淸州郡廳　山本幸四郎　三戸良一　吉留與助

謹賀新年　京釜線芙江驛前　松賀屋旅館

謹賀新年　忠北淸州本町　植野精米所　電話五九番

謹賀新年　內外各種肥料　海産物種苗諸雜具　滿留嘉久商店　釜山驛前通

謹賀新年　釜山長手通り　陶磁器並土器　山口商店　電話一三七番　振替一九八七番

謹賀新年　寫眞機と萬年筆　釜山本町壹丁目　品質純良　値段正確　岩瀨商店　電話七五五番　振替京城七八八番

謹賀新年　新粉直輸入　和洋菓子卸問屋　寺田安太郎商店　釜山辨天町一丁目　電長五〇六番　電略（テ）　振替京城五一二番

謹賀新年　東郷ハガネ特約販賣店　鐵諸鋼金物商　角野商店　釜山長手通　電話三三番

謹賀新年　朝鮮釜山牧島東部　森本造船鐵工所　電話三三番　電略（モリ）又ハ（モ）

謹賀新年　釜山驛前本局通り　富士商會釜山支店　古鐵商　杉浦又次郎　電話長九四七　電略（ス）又ハ（フ）

謹賀新年　諸機械製造並修繕　横江川鐵工場　釜山富平町三丁目　電話六三三番

謹賀新年　撫順炭特約販賣　三國商會　兼二浦

謹賀新年　和洋菓子製造販賣　猪原商店　兼二浦

謹賀新年　藥劑師　中村良一藥局　兼二浦

謹賀新年　大和組　兼二浦出張所

歐米雜貨　杉田洋行　黃海道兼二浦

謹賀新年　森山病院　兼二浦

謹賀新年　三浦醫院　兼二浦

御旅館　福久家　兼二浦

御旅館　愛媛館　兼二浦

御旅館　菊屋　兼二浦

御料理　翠月　兼二浦

明良醫院　院長 吳明良　齒科部長 韓相課　兼二浦

明けましてお芽出度う御座います本年も相變らず御引立を願ひます　藝妓　兼二浦　富士の家　〆八　妹　龍玉妹　大成　吉玉　毛玉　千代　吉駒　彌龍

謹賀新年　清酒醬油卸問屋　丸田商店　兼二浦新市街

山城壽　兼二浦

御料理　鶴屋　兼二浦遊廓內

御料理　松月　兼二浦

富士の家　兼二浦遊廓內

謹賀新年　福島莊平　兼二浦

御旅館　高島屋　兼二浦

謹賀新年　銘酒清力特約店　辻酒場　兼二浦

謹賀新年
最上醬油キツコーリウ　ほまれ味噌　釀造元
仁川港
日本醬油株式會社
電話七五一番

謹賀新年
仁川金谷里
朝鮮燐寸株式會社
新義州鴨川町
朝鮮燐寸株式會社
新義州支店

謹賀新年
（順次不同）
株式會社朝鮮銀行仁川支店　電話一番・三二〇番　振替貯金京城三四〇番
株式會社百三十銀行仁川支店　電話長五八番・一〇一番　振替貯金京城五十五番
株式會社十八銀行仁川支店　電話一八番・九一八番　振替貯金京城二六七六番
株式會社朝鮮商業銀行仁川支店　電話八四・九番　振替貯金京城一〇六二番

謹賀新年
株式會社仁川米豆取引所仲買人
㋑仲買店
今村覺次郎
電話長三三七番・三六八番
自宅仁川寺町（電話一六一番）

恭賀新正

八木吉彦　兼二浦

謹賀新年　兼二浦療病院　院長　森方正

謹賀新年　兼二浦　御旅館　千勝館

謹賀新年　兼二浦葬儀社　同火葬場　事務取扱所

謹賀新年　醤油釀造　各國銘酒　宮野商店　兼二浦

謹賀新年　兼二浦　兼二浦座

横濱火災海上、運送、信用保險株式會社代理店　米穀商　村田喜三郎商店　兼二浦

謹賀新年　大葬社　兼二浦

謹賀新年　白米商　齊藤出張所　兼二浦

謹賀新年　和洋金物商　石井今一郎　兼二浦

謹賀新年　日用雑貨卸小賣　黒岩商店　兼二浦

謹賀新年　平壌鳥肉　丹波金太郎　兼二浦

謹賀新年　日用諸雑貨　洋服誂進　小上馬商店　兼二浦

矢島活版所　兼二浦

謹賀新年　日用諸雑貨卸小賣　常石周一商店　兼二浦

謹賀新年　兼二浦一の洋食料品卸店は　歐米雑貨商　山田商店　店主　大楠房之　兼二浦市街

謹賀新年　鮮人向雑貨商　森久支店　兼二浦

謹賀新年　中村組　兼二浦出張所

會席御料理　松月本店　兼二浦

謹賀新年　土木建築請負業　兼二浦組　組長　竹中吉之助

謹賀新年　各國時計直輸入卸商　京城黄金町二丁目　喜多金光堂　電話一〇一五番　振替口座京城七一八一番

謹賀新年　各國時計、美術品　京城本町　田中時計兄弟商會　電話一五七番

謹賀新年　美術貴金屬品指輪製作　京城本町一丁目　高木勇　電話九九〇番　振替京城九九〇二番

謹賀新年　各國時計及附屬品　寶石入指輪眼鏡　貴金屬美術品類　京城府本町二丁目　木島時計舗　御注文品は御好に應ず　電話一三九番　尚時計修繕は入念迅速に可仕候

謹賀新年　貴金屬美術品製作並ニ販賣　京城本町二ノ二（明治町ニ入）　土橋金光堂　店主　土橋珍松　電話一五二二番

謹賀新年　各國時計類、貴金屬製品眼鏡類販賣並に測量製圖觀測器修繕　京城本町三丁目百二番地　市川啓藏　電話二一〇五番

謹賀新年　各國時計、金銀眼鏡、寶石指環、美術裝品貴金屬商　京城本町二丁目　平井勳資堂　電話二二〇一番　振替京城一二六一番

謹賀新年　各國時計及附屬品一切　貴金屬眼鏡指環寶石類美術品製作　京城太平通二丁目　向井時計店　電話一四二五番　振替口座京城三九七〇

謹賀新年　金銀細工、眼鏡製作、品質確實　京城本町一丁目郵便本局横　時計貴金屬指環　眼鏡商　中村時計店　店主　中村榮一　電話一〇一七番　振替京城三四六番

謹賀新年　貴金屬品、時計、眼鏡、指環、金銀盃、章牌一式製作業　京城本町　金銀屋　電話三四九番

謹賀新年　京城本町二丁目　各國時計貴金屬商　二浦天龍堂　電話一〇〇二番

謹賀新年　京城南大門通一丁目　眼鏡専門　宮川大學堂　電話二九五九番

謹賀新年　洋鐵、鑛山、鐵工、鐵道、土木、建築、工業用品、諸油、塗料、火藥、爆藥　平壌本町　岩田金物店　京義線孟中里　岩田支店

文房具紙類測量製圖器械商　平壌大和町　川橋圭三郎　電話長三四一

謹賀新年　和洋紙文房具印刷業　平壌旭町　奥田洋行　奥田延之助　電話長一二五番　同一二一番

謹賀新年　平壌魚菜市場　電話三三一番

謹賀新年　内國通運株式會社支店　大和組運送店　小林運送店　荒金運送店　協同組平壌支店

謹賀新年　平壌檢番組合（イロハ順）　大同館　壽樂　喜　七星館

謹賀新年　富士製鐵上場建設事務所員　一同

日鮮雑貨卸商　廣田商店　平壌府里門里　電長一六二番　一四六

平壌港町　材木商　富田晋二　電話長一三六番

平壌府里門里　貿易商　伊藤商店　電話一二〇番

綿糸、綿布、諸織物　雑貨直輸入　鬼頭平壌支店　平壌大同門通　電話長一〇三番

村松商店　平壌大和町

平壌旅館組合

謹賀新年　平壌壽町一三六番地　河村商會　電話長二六二番

舊年中は格別の御愛顧を蒙り奉謝候尚本年も倍舊の御引立に預り度奉希上候正月二日の初賣には玉差上け申候尚三四兩日は休商可仕候　平壌大和町　久川呉服店　電話五五〇番

同　大和町　丸橋呉服店　電話四六番

同　大和町　丸京呉服店　電話長三五番　五〇三番　八三五番

宮崎自轉車商會　平壌府大和町　電話四四番

謹賀新年　大邱驛樓上　喫茶店　蓬來　電話七三一番

謹賀新年　大邱府上町　獨立舘　寫眞師　竹内奇川

謹賀新年　朝鮮京釜線慶山驛　穀物商　廣信商會　電略コヌハ（コウ）

謹賀新年　慶尚北道　果物同業組合

謹賀新年　大邱府廳　中野太三郎　植松正一　前原重晴　君ケ袋康　戸田正

謹賀新年　大邱公立高等女學校　教職員一同

謹賀新年　慶尚北道農業講習所　慶尚北道蠶業取締所　職員一同

謹賀新年　大邱公立尋常高等小學校　教職員一同

謹賀新年　大邱商業會議所　吉村鎭雄　堺萬次郎　增田虎太郎

謹賀新年　安東縣五番通り　石炭商　橋野熊五郎　電話二〇九番

謹賀新年　安城郡邑内面東里　安城平澤間乘合自働車　寶駿自働車部　京釜線平澤驛前出張所

健全種苗、山林、果樹、觀賞、牧草、藥草、蔬菜、米穀類、自園產果實、農具、肥料、販賣業、蠶牛糸、屑物、羽毛貿易商　京畿道安城市場通　朝鮮勸業商會　電信略號〇イ　振替京城五八九番

謹賀新年　長春　兩切口附卷煙草製造所　株式會社東華煙草公司　電話五九一番

謹賀新年　長春東七區四十二號地　株式會社長春錢鈔會社　電話長七二四　一六一　一九番　大連振替口座一六四〇番

謹賀新年　完天合資會社

謹賀新年　満洲安東縣大和橋通二丁目　土木建築請負　中村工務所　電話四〇八番

謹賀新年　安東縣大和橋通り四丁目　山二運送店　電話三四一番

謹賀新年　忠州郡廳　申昌休　田中勳　尾西清

謹賀新年　全州　藤谷作次郎

謹賀新年　咸興岡崎町　各種材木商　盛林商會

謹賀新年　咸興邑中里　和洋雑貨食料品商　盛吉商店　電話十六番

謹賀新年　兼二浦　和田病院

謹賀新年　兼二浦　院長歯科醫學士　黒田歯科醫院　黒田驛市

兼二浦唯一の西洋料理店　カフエーミヨシ

謹賀新年　兼二浦新市街　塚本呉服店

謹賀新年　東洋コンプレツソル株式會社　兼二浦出張所　主任　辻源司

謹賀新年　履物類一切販賣　建築請負業　土佐野商店　土佐野國太郎　兼二浦

メリヤス類一切毛布シヤツズボン下、洋服類　蒲生商店　兼二浦

消火器噴霧器用　按田分解式輕便喞筒　堺屋商店　兼二浦

謹賀新年　會席御料理　富士の家　兼二浦

各船舶糧食納入所　魚問屋青果委託販賣所　黄海道兼二浦　中島定兵衛

會席御料理　みゆき　兼二浦新市街

藝妓　鶴松　黄海道兼二浦

日用雑貨商　小方商店　兼二浦

和洋食料品日用雑貨卸問屋　市川商店　兼二浦

謹賀新年　青木叔夫　黄海道兼二浦

謹賀新年　貿易商　河野出張店　平安南道安州

謹賀新年　深川呉服店　平安南道安州邑

謹賀新年　平安南道安州　藤村三恒商店　電略（フ）叉ハ（フシ）　振替京城一〇六

謹賀新年　平安南道安州邑　吉田商會旅館部

謹賀新年　黒鉛　柴田鑛業所　平安南道勃安

謹賀新年　釜山本町三丁目　共益社釜山支店

謹賀新年　釜山本町三丁目　綿糸布商　靑見商店　電話一〇〇番　振替京一八〇

謹賀新年　砂糖麥粉直輸入商　釜山琴平町　合名會社中島商店支店　電話六〇三番

謹賀新年　釜山本町三丁目　貿易商　坂田文吉　坂田材木店　阪田精米所

謹賀新年　釜山本町一丁目　米穀雑穀海産物　小玉商店　電話七一六番

謹賀新年　釜山府南濱町　海陸物産委託問屋　伊藤庄之助　電話三三番

謹賀新年　釜山南濱町一丁目　原鹽再製鹽　許斐釜山支店　第一工場　第二工場　電話四一一番　絶影島同一三二番

謹賀新年　釜山理立新町　貿易商　協信洋行　電話六三一番

謹賀新年　京城本町　醤油酒　佐藤牧商店　電話一九・二四八　龍山陸軍構内　佐藤牧用達部　電話五二九　龍山漢江通り　佐藤牧支店　電話四二九

謹賀新年　京城本町二丁目　貿易商　梶原末太郎商店　電話長三六七番

謹賀新年　京城本町一丁目　高木德彌商店　電話一三四番　二五四番

謹賀新年　京城府仁寺洞百三十六番地　辯護士特許辨理士　高橋章之助　電話一五六番

謹賀新年　京城旭町一丁目　（京）市場　電話一五八八番

謹賀新年　京城府吉野町壹丁目九拾一番地　鐵材輸出入　レール車輪貿買　土工用具製作　永德商會　永村信夫　吉澤德次郎

謹賀新年　各種原木雑木製材　建具一切販賣　京城黄金町二丁目　光昌材木店　主任　郊以初　電話二八五一番

謹賀新年　パンビスケツトドロツプス類製造卸小賣パンの元祖　京城明治町二丁目　木村屋京城支店　電話八七〇番

謹賀新年　活動寫眞及機械其他一切の御需用に應ず　京城本町二丁目八八番地　日本活動寫眞會社　京城出張所　電話一九一三番

謹賀新年　印材並ニ印章彫刻　京城金町一丁目　田理　千代田印房　電話九八七番

平壌府大和町　平壌藥品販賣所　電話六一番　振替京城三四〇八番

平壌府南門町　漆器商　野路商店　電話一四七番

平壌大和町　矢野商店　電話七三番

製絲商　岩野宇多二郎　平壌大和町　電話一二三番

電氣器具並ニ諸器械販賣　西鮮電氣商會　平壌府壽町　電話長六一九

醤油釀造、味噌製造販賣　齊藤長藏商店　平壌八千代町　電話五四七番

兼二浦　共立病院　院長　館本稔

建具指物硝子販賣　堅田福松商店　兼二浦

謹賀新年　兼二浦　三星商會

謹賀新年　兼二浦　氏家清次

謹賀新年　清酒醤油　梶川出張店　兼二浦

入江好太郎　兼二浦

御旅館　二葉館　兼二浦

謹賀新年　土木建築請負業　北林芳太郎　黄海道兼二浦

謹賀新年　土木建築請負業　柳生助一　黄海道兼二浦

平壌大和町　貴金屬美術品　福田時計店　電話四一六番

藥房森田奈良治　平壌大和町

羅紗販賣洋服裁縫商　平壌府本町十二番地　遠忠商店　電話三三番　振替京城七六〇番

平壌府壽町　運搬請負　皮革製造並ニ毛皮綵　上谷商會　平壌皮革工場

謹賀新年　製材業　各種製材　各種原木　平壌府壽町（稅關前）　友木製材所

洋燈類硝子器商　平壌府南門町　丸二硝子店　平川良　電話八五八番

シンガーミシン會社　平壌大和町　千國德重

謹賀新年　大邱郵便局　局員一同

謹賀新年　慶尚北道　種苗場員一同

謹賀新年　大邱　寫眞　池見與五郎

謹賀新年　大邱府錦町　石炭商　二ケ尻商店　電話長三五三番

謹賀新年　大邱府東城町　和洋雑貨　丸島銃砲店　電話三〇三番

謹賀新年　大邱府市場北通　穀物貿易精米販賣　大浦精米所　電話長四一七番（電略オ）　振替京城一二六七番

謹賀新年　大邱府幸町　穀物貿易精米食鹽　古谷精米所　電話四八番　電略（フル）

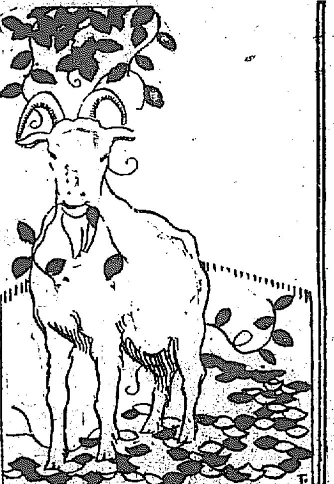
謹賀新年　大邱府錦町一丁目　穀物貿易　光成友三郎商店　電話長六五〇番　長七二三番　電略（ミツ）

謹賀新年　大邱府市場町　内田商店　電話長三二番　振替京城一七七七

謹賀新年　大邱府南龍岡町　清水德太郎　電話五〇四番

謹賀新年　慶山　李容漢　久萬直錯　近藤次郎　小泉弘毅　原田次郎一　立川周作　灘井榮一郎　日高英介

新年附録 其四



易より觀た大正八年

易士 岡村介石

☰☷ 天山遯

大正八年は己未の年、釋名に曰く己は紀なり。皆定形の紀識即ち萬物各々其性を逐け其個性を發揮す未は老なり。福祿なく、住居不安にして律は林鐘なり、己未を合せて一言にせば頑固の老人中和を缺ぐの意味にあたる、日月食なき所以なり。

天候は上半年濕氣多く下半年は露箱大雪堅氷鐵の如きに至るなり四季に分てば春初温暖濕氣あり、梅雨例年より早く吹き殿雨は遲し、夏は暑熱順當なれども濕氣横生地方蒸發し大雨雷電屢々至り秋期却つて夏より暑く草木煙氣を生じ不時の大雨赤風ありて頓に冷氣を催し草木黄落す小雪(新十一月下旬)より寒威劇烈となり霜雪多く堅氷鐵石の如き状を爲す、故に作物は上半年收穫のものは豐穣なれども下半年のものは大方凶作と知るべし。一般の景氣に至りては初め一家底の如く中頃動搖あり終には亂れて來るの象あり。金融は表面圓滑なるも紛亂の恐れありて裡面困難に陥るべし物價は總じて下落の傾向あるも穀物は上騰す、講和は『風火家人』の卦にして聯合各國共同して進むも中頃こなり我に仇し紛擾を極め『天地否』となり『澤地萃』となりて往て咎なし上吉す。故に講和進行上種々の障碍起りて進捗を妨ぐべし、成立の結果我國の利益は滿足ならざるべし其成立の期日は六七月頃とし若し時期を經過すれば『火地晉』となりて朝日の如き光輝を發するも又日の地中に入るの恐れあり尚も進まば『噬嗑』となり『山雷頤』となりて頤まらに顚はる經に『拂る丘に頤はる、征けば凶』とあり又經に『拂る貞に居れば吉、大川を渉る可からず』とある故に八月以後に及ぶことなしと觀測す。

而して今年は肺病に類する病疫に罹る者多かるべく注意すべし

大正八年各人の運勢判斷

一白 二〇、二九、三八、四七、五六、六五、七四、八三

本年一白の人の本命星は西北(乾)の金の座に入るから金水を生ずるので運勢は好い譯であるが茲に困るのは本年は九紫火星の歳で相尅するからドウも大歳の九紫の爲に邪魔をされる象があつて得て外界の問題に就て紛擾が湧いて來る様な傾きがある、それのみならず一白の人は前年本命の歳に當つて運勢が悪かつた餘勢を受けてゐるので謂は゛半病人の様なものであるから充分に好い運勢といふ譯には行かないが併し吉月吉日を選んで愼重に事を行つたら必ず成就するであらう。

二黒 二一、三〇、三九、四八、五七、六六、七五、八四

二黒土星の本命星は本年西の七赤金星に巡つてゐるのみならず大歳も九紫火星であるから美しき旋大な家に入つて結構の女房を迎へたといふ様な願つたり叶つたりの珍らしい善い歳であるから收入も殖ゑようし地位も上達しようし又商人ならば商業繁昌すべき大吉年であるが注意すべきは色情の問題で殊に未婚の者には縁のある歳であるが正當な道を踏んだ良縁なれば一向差支ないが妙な色情の關係から一生涯に取返しのつかぬ様な破目に陥らぬとも限らぬから其點を呉々も注意すべきである

三碧 二二、三一、四〇、四九、五八、六七、七六、八五

三碧は木性を以て鬼門八白土星の座に入るから木尅土と稱して三碧から八白の座を尅する事になつて甚だ宜しくないが併し夫れに對して大歳の九紫火星が外界から監視してゐるから此年は或は多少の吉利があつて同情を受ける事があるかも知れないが内政の事は不如意で殊に一身上の變化が起るかも知れぬから大に注意すべき歳である

四緑 二三、三二、四一、五〇、五九、六八、七七

四緑木星を以て九紫火星の座に入るから木火を生じて相生の歳なるのみならず大歳も九紫火星であるから内外共に相生して誠に紛らしき善い歳である併し今歳九紫の星は九紫の座に入るから暗劍殺に入つて或は不時の損失災害等を被るかも知れない、殊に思ひ掛けない所から木に餅の成る様な甘い相談を持掛けて來るかも知れないがウカと乗ることは飛んだ失敗を招く事があるからソレを注意する事と又色情に就ても縁のある歳であるが男女共に不正な色情に迷はぬ様に注意すべきが肝要である

五黄 一五、二四、三三、四二、五一、六〇、六九、七八

五黄土星の人は北の一白水星の座に入るから土尅水と相逆して兎角圓滿を缺く事が得て生じ易き傾きがあるが大歳は九紫火星であるから火土を生じて外界の同情は極めて深き歳である故に不如意勝ちながら生活上の都合は好いが但し逆睦と疾病を注意する事が必要である

六白 一六、二五、三四、四三、五二、六一、七〇、七九

六白金星の人は本年西南(艮)の座に入るから土金を生ずとあつて二黒の座から相生される所が大歳が九紫火星であるから火金を尅して兎角物事が善く行きさうで善く行かぬ傾きがある殊に外界から好い事を聞かずして損失に流れ易き歳であるが併し努めて自己の業務に努力しさへすれば下半季から次第に幸運に向つて來るであらう一體に六白の人は大正六年から兎角不運續きで隨分悲憾な境遇にあつた人もあらうが今年から新しき機運に會して追々運盛大になるであらう

七赤 一七、二六、三五、四四、五三、六二、七一、八〇

七赤金星の人は今歳東の三碧木星の座に入るので金尅木と稱して七赤から三碧木星の星を尅するのであるから縮かで内部には面白くないことも生じ易いのでツイ斯んな年に限つてムラ〜と何か野心を起して見たくなるが根據なき計畫は止めた方が利益である殊に大歳も九紫火星であるから火尅金を尅されて遂には手も足も出ない破目に陥り易いから確固たる基礎の上に立つ仕事なれば兎も角砂上の樓閣的なる空想より成る野心は決して起さぬが宜しいと申て置く

八白 一八、二七、三六、四五、五四、六三、七二、八一

八白土性の人は四緑木星の座に入るから木尅土と尅されて内部に或は思ひ掛けない問題を惹起すかも知れないが大年は九紫火星であるから火土を生じて相生するために外界に對しては人氣旺盛で或る思ひ掛けない有力な人から引立てられる事があるかも知れない、故に此歳の幸運に乗じて堅實なる基礎の上に事を爲さば意外な要賢を見るかも知れない、但し色情に就ては充分注意すべき事を勸告する

九紫 一九、二八、三七、四六、五五、六四、七三、八二

所謂八方塞がりの歳で此歳は外界から種々なる非道理の利益問題を持込まる、事があるかも知れないが事を爲すには須らく愼重に熟慮を重ねて苟くも外界から來る誘惑に乗つてはならぬ、恐らく本年足を踏み過らば得て一生取り返しの付かぬ破目に陥る様な事になるから、ゆめ戒愼に戒愼を加へて正道を定むべきである、殊に鑛山、投機等の一攫千金的業に對しては當業者以外の者は絶對に禁物と承知ありたきことを申し上ぐる

大正八年新年の御題

開千鳥 朝晴雪

東京 福旭翁 作譜　京城 仲村郁一 謹作

ほのぼのと天の戸あけて匂さす富士の高嶺の[illegible]の雪
[illegible]浮島が原[illegible]
[illegible]三保の浦[illegible]
ひたす姿と清見潟[illegible]
[illegible]雪の色[illegible]
[illegible]富士の嶺[illegible]
[illegible]

小切

◎未年生れの名士

■朝鮮商業銀行頭取三島太郎氏 ■覆審法院部長塚原友太郎氏 ■總督府技師池田泰治郎氏 ■總督府醫院醫官有馬英二氏

新年文藝

◇—謎—◇

題「講和と掛けて」

一等

◎外務省の年賀受けと解く
心は『各國の名刺(士)が集まる』　龍山京町三四 羽間 長藏

二等

◎さし直しの將棋と解く
心は『成金が步になる』　忠州 酒井 凸坊

◎食料品の統計と解く
心は『米穀(國)が先に立つ』　京城吉野町一ノ六九 木村巴東

三等

◎日本の植民政治と解く
心は大戰(喜餅)の美果を收める　平北義州獨山 宮崎寒扇子

◎歌留多會と解く
心は『選手の腕前が見もの』　京釜線大田 森川 桃雨

◎情死と解く
心は『氣の弱い者から云ひ出す』　龍山鐵道社宅三六 芳村 葛城

▲二棋の劍術と解く
心は相互に隙を見出して出來上がる　京城 西脇 紫浪

▲選擧の時期と解く
心は新香(成功)を競べる　晋州 磯井 幸

▲猛獸禁止期と解く
心は猛砲が止む　京城 泰 喝

▲敗突打の賞品と解く
心は負けて持出す　仁川 引導寺 吾輪坊

▲蠶卵と解く
心は針(巴里)で仕事をする　平南順安 ひろし

▲甘黨の勝利と解く
心は敗戰(盃洗)の方が不利　京城 宮里 兎角

▲昨今の艦船と解く
心は減艦(萬歳)　京城 雪山

▲兵士の競點射擊と解く
心はカイセル(皆口)が敗け　木浦 庭園 一

▲六道の辻と解く
心は勝負に依りて地獄にもなれば樂にもなる　京城 松本 與一

▲茶臼山血判取の場と解く
心は大使副使の本舞臺　京城 枯庭 庵

▲目をつけた弟子の稽古と解く
心は大就頭(大陳惡)が媒介　春川 西村秋芳子

謹賀新年 安東縣江岸通 海運業共益商會 電話七六番

謹賀新年 安東縣三番通四丁目 杭木材木商 三合公司 電話四三七番

謹賀新年 奉天浪速通 田中東亞堂大藥房

謹賀新年 龍山元町四丁目 漢江河岸電車終點 共樂社遊船部 電話五二八番 龍山榮町三六番地 社主 富山武盛 電話四三番

謹賀新年 精米機、製繩機 精米、字治茶 石原商店 石原嶽次郎

謹賀新年 醬油釀造業 兼古禮藏 龍山元町一丁目 電話一四一番

謹賀新年 朝鮮京城府龍山停車場前 丸三酒場 場主 宮原藤太郎 電話三〇三番 振替京城一九六二番

謹賀新年 戸張商店 龍山漢江通十三番地 電話五三四番 振替府金三五三二番 戸張支店 京城本町二丁目三番地 電話一四七番

謹賀新年 弘榮堂製劑所 志摩熙 龍山元町一丁目百十番地

謹賀新年 日本歐米各國專賣特許 プランチャードランプ 望月特約販賣店 龍山漢江通八番地 電話龍山三三番

謹賀新年 京釜線大田本町 中川旅館 長電話二十二番

謹賀新年 株式會社 仁川米豆取引所 電話 一四番 一八三番

謹賀新年 羅紗洋服商 京城太平通二丁目 富田松太郎 電話七二二番

謹賀新年 金物商 京城本町一丁目 佐野彦藏 電話一六三番振替京城一二〇番 ▲千代田火災保險株式會社代理店▼ ▲千代田生命保險相互會社代理店▼

謹賀新年 ホテイビール 滿洲麥酒株式會社 本社 假事務所 大連山縣通 電話七四七番 工場 旅順桃園町 電話二七一番

試筆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇松村六々山人

米價高低變遷
―大正三年より七年迄―

近年に於ける米價下落時代は大正三年を以て頂上とし同年十二月には京城地摺中玄米六圓九十錢一等白米十圓三十錢といふ安値に陷りこれを底値として爾來徐々人氣を回復し大正四年より六年始め頃迄は十圓内外より十二圓の範圍を上下し六年晩春に至り漸く

▲形勢一變して 十八九圓に上りしも當時諸物價との均衡上より見れば尚低位に過ぎたる觀ありしも動もすれば氣勢上向きの兆候なきにあらざりしも機會の之れに伴なはざるものあり強氣及び思惑者は常に失敗を繰返し結局前記値頃を持合ひの儘大正七年を迎へたり然るに偶々北陸及び山陰地方に大降雪あり米穀の輸送上大障害を來し内地各市場は在米拂底の聲を高め來れると同時に思惑者乘出しの機會を作り從つて明正米漸く活躍の端を開き其の結果社會問題を惹起し遂に米價調節の聲四方に喧傳せらるゝに至れり而して時の政府は其一策として定期市場に高壓を加へ而半を手始めに戒告警告の處分を受くるもの相踵で現はれ市場は

▲恐怖的大混亂 を來しこれが爲め一時相場を折壓せしも後忽ち反抗的逆行相場を現出し殊に正米は輸送力の缺陷益甚だしく且つ一面農家固惜みの念が強め集散市場に於ける在米の缺乏日々其度を加へ來りたるより之れが補給として鮮米の買附盛んに行はるゝに至り釜山群山仁川京城等は之れ等の移出註文殺到し從つて鮮内の米價も日に月に上向歩調を辿り二月頃には京城中玄米漸く二十圓臺に上り次いで六月に至りて二十三圓臺に進み七月に入りては相場の上げ足甚だ急となり遂に大正元年の最高値を抜き二十七圓二十錢の新高値を現はしたるが而も形勢旺然として尚底止する處を知らず

▲人氣愈々熱狂 し續いて八月となるや内地白米は一升五十錢以上を突破し爲めに釜山市場は急激に之れが影響を受け三等合格米四十三圓といふ珍値を傳へ延いて京城相場も上玄米三十七圓五十錢中玄米三十六圓五十錢小賣白米四十三錢といふ空前の高値を現はしたるが時恰も内地米騷動の餘波を受け左しも狂騰を逞うせし米價も此威力に脅かされたると廉賣及び救濟米の賣出し等にて漸く人氣を緩和するに至り一時六七圓方の反落を告げしが其後内地の風水害に次いで新米の出廻り季に入りたるを以て相場は氣迷ひ的に一高一低となりしが何分米作は朝鮮の豐作に引替へ内地は

▲風水害の爲め 約五百萬石の被害減收となり且つ古米の殘存無き年柄丈けに前途の供給不足免れざるべしとて一般に春高見越の裡に三十圓六十五錢といふ強硬氣配を以て越年せり今大正七年の月劃高低を示せば左の如し

▲京城中玄米

	最高値	最底値
一月	一九、五五	一八、五五
二月	二一、六五	一九、三五
三月	二一、七二	二一、六〇
四月	二二、六〇	二二、三五
五月	二三、八五	二二、一〇
六月	二三、四〇	二二、五〇
七月	二三、二〇	二二、二〇
八月	三六、五〇	一七、三〇
九月	三〇、一〇	一九、四〇
十月	三三、三五	一八、八〇
十一月	三一、二〇	一九、〇〇
十二月	三〇、六五	一九、八〇

忘年會
上田良一

日本の西南の方の或る縣にある小さな都會で、十二月二十幾日といふ夜のこと、その町にたつた一軒しかない西洋料理店の一室に同じ卓子を圍み合つた八人の者があつた。まだ二十歳前の、學生らしい顔附の者も居れば、鬚の白い六十過ぎの老人もゐた、洋服を著た者も居れば紋附羽織のものもゐた縞の羽織の著流しもゐた、いづれも好い服裝でないことは同じかつた、そしてまた顔附の福々しい人間でないことも同じかつた、彼等は綺麗に食てしまつた皿と、空になつた盃を前にして、ポツリ、ポツリと話してゐた。

彼等はこの町にある小さな郡立の實業學校の教員の全部であつたその學校は五六年前に、この土地の流行風のやうに襲つた實業教育熱のために、謂はゞその一時の熱冷しとして間に合はせに建てられたものであつた。一二年の間は鳥渡景氣が好いかと見ゐたが、直に入學志願者は減り始めて、二十人にさへ足らなくなつた。さうして郡民どもからは如何にも無駄な費へのやうに扱はれて、經費は減らされるばかり、廢校問題までが擡ぎ出されるやうになつた。教員達にしても氣を腐らした。生徒と云へば他處の學校から追出された者や落第ばかりするので親達はじめ自分までが愛想を盡かした者や、身體が人並でなくつて他の學校へは行けない者や、さう云ふ選りに選つた滓ばかりが今は六七十人ばかり集まつてゐるだけである。さうして教員達の俸給はもとから多くもなかつた上に、何時まで經つても好くならなかつた。けれども彼等は默つて辛抱した。いつれ遠くはない未來に、自分達の首を總搦じに切られる時が來るだらうといふ漠然とした不安に絶えず脅かされながらも、それが現實となる刹那まではやはり凝として、その乏しい報酬に自分の身を賣つてゐなければならなかつた。さうした彼等自身もまた世の選り殘された滓であつた。

彼等の中の四人は遙々と他國から來てゐる者であつた。八字鬚を立てた皆い憂鬱な顔を高い肩の上に眞直に乘せてよく當もない遠方を見詰めてゐる中年の學士の山岡、眼鏡の下から何時も人の好い微笑を含んだ眼が覗いてゐる、華奢な身體附が自然にハイカラに見ゐる三十前の西野、それより三つ四つの年下で、背の低い、ムッツリした陰影のやうに沈んだ齋藤、この三人はみんな細君と、或は子供とを持つてゐた。それと、年は三十に近いが、大きな身體のまだ書生らしい、學校の宿直室に自炊してゐる三枝との四人である。

あとの四人は此の土地の者であつたが、五十過の校長は、これと云ふ履歴も持たずに地方の農業校に十年餘りも經上つたのを、十年程前に淘汰免職となつて郷里に引つ込んだ人であつた。お役人氣質の名殘の、何處か傲然とした處のある巖丈の身體に紋付羽織を掛けて、編上の靴を鳴らしながら二里近い途を歩いて學校に來た。助敎諭兼書記の森本は、彼等の中の一番年長者で、そして恐らく一番苦しい生活の營み人であつた。痩せた小さな顔に眞鍮縁の眼鏡をかけて光線の暗い教員室のなかを何かしら始終老人の氣忙しさで彼方此方と動いてゐた。そして町はづれにある彼の親達からの古い住居には子供や孫や、大勢の家族が彼の勤めに靠り掛かつてゐた。あとの二人は一番若いだけにまだ自分の未來に希望と空想とを持つてゐたがやはりさうした若さで自分の生活を支へて行かなければならないことを、運命の最初の躓きとしてゐる樣な青年であつた。

彼等は今まで飲み食ひのために同僚同士集まるなどと云ふことを一度もしなかつた。それは彼等の財布に餘裕がないといふよりも、――實際それには相違ないが――彼等の氣持にさういふ餘裕がなかつた。それが如何した譯か、今年はふいと誰か、忘年會といふことを言出した。さうだ、一度位そんな會もしないでは、餘り人並でなさ過ぎる、さう云ふ心が誰の胸にも起つた。そして雜作なく纏まつた。幹事役を仰せ附かつた森本老人が、その西洋料理店と交渉して、會費を八十錢に取極めた。誰もそれを高いとは思はなかつたが、もつと殖やさうと云ふものはなかつた。實際、彼等の中の半分までは、それを自分一日の勤で償ふことが出來ないのであつた。

それで彼等は第二學期の授業を終つた日にその忘年會を開くことにした。さうして今茲にその席上で、會費だけの酒と料理をみんな飲んでしまひ、食つてしまつた處であつた。

が、彼等はまだ誰も起たうとはしなかつた。一方にだけ切られた二つの窓の外には、何者をも沒したたゞ眞黑い闇が重なり合つてゐた。下の堀割を通る船の櫓が、凍つた夜氣の軋る音のやうに折々ギイと鳴つて過ぎた。窓硝子は夜風に撫で廻される寒さを、鳥渡默つてゐてはまたガタ／＼と震へ聲で訴へた。けれども彼等はそれが耳にも入らない風で、その陰氣な、或は貧しげな、或は嶮しい、或は淋しげな顔の何處かに、何か樂しむことを心の中に持つてゐるやうなそれとない微笑の色を滲ませてゐた。

彼等は全く滅多に感ずることのない、柔かな、打寛いだ、幸福な心になつてゐた。退屈な、氣むつかしい日々の勤めは、兎も角も今日を以て今年の分を打切つた。前には數日の休暇がある。今月の俸給、それから僅ながらも一年の勤勞をねぎらふ意味の餘分の金高をも今日既に受取つた。そして今こゝに皆な同僚と集まつて、貧しい會ではあるが、酒の醉と食物の甘さとを樂しむことが出來、自分の家にゐるよりは明るい電燈の光と學校で隣同士に手をかざし合ふ火鉢のそれよりは暖かな暖爐の火氣に包まれてゐるのである。彼等は暫く自分達の死損ひの學校を忘れ、飾層の生徒を忘れ、そこに甘んじてゐなければならない運命の苦さをも忘れた。

『どうも、好い忘年會をしましたどうも……』

と森本老人は醉の發した顔を、少し眠さうにして誰に向つて云ふでもなく云つた。誰もしかしそれに應へなかつたので、西野がやがて笑ひ掛けた。

『森本先生が一ばん好い色になつてゐますね。』

『これは遣切れません。僕が皆樣の御酒まで頂いたやうな譯になりますか。』

森本老人は直ぐさう云つて、仰山さうに笑ひ出した。

するとまだ若い教員の一人が、卓子の上を眺め廻してゐたがニヤ／＼笑ひ出した。

『みんなお行儀よく食てしまつたものですね。皿洗ひが喜ぶでせう。』

『全くだね、三日も飯を食はなかつた揚句のやうだ。』

とその友達の大運といふ若い教員が云つた。

『はつはつは、これは酷い。どうも……』

森本老人はまた仰山な笑ひ方をした。みんなもまた一緒に笑ひ出した。そして成程さう云はれても仕方がない樣な卓子の上を、少し極り惡さうな顔附で眺めた。

三枝は誰よりも一ばん長くその分の前の皿を見詰めてゐたが、やがて顔を大運の方に向けて云つた。

『大運君は三日飯を食はなかつたことが有りますか。』

『眞逆三日はないが。』と大運は笑つた。『朝寢をしてお膳拔をしたことは何十遍だか解りません。』

その友達は直ぐ云つた。

『僕は五日食なかつた事がありますよ。腐加答兒をやつた時で、重湯ばかり飲んでゐました。』

みんなはまた一緒に笑つた。すると三枝が微笑はしながらに、かなり眞面目な顔になつて云つた。

『僕はそんなのぢやなくて、胃も腸もピン／＼してゐて、三日――ね、足掛け三日、丸二日ですがね、――食なかつた事がありました。恐らくその經驗は此處にゐらつしやる何誰もお持ちに成らないでせうが、實際それは饑じいものですよ。食られるものなら膿ッ蟠一つでも打棄らうとは思ひません。溜の中まで目を据ゑて眺めるやうに成ります。』

『ふゝゝ……』

誰か二三人が低い聲で笑つたが今度は面白さうな一同の笑ひを誘はなかつた。

『いや、實際です。饑じい時は何でも食たう御座いますからな。』

と森本老人が、誰の言葉にも相槌を打つ癖から、斯う云つた。

彼等は先程から樂い氣分に始めて少しの冷たいものを注ぎ込まれたやうに見ゐた。そしてふいと頭の雲がするやうに皆なは默つてしまつた。

三枝はまた自分の皿の上に目を落して、物を思ひ浮べるやうにニヤ／＼してゐたが、

『一つその時のことをお話しませうか。面白くもない話ですが、丁度今それを強く思ひ出しました。所謂今昔の感に堪へないと云ふやうなものです。どうも默つては居られない氣がします。――』

『謹聽、謹聽。』

大運は小聲でかう呼んだ。

『いや、是は面白い、謹聽謹聽。』

と森本老人が直ぐ續いて大きな聲で繰返して、ペチ／＼と手叩いた。皆な好奇的の眼で、しかし幾何か餘儀なくされた顔付で、三枝を見守つた。

三枝は周圍の空氣が改まつたのに少し照れたらしく見ゐた。

朝晴雪
久保田天南

うら／＼と昇る朝日の影さして遠近山に積る白雪

朝日影ゆたかに御代のゆたかさを見せてや積る富士の根の雪

謹賀新年 京城旭町一丁目 御料理 千代本 電話 長一一三五番 一三七五番

謹賀新年 京城南山町二丁目 會席御料理 西洋料理 福住 電話一三三九番

謹賀新年 京城旭町一丁目 會席御料理 梅花 電話二三四八番

謹賀新年 京城櫻井町一丁目 御料理 壽司 仕出し 瓢六 電話一五三九番

謹賀新年 京城南山町一丁目 御料理 一日園 電話一四九番

謹賀新年 京城明治町一丁目 御料理 壽司 福田家 電話一三一〇番

謹賀新年 京城旭町一丁目 會席御料理 千成 電話一五五二番

謹賀新年 京城南山町二丁目 御料理 花仙 電話長一二七〇番

謹賀新年 京城本町二丁目 御料理 月乃家 電話二二四七番

謹賀新年 京城旭町一丁目 食道樂 沖の家 電話一八六〇番

謹賀新年 京城南山町二丁目 會席御料理 大梅 電話二二〇三番

謹賀新年 京城南山町二丁目 會席御料理 竹乃家 電話二一六三番

謹賀新年 京城東四軒町（元賀六庵跡） 御料理 甘泉亭 電話二九八六番 御宴會好適、温室設備あり

謹賀新年 京城本町二丁目 御料理 花月 電話 五七番 三三〇番

謹賀新年 奉天 小西春雄

謹賀新年 奉天 中村準輔

謹賀新年 資本金壹百萬圓 株式會社奉天銀行 頭取 上田久衛 專務取締役 石田武克

謹賀新年 各地運絡輸送 馬車運搬 倉庫 長春運輸株式會社 電話四八五、五〇四、六六五番

大田電氣株式會社 京釜線大田

謹賀新年

朝鮮輕便鐵道株式會社 大邱府幸町一番地

京城南大門通 福田又京城支店 電話一二二番・電略（フ） 振替京城二一九一番

謹賀新年 京城南山町二丁目 新檢置屋一同 電話二一〇六番

謹賀新年 京城本町二丁目 京城券番置屋一同 電話一三三番 八一八番

恭賀新正

平壌櫻町 西洋料理 武藏野 電話四三四番

吉見岩吉 平壌大和町

謹賀新年 日鮮人向諸雜貨御商 平壌府城内 美馬商會 電話四六番 振替京城二六一五

平壌府大和町 文房具 和洋紙 帳簿 森岡商店 電話五四八番

謹賀新年 平壌府本町 寫眞機械 同原料 織居支店 電話三二番

謹賀新年 電氣器具同諸機械、電氣工事請負 平壌府旭町 平壌工電社 恒成錄郎 電話八二四番

平壌本町十番地 土木建築請負 和田組 電話一五番

謹賀新年 平壌府本町 織物商 白神洋行支店 電話長五〇五番

平壌旭町 村上衣服店 同 質店

土木建築請負業並に家具類 淀川商會 平壌府泉町 電話六四一番

平壌大和町 林銃砲店 電話長一八番

謹賀新年 平壌魚仲買業組合

石材製造及無煙炭販賣 加藤禎治郎 平壌泉町二十番地 電話八二二番

謹賀新年 森久支店 貿易商 淺海新太郎 平壌府南門通二丁目 電話三〇八番

平壌南門町 脇坂文鮮堂 電話長二四番

謹賀新年 麥粉菓子製造並ニ砂糖卸商 井上日韓堂 平壌府南門通 電話八二九番

陶器類卸小賣 大原商店 平壌府西門通

平壌大和町二番地 鐵鋼商 徳本平壌支店 電話長二〇番

謹賀新年 平壌菓子商同業組合

謹賀新年 土木建築請負業 中平岩藏 平壌府本町 電話九四九番

謹賀新年 土木建築請負業 橋本組 兼二浦出張所 本店長崎

謹賀新年 兼二浦 飲食店組合

謹賀新年 土木建築請負業 小川組 兼二浦 組長 小川大吉

謹賀新年 人夫供給業 鐵道運送業 千代田組 兼二浦 組長 大竹一郎

京城祐代社 角田仁三郎 兼二浦府市街

清酒醤油販賣 泉屋 兼二浦

謹賀新年 金物、機械、電氣、塗料、油類、其他工業用品商 [illegible]昇商會 黄海道兼二浦

謹賀新年 建築請負業 木下組 兼二浦出張所 主任 野本榮太郎

謹賀新年 梅野實 兼二浦

新年お芽出度う 兼二浦 松月本店 藝妓 大吉 玉吉 久公 福太郎 長太 お部 ほんた てまり 舞子 丸子 半玉 〆

謹賀新年 三菱製鐵所專屬請負業 山崎重太郎 兼二浦三菱社宅

謹賀新年 木材店 兼二浦出張所

謹賀新年 杉森鐵工所 黄海道兼二浦

果實、青物、海産物問屋 津久井商店 主任 福島由次郎 黄海道兼二浦

喪中に付き年賀欠禮仕候 平生理髪館 兼二浦

謹賀新年 朝鮮大邱府東門町 乾坤 白梅 各種酒詰 醸造元 寺田合資會社 寺田酒店 電話三四三番

謹賀新年 朝鮮酒造業大會議長 寺田善作

謹賀新年 京城太平通二ノ五八 伊藤商行京城支店 電話七一七番 本店 上海黄浦路三一號 支店及出張所 漢口 九江 廣東 香港 東京 大阪 臺北

謹賀新年 片倉組大邱製絲所

謹賀新年 朝鮮銀行大邱支店 殖産銀行大邱支店 鮮南銀行 大邱銀行 東洋拓殖會社大邱出張所

謹賀新年 綿糸布 砂糖 麥粉 阿部章二商店 京城南本町 電話二二五番

謹賀新年 仁川宮町 米穀貿易商 鳥居商行 電話長三二四番 三六番

謹賀新年 忠北堤川 柳達根 柳洪珪 柳文珪

謹賀新年 忠北陰城 鄭丙鉉 瀬戸茂一郎 近藤保利 山本担 北川清之助 小田原秀二 澁谷末松

謹賀新年 大邱府東門町 産婆 門田キク

謹賀新年 大邱府元町一丁目 石油諸商 松野隆次

謹賀新年 朝鮮石油會社代理商 スタンダード石油特約店 淺谷支店 金泉驛

謹賀新年 金泉驛 朝日洋行

謹賀新年 慶北金泉 大西政次郎

謹賀新年 金泉市場 鰹節乾物雜貨卸商 倉成商店 電話一四番

謹賀新年 金泉公立尋常小學校 教職員一同

謹賀新年 大邱府 土木建築組合

謹賀新年 大邱府南龍岡町 辯護士 從五位 堀池常作 電話二五二番

謹賀新年 大邱府大和町 醫學士 吉村剛 電話一五九番

謹賀新年 大邱府元町一丁目 伊藤呉服店 電話一五七番

謹賀新年 金泉本町 雜貨卸商 小塚商店 電話一〇二番

謹賀新年 大邱府幸町 酒類醸造業 丸三合資會社 電話三五一番 振替口座京城三八一番

謹賀新年 三井价川輕便鐵道 平安南道价川

謹賀新年 平壌電氣會社

謹賀新年 朝鮮銀行平壌支店 株式會社朝鮮殖産銀行平壌支店 東洋拓殖株式會社平壌出張所 株式會社百三十銀行平壌支店 株式會社漢城銀行平壌支店

謹賀新年 朝鮮開城南本町 元祖眞正本 特許登錄字標 高麗人蔘 販賣機關 開城人蔘商會 長電話六八番 振替京城四三四六番

謹賀新年

中外電氣株式會社全州支社

大邱驛前 邱安自働車部 營業主 金甲淳 主任 牧瀬伊左衛門 電話長三六八番

全羅南道光州 松田醸造場 電話八番

清酒 日光松の壽 燒酎並に醤油味噌

靴原料附屬品一式 製本用椅子用革 其他和洋革各種 北村皮革直輸入店 北村六太郎 京城南大門通一丁目 電話一八四六 電略イ

大阪商船株式會社 大阪海上火災保險株式會社 大同生命保險株式會社 群山代理店 電話一〇番 木材商 大澤 群山港本町 店主 大澤藤十郎 大澤商會 電話長一五四番 振替京城八六二番

菓子 糖粉 煙草 卸商 堺日進堂 大邱府元町一丁目 電話三九番 振替京城九二五番

仁川萬石町 精白米 精米業 鮮米輸移出 朝鮮物産株式會社 電話長八五〇番 九三〇番

京釜線芙江驛 各種種苗農具 肥料販賣業 運送業 取引店 忠清農林社 忠清運送社

▽新年宴會の好適所△ 鮮魚料理 清香園 北村清太郎 京城本町二丁目 電話三六一番

謹賀新年 安東縣四番通三丁目 小川鑛業所 主任 小川光三

謹賀新年 京城府漢江通一三 電話三三番 桃山印刷所

謹賀新年 人夫供給請負 諸官衙御用達 小川隼人 電話六四八番

謹賀新年 叺・筵・諸荒物類 京城府漢江通八 電話六四八番 金川商會

謹賀新年 漢方 調劑 賣藥 化粧品 京城府北米倉町 橋爪藥房

謹賀新年 京城本町四丁目監部通 電話三〇五 印刷インキ製造販賣 芹川商店 仁川海岸町三 電話七五四番 芹川漁具店

謹賀新年 京城黄金町一ノ一八〇 電三一七五番 本明雜木店

謹賀新年 全羅南道南平 全南名産煉羊羹製造元 竹田盛進堂

謹賀新年 鋼鐵亞鉛平浪板、並ニ鉄力諸細工物、屋根工事及軒樋 ストーブ煙筒販賣 一切請負 安東縣四番通五丁目 泉恒一郎 電一八二番 日正舍

謹賀新年 平壤販町券番

謹賀新年 元山旭町三 西洋料理 東洋軒 電話一〇六

謹賀新年 奉天浪速通 合名會社 滿蒙商會 代表者 森研吉

謹賀新年 安東縣市場通 達磨商會 自轉車部 電話九〇番

謹賀新年 安東縣江岸通 高見造船所

謹賀新年 私立京城女子技藝學校 井上要二

謹賀新年 平壤府山手町 御旅館 柳屋 電話長二〇六番 同 一八二〇番

謹賀新年 京城本町四丁目 植山酢造場 植山仲次郎 電話二〇七九番

謹賀新年 鐵商 京城白神洋行支店 本社 仁川本町 電話長二一五番 工場 龍山元町 電話本二一〇七番

謹賀新年 仁川病院 院長 廣瀨併二 電話一六番 電話六〇九番

謹賀新年 大田皮革株式會社 京釜線大田

謹賀新年 會席御料理 仁川東公園 八坂樓 電話三六番

謹賀新年 材木商 安東縣市場通 合資會社 石崎商店 電話一二三八番

謹賀新年 安東縣六道溝 南滿洲製材公司 事務室 電話一八四番 社宅用 一八七番

謹賀新年 朝鮮殖産銀行清州支店 北原彥治郎 小玉正一

謹賀新年 營業課目 鑛山業 船舶業 山林業 官鹽販賣 合資會社 藤井組 社長 藤井干城 本社 平安南道新安州 支店 平安南道鎮南浦三和町八十五番地 同 平安北道寧邊郡球場 同 熙川郡邑內 同 慈城郡北面 同 博川郡芦田鑛山

謹賀新年 群山港明治町 谷口旅館 電話長四六番 群山港全州通り 深川汽船株式會社代理店 各汽船元扱店 谷口回漕部 店主 谷口伊太郎 電話長四一〇番

謹賀新年 忠州運輸倉庫組合 忠州大手町

謹賀新年 鴨綠江命令航路 鴨綠江運輸株式會社 朝鮮平安北道新義州眞砂町

謹賀新年 西崎鑛業所 所主 西崎鶴太郎 鎮南浦

謹賀新年 富田合資會社 鎮南浦三和町 電話長一四〇番

謹賀新年 果實 青物問屋 平壤大和町 杉山福作商店 電話三三一番

撫順炭、九州炭 販賣 三國商會代理店 平松商店 平壤府本町 電話一六一番

平壤府大和町 金川綿店 店主 金川力松 電話三一〇番

謹賀新年 群山停車場前 中井運送店 電話六四番 振替京城三〇〇一番

謹賀新年 群山府明治町 植田義達 電話三二番

謹賀新年 群山全州通 矢野雜貨店 電話五五番

謹賀新年 安東縣江岸 足立回漕店

謹賀新年 釜山高島町 材木 青竹 輸入 石炭 問屋 木村惣五郎 電話長二二七番

謹賀新年 釜山高島和蘭南門前 材木商 薪炭 上村兼松商店 電話百七十八番

謹賀新年 青竹直輸入販賣 肥後石炭一手販賣 海産物 肥料 商 釜山和蘭南門通 三谷隆古商店 電話一二二番

謹賀新年 全羅南道榮山浦 米穀 繩叺 雜貨商 三木熊次郎

謹賀新年 全羅南道南平 銘酒 里の鶴 丸越酒造場

謹賀新年 仁川教育俱樂部員一同

謹賀新年 仁川寺町 久木田病院 電話七〇四番

謹賀新年 仁川 瓢館 新田又平 電話四一〇番

謹賀新年 仁川宮町 履物卸商 村上本店 電話六二二番

賀正 忠北清州出張所 眞鍋國之助 神田五次郎 小今井二郎 有馬高雄 明石要 藤井五郎

謹賀新年 忠北陰城 川島謙一

謹賀新年 忠北清州 御旅館 加藤旅館

謹賀新年 忠北槐山 金思元

謹賀新年 忠北槐山郵便局 青屋盛泰

謹賀新年 忠北淸州市場 綿布商 謙興德

謹賀新年 忠北淸州本町局前 御旅館 淸州館

パン各種ビスケット 洋菓子干菓子類 木村屋支店 平壤府大和町

謹賀新年 朝鮮平壤大和町 株式會社 桑田平壤支店 電話長一六三・八五一番 電略(ク) 振替京城四九七

謹賀新年 忠北淸州 警察署 李聖根

謹賀新年 忠清北道 淸州郡守 山崎駿二

謹賀新年 忠北淸州本町 御旅館 明治館

謹賀新年 忠北陰城 雜貨商 自轉車 古道商店

謹賀新年 忠北陰城 御旅館 邑內館 邑內代書業 武藤理吉郎

謹賀新年 忠北槐山公立普通學校 田邊英彥

謹賀新年 忠北槐山公立小學校 堀唯一

謹賀新年 大豆、豆粕、豆油、木材 其他滿鮮特産物取扱業 安東縣新市街 三河商會 主任 張隣楠 信託 銀市 仲買 金銀 貨幣 両替 三河錢莊 電話二八番 電略ミヌハミカワ

謹賀新年 舊年中は種々御引立を蒙り難有奉鳴謝候尙本年も不相變御愛顧之程奉希上候 一月元旦 千島正宗支店 宮田宗一郎 仁川港

賀正 綿糸布、諸織物 萬雜貨 直輸入卸 鬼頭本店 仁川內里 電話長六八番 振替京城六六番 電略キヌハキト 支店 京城 平壤 鎮南浦 大阪

賀正 燐寸及軸木製造販賣 木材賣買及製材業 吉林燐寸株式會社 本店 滿洲吉林昌邑屯 電話二五八番 支店 滿洲長春頭道溝 電話四壹〇番

群山輸入商 謹賀新年 高瀬合名會社支店 横山商店 中柴商店 不二商業株式會社支店 福田又支店 檜垣商店 弘津商店

謹賀新年 滿鐵安東電燈營業所 電話二五五番

賀正 滿鐵撫順炭特約販賣所 阿波國共同汽船會社仁川代理店 其他一般船舶代理業 仁川本町四丁目 野口商會 電話一七三番 同 港町(稅關前) 回漕部 電話七五〇番

京城黄金町三丁目六七 三義和支店

精肉商 三義和本店 丁鴻賓 京城明治町一丁目 電話一九七四番

謹賀新年

謹賀新年 仁川金物船具組合 (いろは順)
仁川本町三丁目 德本商店 電話長四二七番
仁川海岸町一丁目 加來商店 振替口座京城三六四番 電話長七番
仁川本町一丁目 村谷吉藏本店 振替口座京城二六〇番 電話長五六番
仁川本町一丁目 村谷勘一商店 振替口座京城五九番 電話一二〇番
仁川新町一丁目 美濃谷榮次郎商店 振替口座京城六二番 電話長一八番
仁川本町四丁目 白神洋行 振替口座京城八三番 電話長一六番 振替口座京城九二七番

謹賀新年 黒鉛業 安田豊次 平北新義州

謹賀新年 平北新義州 三共製材所 主任 山田新助 電話四四番

雜貨、文具、石炭 名新聞取次販賣 有門商店 朝鮮平北宣川本町 振替京城一七四八番

硝子、金物、黒鉛用金網商 今津商店 平北宣川本町

謹賀新年 黒鉛業 大枝幹雄 平安北道定州

朝鮮平安北道定州 山口鑛業所 下關市上田中町 同 黒鉛精煉所 所主 山口常三郎

吉田貫治 平北宣川

謹賀新年 和洋雜貨 卸小賣商 中尾洋行 平安北道定州

內國通運株式會社取引店 小高運送店 京義線宣川驛前

謹賀新年 土木建築請負 黒鉛業 小田森太郎 平北定州